

神奈川県海老名市

すぎくぼいせき
杉久保遺跡発掘調査報告書

— 第7・8次調査 —

2022

海老名市教育委員会

神奈川県海老名市

すぎくぼいせき
杉久保遺跡発掘調査報告書

— 第7・8次調査 —

2022

海老名市教育委員会

例 言

1. 本書は海老名市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書であり、杉久保遺跡（海老名市No.10遺跡）第7次、第8次調査について収録している。
2. 発掘調査は神奈川県海老名市杉久保北四丁目1903番2及び杉久保北四丁目1903番5における、ともに個人専用住宅の建設に伴う事前の記録保存調査として実施したものである。
3. 現地調査及び出土品等整理作業は平成28、29及び令和2年度に「国宝重要文化財等保存整備費補助金」、「国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金」及び「神奈川県市町村事業推進交付金」を受け、発掘調査報告書刊行にあたっては令和3年度に「国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金」及び神奈川県の「指定文化財保存修理等補助金」を受けて実施した。
3. 発掘作業から報告書刊行までの期間及び出土品等整理作業場所は次のとおりである。

発掘調査期間	第7次調査 平成29年1月11日から平成29年2月10日 第8次調査 平成29年2月6日から平成29年2月10日、 平成29年4月14日から平成29年5月29日
出土品等整理作業期間	平成29年6月1日から令和2年3月31日 (遺物洗浄及び注記、分類、図面整理) 令和2年6月18日から令和3年3月5日 (遺物実測、観察表作成、写真撮影等整理作業委託)
報告書刊行期間	令和3年4月1日から令和4年3月25日
出土品等整理作業場所	海老名市教育委員会事務局（神奈川県海老名市新田377） 有限会社アルケリサーチ（東京都板橋区中台1-47-3）

4. 発掘調査は、第7次調査は今野まりこ（海老名市教育委員会教育総務課文化財係 ～令和2年度）が担当し、向原崇英（海老名市教育委員会教育総務課文化財係 ～令和元年度）、押方みはる（海老名市教育委員会教育総務課文化財係）が補佐した。第8次調査は今野が担当し、向原が補佐した。出土品整理作業は今野が、報告書編集作業は押方、和田山千曉（海老名市教育委員会教育総務課文化財係）が担当した。
5. 整理作業のうち、出土品の整理作業、実測、遺物写真撮影は有限会社アルケリサーチに委託し、出土品注記、分類、図面整理、デジタルトレースは今野、押方の指示のもと市川由希子（海老名市教育委員会教育総務課文化財係）、園部理恵（海老名市教育委員会教育総務課文化財係）が行った。本書の執筆は今野の記録および概要報告に基づき和田山、押方が以下のとおり分担し、全体の編集は押方が行った。
押方みはる 第1章、第3、4章、第5章遺構部分、第6章
和田山千曉 第2章、第5章遺物部分
6. 写真撮影は遺構を主に今野が、遺物は有限会社アルケリサーチが行った。
7. 本書の国家座標、緯度、経度は世界測地系平面直角座標系（第Ⅺ系）を用いた。
8. 本発掘調査に係る出土品及び図面、写真等の記録類は、一括して海老名市教育委員会で保管している。

9. 本発掘調査にかかる出土品の注記については、遺跡名を「杉7」、「杉8」と記した。
- ・第7次調査中・近世2号溝状遺構は整理作業時に遺構番号を変更したため、注記はSD1となっている。
 - ・第8次調査No1調査区については現地調査時にA区と呼称したため、注記はA区となっている。
10. 本書の遺構、遺物の挿図の指示は次のとおりである。
- ・遺構（調査区）実測図の方位は真北を示し、水糸高は海拔高度を指す。
 - ・土層観察の色調は『新版標準土色帖』2001年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に準拠している。
 - ・挿図の縮尺は各図に示す。
 - ・挿図中の×は土器出土地点、●は石器出土地点を示し、数字○○-○○は図-遺物Noを示す。
11. 発掘調査及び整理作業に際し、次の諸氏、諸機関よりご協力、ご教示賜った。（順不同、敬称略）
- 寺谷和浩、樋口航、株式会社アーク・フィールドワークシステム、公益社団法人海老名市シルバー人材センター、有限会社アルケーリサーチ

目次

第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査等体制	3
第2章 遺跡概観	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	6
1. 周辺の遺跡	6
2. 杉久保遺跡調査歴	8
第3章 調査経過	12
第1節 調査区の設定と調査の方法	12
第2節 調査経過	12
第4章 基本層序	17
第5章 発見された遺構と遺物	19
第1節 第7次調査	
1. 中・近世	19
1) 溝状遺構	
2) 土坑	
3) 性格不明遺構	
2. 縄文時代	22
1) 住居跡	
2) ビット	
第2節 第8次調査	46
1. 中・近世	46
1) 溝状遺構	
2) 土坑、ビット	
2. 縄文時代	46
1) 住居跡	
2) 土坑	
3) ビット	
第6章 まとめ	91

挿図目次

第1図	調査地点位置図	4	第32図	第8次調査No2 調査区縄文時代遺構 平断面図	53
第2図	周辺地形分類図及び杉久保遺跡位置図	5	第33図	第8次調査1・2号住居跡埋堦 平断面図	57
第3図	周辺の主要な遺跡	7	第34図	第8次調査1・2号土坑平断面図	58
第4図	杉久保遺跡調査履歴図	9	第35図	第8次調査ピット断面図(1)	59
第5図	試掘調査状況図	13	第36図	第8次調査ピット断面図(2)	60
第6図	試掘調査写真	14	第37図	第8次調査ピット断面図(3)	61
第7図	調査区設定図	14	第38図	第8次調査1号住居跡出土遺物(1)	63
第8図	第7・8次調査中・近世遺構全体図	15	第39図	第8次調査1号住居跡出土遺物(2)	64
第9図	第7・8次調査縄文時代遺構全体図	16	第40図	第8次調査1号住居跡出土遺物(3)	65
第10図	基本層序	18	第41図	第8次調査1号住居跡出土遺物(4)	66
第11図	第7次調査中・近世遺構平面図	20	第42図	第8次調査1号住居跡出土遺物(5)	67
第12図	第7次調査中・近世遺構断面図	21	第43図	第8次調査2号住居跡出土遺物(1)	68
第13図	第7次調査縄文時代遺構平面・ 遺物出土状況図	24	第44図	第8次調査2号住居跡出土遺物(2)	69
第14図	第7次調査土層断面図	25	第45図	第8次調査2号住居跡出土遺物(3)	70
第15図	第7次調査2号住居跡埋堦平断面図	26	第46図	第8次調査3号住居跡出土遺物(1)	71
第16図	第7次調査ピット断面図(1)	27	第47図	第8次調査3号住居跡出土遺物(2)	72
第17図	第7次調査ピット断面図(2)	28	第48図	第8次調査3号住居跡(3)・土坑・ ピット出土遺物	73
第18図	第7次調査1号住居跡出土遺物(1)	29	第49図	第8次調査遺構外出土遺物(1)	74
第19図	第7次調査1号住居跡出土遺物(2)	30	第50図	第8次調査遺構外出土遺物(2)	75
第20図	第7次調査1号住居跡出土遺物(3)	31	第51図	第8次調査遺構外出土遺物(3)	76
第21図	第7次調査1号住居跡出土遺物(4)	32	第52図	第8次調査遺構外出土遺物(4)	77
第22図	第7次調査1号住居跡出土遺物(5)	33	第53図	第8次調査遺構外出土遺物(5)	78
第23図	第7次調査2号住居跡出土遺物	34	第54図	第8次調査遺構外出土遺物(6)	79
第24図	第7次調査ピット・溝状遺構出土遺物	35	第55図	第8次調査遺構外出土遺物(7)	80
第25図	第7次調査遺構外出土遺物(1)	36	第56図	杉久保遺跡中世溝状遺構全体図	93
第26図	第7次調査遺構外出土遺物(2)	37	第57図	杉久保遺跡第1次調査縄文時代 集落展開図	94
第27図	第7次調査遺構外出土遺物(3)	38	第58図	第7・8次調査 縄文時代主要遺構・出土土器図	95
第28図	第7次調査遺構外出土遺物(4)	39			
第29図	第7次調査遺構外出土遺物(5)	40			
第30図	第8次調査No2 調査区中・近世遺構 平断面図	47			
第31図	第8次調査No1 調査区縄文時代遺構 平断面図	52			

目 次

第1表	発掘調査に係る調整及び届出等の文書	2	第12表	第8次調査縄文時代土器観察表(1)	81
第2表	杉久保遺跡調査歴一覧	10	第13表	第8次調査縄文時代土器観察表(2)	82
第3表	第7次調査縄文時代ピット計測表	26	第14表	第8次調査縄文時代土器観察表(3)	83
第5表	第7次調査縄文時代土器観察表(1)	41	第15表	第8次調査縄文時代土器観察表(4)	84
第6表	第7次調査縄文時代土器観察表(2)	42	第16表	第8次調査縄文時代土器観察表(5)	85
第7表	第7次調査縄文時代土器観察表(3)	43	第17表	第8次調査縄文時代土器観察表(6)	86
第8表	第7次調査縄文時代土器観察表(4)	44	第18表	第8次調査縄文時代土器観察表(7)	87
第9表	第7次調査縄文時代土器観察表(5)	45	第19表	第8次調査縄文時代土器観察表(8)	88
第10表	第7次調査縄文時代石器観察表	45	第20表	第8次調査縄文時代土器観察表(9)	89
第11表	第8次調査縄文時代ピット計測表	62	第21表	第8次調査縄文時代石器観察表	90

写真図版目次

写真図版表紙	第8次調査風景	写真図版7	1. 2号住居跡埋没炉(北から)
写真図版1	調査地点周辺空撮		2. 2号住居跡確認状況(東から)
写真図版2	1. 昭和31(1956)年 杉久保遺跡周辺 空撮(国土地理院所蔵)		3. 2号住居跡遺物出土状況(南から)
	2. 第7次調査地点調査前近景(北から)		4. 2号住居跡掘り方、土層堆積状況 (北から)
写真図版3	1. 1・2号溝状遺構(北から)		5. 風倒木痕(東から)
	2. 1・2号溝状遺構(南から)	写真図版8	1. 調査区東壁、風倒木痕土層堆積状況 (西から)
	3. 2号溝状遺構ピット調査状況 (東から)		2. 縄文時代ピット完掘状況全景 (北から)
	4. 2号溝状遺構土層堆積状況(北から)	写真図版9	第7次調査1号住居跡出土遺物(1)
	5. 1・2号溝状遺構土層堆積状況 (北から)	写真図版10	第7次調査1号住居跡出土遺物(2)
写真図版4	1. 1号土坑(南から)	写真図版11	第7次調査1号住居跡出土遺物(3)
	2. 2号土坑土層堆積状況(西から)	写真図版12	第7次調査1号住居跡出土遺物(4)
	3. 1号住居跡遺物出土状況(南東から)		第7次調査2号住居跡出土遺物
写真図版5	1. 1号住居跡遺物出土状況(南西から)	写真図版13	第7次調査ピット出土遺物
	2. 1号住居跡遺物出土状況(南から)		第7次調査2号溝状遺構出土遺物
写真図版6	1. 1号住居跡付近ピット確認状況 (南から)	写真図版14	第7次調査遺構外出土遺物(1)
	2. 1号住居跡完掘状況(南から)	写真図版15	第7次調査遺構外出土遺物(2)
		写真図版16	第7次調査遺構外出土遺物(3)
		写真図版17	第7次調査遺構外出土遺物(4)
			第7次調査遺構外出土遺物(5)

写真図版18	1. 第8次調査No1調査区近景(西から) 2. No1調査区調査状況(西から) 3. 3号住居跡埋甕(南から) 4. No1調査区東側遺構(4号住居跡 確認状況) 5. 3号住居跡遺物出土状況(南から)	写真図版23	1. 1号土坑(東から) 2. 1号土坑遺物出土状況 3. 1号土坑完掘(西から) 4. 2号土坑(西から) 5. 縄文時代ビット完掘状況(東から)
写真図版19	1. 第8次調査No2調査区近景(南西から) 2. 2号溝状遺構調査状況(南から)	写真図版24	第8次調査1号住居跡出土遺物(1)
写真図版20	1. 中・近世1号土坑、ビット(南から) 2. 1号住居跡遺物出土状況(北から) 3. 1号住居跡埋甕(南から) 4. 1号住居跡石器出土状況 5. 1号住居跡完掘状況(東から)	写真図版25	第8次調査1号住居跡出土遺物(2)
写真図版21	1. 2号住居跡埋甕調査状況(南から) 2. 2号住居跡埋甕(南から) 3. 2号住居跡炭化物出土状況(南から) 4. 2号住居跡出土土器 5. 2号住居跡土層堆積状況(西から)	写真図版26	第8次調査1号住居跡出土遺物(3)
写真図版22	1. 2号住居跡完掘状況(南東から) 2. 2号住居跡推定入口施設付近完掘 状況(西から)	写真図版27	第8次調査1号住居跡出土遺物(4)
		写真図版28	第8次調査2号住居跡出土遺物(2)
		写真図版29	第8次調査2号住居跡出土遺物(3) 第8次調査ビット出土遺物 第8次調査3号住居跡出土遺物(1)
		写真図版30	第8次調査3号住居跡出土遺物(2) 第8次調査1号土坑出土遺物
		写真図版31	第8次調査遺構外出土遺物(1)
		写真図版32	第8次調査遺構外出土遺物(2)
		写真図版33	第8次調査遺構外出土遺物(3)
		写真図版34	第8次調査遺構外出土遺物(4)
		写真図版35	第8次調査遺構外出土遺物(5)

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯（第1表）

杉久保遺跡第7次調査、第8次調査はともに個人専用住宅建設に伴うものであるが、今回の住宅建築の計画以前の平成27年度に、当該区域において切土を伴う宅地造成計画が予定され、埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。このことから平成28（2016）年4月25、26日に海老名市教育委員会（以下、「市教委」という。）で試掘調査を実施したところ、設定した試掘坑4か所から、縄文時代のピットおよび遺構覆土、縄文土器が多数出土した。この結果を受け、その後この宅地造成の事業計画は中止され、造成は行わず、個人専用住宅敷地として販売された。

その後、敷地南側の杉久保北四丁目1903番2において個人専用住宅が建設されることとなり、平成28（2016）年12月12日付けで、事業主から市教委に対して同地における埋蔵文化財の試掘調査に関する照会があった。市教委は計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地海老名市Na10遺跡（杉久保遺跡）に該当し、また当該地は既に試掘調査により、埋蔵文化財が存在することが確認されていることから、住宅建設に伴って行われる駐車場切土部分について、「神奈川県内における開発事業等に伴う埋蔵文化財の取扱基準 別表1（1）」に該当し、本格調査を要する旨回答した。

平成28（2016）年12月12日、事業者より文化財保護法第93条に基づく土木工事の届出がなされ、同年12月22日付けで神奈川県教育委員会より事業者に本発掘調査についての通知がなされたことから、文化財保護法第99条に基づき杉久保遺跡第7次調査として市教委が発掘調査を行うこととなった。調査範囲は駐車場切土部分とし、本発掘調査は平成29（2017）年1月11日から2月10日にかけて実施した。住宅部分については、建物基礎の掘削が浅く、埋蔵文化財に影響を与える恐れはないと判断し、地中に保存することとなった。

また、敷地北側の杉久保北四丁目1903番5においても個人専用住宅が建設されることとなり、平成29（2017）年1月6日付けで事業者から市教委に対して同地における埋蔵文化財の試掘調査に関する照会があった。市教委は計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地海老名市Na10遺跡（杉久保遺跡）に該当し、また当該地は既に試掘調査により、埋蔵文化財が存在することが確認されていることから、住宅の深基礎部分と住宅建設に伴って行われる駐車場切土部分について、「神奈川県内における開発事業等に伴う埋蔵文化財の取扱基準 別表1（1）」に該当し、本発掘調査を要する旨回答した。平成29（2017）年1月13日、事業者より文化財保護法第93条に基づく土木工事の届出がなされ、同年1月20日付けで神奈川県教育委員会より事業者の本発掘調査についての通知がなされたことから、文化財保護法第99条に基づき市教委が発掘調査を行うこととした。

発掘調査はまず、計画建物の深基礎掘削範囲を行うこととし、平成29（2017）年2月6日から2月10日にかけて実施した。調査深度は建物基礎の掘削にあわせ、埋蔵文化財に影響を

与える、現状地盤から深さ1.2mまでとし、深基礎部分以外の基礎掘削は埋蔵文化財に影響を与える恐れはないと判断し、地中に保存することとした。その後、駐車場切土部分については同年4月14日から5月29日にかけて調査を実施した。

第1表 発掘調査に係る調整及び届出等の文書

文書種類・内容	文書番号	日付	発信者	受信者	備考
1 埋蔵文化財所在有無の確認					
埋蔵文化財試験調査に関する照会		平成28年3月29日	事業者	海老名市教育委員会教育長	
同回答	海教総収第388号	平成28年3月31日	海老名市教育委員会教育長	事業者	
2 試験調査					
試験調査の依頼		平成28年3月29日	事業者	海老名市教育委員会教育長	
調査結果に基づく回答	海教総発第11号	平成28年5月10日	海老名市教育委員会教育長	事業者	
3 出土品の手引き(試験調査)					
埋蔵物発見届		平成28年5月9日	海老名市教育委員会教育長	海老名警察署長	
出土文化財保管証		平成28年5月9日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
埋蔵物の文化財認定と帰属について	文書第52014号	平成28年5月25日	神奈川県教育委員会教育長	事業者	海老名市教育委員会を経由
出土文化財の譲与について(申出)	文書第784号	平成29年3月3日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について(回答)	海教総収第629号	平成29年3月15日	海老名市教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について(通知)	文書第73号	平成29年4月26日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	
4 文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財発掘届の届出(第7次調査)					
届出		平成28年12月12日	事業者	神奈川県教育委員会教育長	
届出	文書第61083号	平成28年12月22日	神奈川県教育委員会教育長	事業者	
5 出土品の手続き(第7次調査)					
埋蔵物発見届		平成29年2月22日	海老名市教育委員会教育長	海老名警察署長	
出土文化財保管証		平成29年2月22日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
埋蔵物の文化財認定と帰属について	文書第51034号	平成29年2月28日	神奈川県教育委員会教育長	事業者	海老名市教育委員会を経由
6 文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財発掘届の届出(第8次調査)					
届出		平成29年1月13日	事業者	神奈川県教育委員会教育長	
届出	文書第61093号	平成29年1月20日	神奈川県教育委員会教育長	事業者	
7 出土品の手続き(第8次調査①)					
埋蔵物発見届		平成29年2月22日	海老名市教育委員会教育長	海老名警察署長	
出土文化財保管証		平成28年2月22日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
埋蔵物の文化財認定と帰属について	文書第51035号	平成29年2月28日	神奈川県教育委員会教育長	事業者	
出土文化財の譲与について(申出)	文書第480号	平成29年12月12日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	7次と同通知
出土文化財の譲与について(回答)	海教総収第514号	平成29年12月21日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	7次と同通知
出土文化財の譲与について(通知)	文書第527号	平成30年1月19日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	7次と同通知
8 出土品の手続き(第8次調査②)					
埋蔵物発見届		平成29年6月1日	海老名市教育委員会教育長	海老名警察署長	
出土文化財保管証		平成29年6月1日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
埋蔵物の文化財認定と帰属について	文書第51011号	平成29年6月27日	神奈川県教育委員会教育長	事業者	
出土文化財の譲与について(申出)	文書第666号	平成30年3月2日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について(回答)	海教総収第617号	平成30年3月8日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について(通知)	文書第712号	平成30年3月22日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	

第2節 調査等体制

【発掘調査】（平成28・29年度）

海老名市教育委員会教育長 伊藤文康
教育部長 岡田尚子
教育部次長 金指太一郎
教育総務課長 吉川浩
文化財係 係長 押方みはる
担当 主査 今野まりこ
主任主事 向原崇英
臨時職員 市川由希子

【出土品整理・報告書作成】

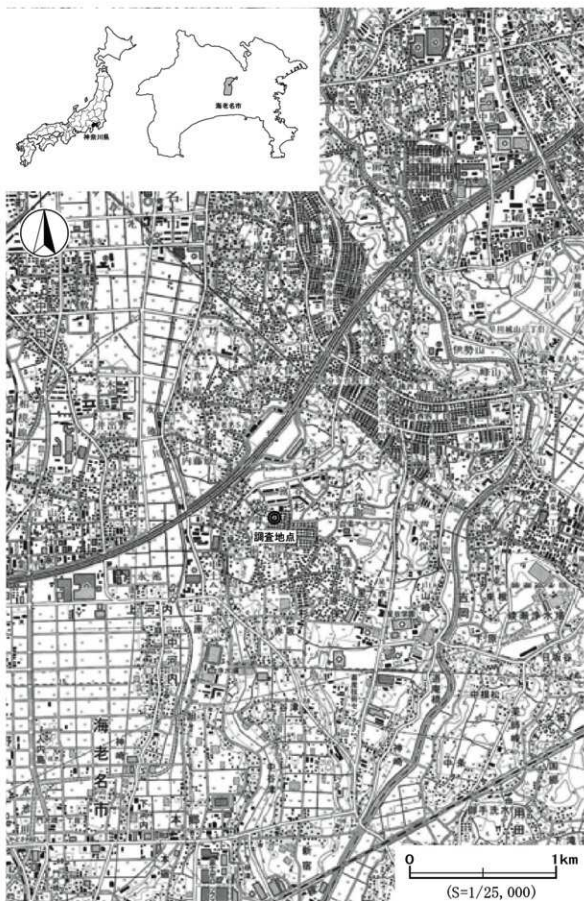
（平成30～令和3年度）

海老名市教育委員会教育長 伊藤文康
教育部長 岡田尚子（～平成31年3月末）
伊藤 修（平成31年4月～）
教育部次長 金指太一郎（～平成31年3月末）
萩原明美（平成31年4月～、
令和3年1月～教育部専任参事）
澤田英之（令和3年1月～）
教育総務課長 中込紀美子
文化財係 係長・文化財担当課長 押方みはる
担当 主査・副主幹 今野まりこ
（～令和3年3月末）
主事補 和田山千暁
（令和2年10月～）
臨時職員・会計年度任用職員
市川由希子、園部理恵

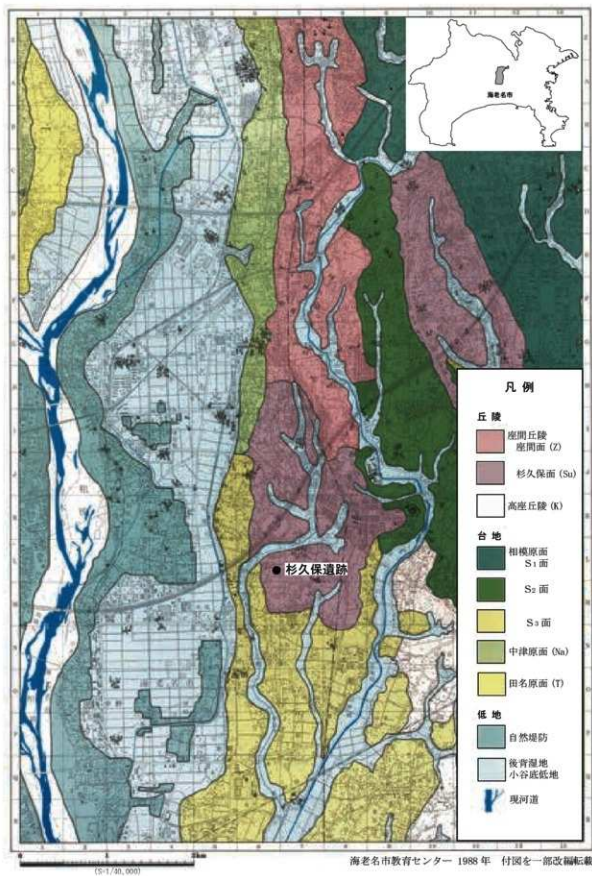
第2章 遺跡概観

第1節 地理的環境（第1、2図）

神奈川県のはほぼ中央に位置する海老名市は、相模川の左岸に存在する。市城の地形は大きく分けると、西側は相模川の浸食、堆積によって形成された沖積低地、東側は相模野台地、座間丘陵から成り立っている。杉久保遺跡は、海老名市の南東にあたり、相模鉄道、小田急小田原線海老名駅からは南南東約3km、東名高速道路海老名サービスエリア（下り線）から300mほど南にある。地形的には座間丘陵杉久保面の南端に位置するが、東方を流れる目久尻川の支流である釜坂川により、丘陵北側は大きく開析され、杉久保遺跡中心付近を頂点とした独立的な台地状を成している。丘陵頂部は平坦で、標高52mを頂点とし、四方に緩やかに傾斜する。第7次、8次調査地点は丘陵の西側にあたり、標高は47～46mを測り、西に向け緩やかに傾斜している。



第1図 調査地点位置図



第2図 周辺地形分類図及び杉久保遺跡位置図

第2節 歴史的環境

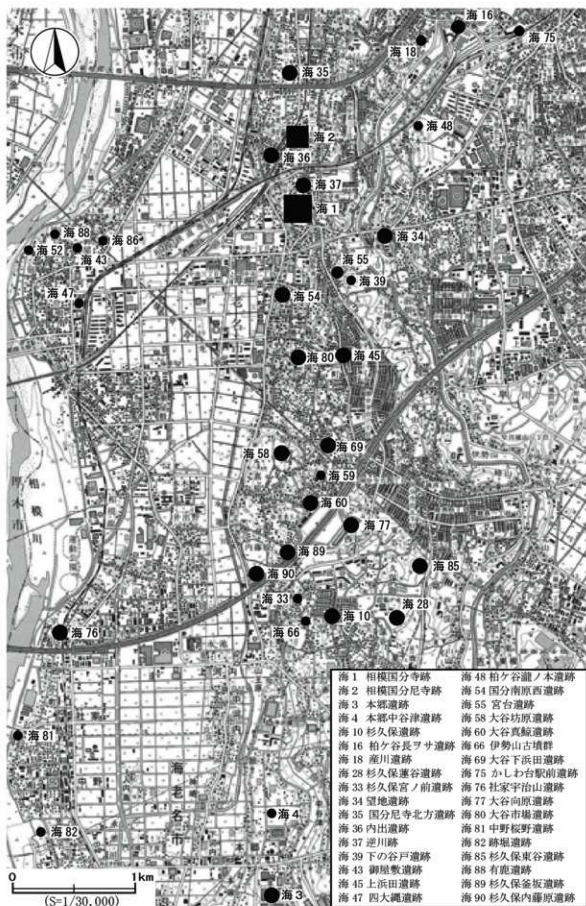
1. 周辺の遺跡 (第3図)

市域には旧石器時代から近世に至るまで各時代の遺跡が台地、丘陵、相模川河岸の自然堤防上を中心に多く確認されている。ここでは本遺跡の調査歴と、主な時代である縄文時代、並びに中・近世の遺跡について概観する。

市内の縄文時代の遺跡は、台地上に位置しており、早期から中期の遺跡が多く分布している。分布は大きく分けて3つに区分することができ、一つは北部の上今泉、産川台地区で、この地区は目久尻川上流部で三本の谷が合流する地形的変化に富んだ地点である。谷の合流地点に臨んだ台地の縁に柏ヶ谷長ヲサ遺跡(海16)、産川遺跡(海18)などを中心に遺跡が集中している。そのうち、柏ヶ谷長ヲサ遺跡では、23基の集石遺構と、小堅穴遺構8例および黒曜石群が検出されている。焼礫集積遺構は被熱を受けた破砕礫で構築され、東西約200mの台地縁辺に弧状に散在分布している。小堅穴のうち2基は落し穴状である。遺物としては滑石製腕輪状装飾品1組、滑石製垂飾り1点、早期から中期の土器片、石器が出土している。産川遺跡は、県央地域では数少ない縄文後期から晩期の遺跡である。遺構は堅穴建物跡2軒が重複して検出されたのみではあるが、遺物としては堀之内Ⅰ・Ⅱ式、加曽利BⅠ・BⅡ・BⅢ、曾屋式、安行Ⅰ・Ⅱ・Ⅲa～Ⅲd式にいたるほぼ連続した型式の土器片が出土した。東北、東関東、東海等の他地域系の土器も出土している。滑車型耳飾、石鏃等の石器、黒曜石なども出土している。上今泉中原遺跡(海21)では、中期の堅穴住居跡11軒、敷石住居跡等が検出され、中期の土器片、石器、礫が出土している。また、かしわ台駅前遺跡(海75)では、堅穴住居跡1軒、ピット9基、落し穴状土坑50基を含む土坑70基が検出された。遺物としては、前期から中期の土器片、石器が出土している。

二つ目は、中央部の大谷から杉久保にかけての一带で、釜坂川の谷が三本に分岐する地点であり、地形的に上今泉、産川台地区と共通している。大谷向原遺跡(海77)、杉久保東谷遺跡(海85)を中心に遺跡がまとまっている。大谷向原遺跡では、落し穴状土坑5基を含む土坑10基、焼礫で構成された集石1基が検出された。遺物としては撚糸文土器群の夏鳥式、稲荷台式を主体とする土器片と、石鏃等の石器が出土した。杉久保東谷遺跡では、集石2基と落し穴状土坑31基を含む土坑121基が検出された。集石遺構の覆土からは焼土、炭化物の検出はなく、また土坑壁、底面の被熱は見られなかったものの、集積された礫はすべて被熱した状態であった。遺物としては早期・中期の土器片、尖頭器等の石器、礫などが出土しているが、遺構からの出土は被熱礫のみでは包圍層からの出土である。また、杉久保東谷遺跡(海28)は、落し穴状土坑12基を含む土坑42基、炉穴7基が検出されている。遺物としては土器片、石器、焼礫と少量の黒曜石破片が出土している。土器片はほぼ早期末の条痕文土器群のなかでも前半期のものには限られる。

三つ目は、前述の二地区の中間地点である国分南～望地、浜田町周辺である。ここは前二地点と違って支谷の合流点ではなく、釜坂川の谷の最奥部と目久尻川の谷が近接している程



第3図 周辺の主要な遺跡

度ではあるが、望地遺跡（海34）、上浜田遺跡（海45）などの遺跡がまとまっている。望地遺跡では、小堅穴16基、堅穴住居跡4軒、墓坑1基が検出された。遺物としては土器片、石器、黒曜石剥片等が出土した。上浜田遺跡は、土坑、炉穴が検出された。遺物としては、VI区の土坑3基から、それぞれ滑石製塊状耳飾が対になって土坑の西端から出土した。また早期～後期にわたる土器片や石器も出土している。

中世の遺跡については、低地から台地、丘陵上と市内全域に及ぶ。著名なものとしては神奈川県指定史跡「上浜田中世建築遺構群」（上浜田遺跡）が挙げられる。丘陵東側の斜面を二段に造成、庇付掘立柱建物跡5基、井戸跡1基などが確認された。遺物としては瀬戸や常滑の瓶子、壺、舶載品の青磁や青白磁などが出土しており、鎌倉時代～室町時代の武士の屋敷とみられている。同様な屋敷跡は中野桜野遺跡（海81）、社家宇治山遺跡（海76）でも確認されている。中野桜野遺跡では、14世紀前半以降の掘立柱建物跡8棟、堅穴状遺構9条、溝状遺構22条、井戸跡17基などが確認された。中世前期に遡る陶磁器、金属製品、木製品が比較的豊富に出土しており、青磁や、白磁などの舶載磁器、嘉祐通寶なども出土した。社家宇治山遺跡では中世から近世の掘立柱建物跡56棟、堅穴状遺構39条、道状遺構4条、溝状遺構238条、井戸149基などが発見されている。溝状遺構からは、13～14世紀代の舶載磁器、13世紀後半から14世紀初頭と15世紀後半～17世紀初頭にかけての瀬戸緑釉皿、常滑片口碗などが発見されている。本郷遺跡（海3）でも小規模ながら掘立柱建物跡4基、井戸状遺構4基、土坑墓2基などが発見されている。

本遺跡にも近い杉久保蓮谷遺跡（海28）では、井戸跡1基、道状遺構1条、段切状遺構2か所、畝状遺構1箇所、溝状遺構12条、集石1基、地下室3基、土坑5基、ピット11基等が検出された。遺物としては、鉄製品、磁器、陶器、かわらけなどが出土している。杉久保内藤原遺跡（海90）では、溝状遺構1条、道状遺構3条、溝状土坑3基、土坑65基、ピット31基が検出された。遺物としては青磁碗片が1点確認されたのみである。杉久保釜坂遺跡（海89）では、溝状遺構4条、道状遺構3条、地業面1か所、畝状遺構4基、土坑52基、ピット34基が検出された。遺物としては銭貨が2点確認され、2号道状遺構から1点（腐食が激しく判別不明）、1号地業面から1点（寛永通宝）となっている。

生産遺跡としては河原口の四大縄遺跡（海47）が挙げられる。四大縄遺跡は弥生時代中期まで遡る水田耕作が示唆されるものの、水田跡で区画を伴うのは中世になってからである。水田跡や畦畔跡から、瀬戸・常滑・渥美などの国産陶磁器とともに、舶載陶器もわずかに出土している。

2. 杉久保遺跡調査歴（第4図、第2表）

杉久保遺跡では、これまで第1～6次調査と伊勢山古墳群・杉久保遺跡（杉久保第一児童公園発掘調査）調査が行われている。丘陵上平坦部、斜面及び縁辺部に縄文時代中期から後期を中心とする継続型の大集落跡が発見されている。第1次調査では、縄文時代中期住居跡246軒（勝坂式期52軒、加曾利E式期194軒）、諸磯b式土器片を伴った縄文時代前期住居跡1軒、



第4図 杉久保遺跡調査履歴図

早期炉穴、落し穴等16基、後期称名寺式期3軒、堀之内式期44軒が、第2次調査では、縄文時代中期住居跡6軒（勝坂式期1軒、加曾利E式期5軒）が検出されている。第1次調査で確認された縄文時代中期の集落跡は南側に展開しており、第2次調査の様相から、両調査区は同一の集落を構成するものと考えられる。第3次調査では東側に縄文時代住居跡1軒、中世溝状遺構1条が、また伊勢山古墳群・杉久保遺跡（杉久保第一児童公園発掘調査）では円墳2基の周溝を検出したほか、縄文時代住居跡2軒が検出されている。第4次調査では時代不明のピット4基が検出されたのみであるが、第5次調査では、縄文時代中期後半の竪穴住居跡7軒と近世の土坑8基が検出され、第6次調査では縄文時代のピットと中・近世の畠跡、土坑4基が検出された。

第2表 杉久保遺跡調査歴一覧

調査 回数	調査 年度	調査地番	目的	調査機関	内容	遺構等	主な時代	文献
1次	S55 S56 ～ S58	海老名市杉久保字富石1205-1地	上地区西整理 事業	日本史学研究所	発掘調査	縄四確認 〔近世〕溝状遺構 〔中世〕土坑、土坑 〔古墳〕竪穴墓 〔縄文〕竪穴住居跡、 土坑、集石、ピット	縄文・古墳、中世	1～3
2次	S63	海老名市杉久保中原1869-2-3、 1870-1、1878	宅地造成	海老名市杉久保中原遺跡調査団	発掘調査	〔縄文〕竪穴住居跡	縄文	4
3次	H4	海老名市杉久保1842-2	宅地造成・ 共同住宅建設	海老名市№10遺跡調査団 北川吉明	確認調査	〔中世〕溝 〔縄文〕竪穴住居跡	縄文、中世	5
—	H9	海老名市杉久保1865-1-7、1869-1	公園造成	海老名市遺跡調査会	縄四確認	〔古墳〕古墳周溝、ピット 〔縄文〕竪穴住居跡	縄文、古墳	6
4次	H9	海老名市杉久保1865-1-7、1869-1	公園造成	海老名市遺跡調査会	発掘調査	ピット	縄文	7
5次	H23	海老名市杉久保南二丁目1845-1、1848-4	宅地造成	有限会社鎌倉遺跡調査会	発掘調査	〔古墳〕土坑 〔縄文〕竪穴住居跡	縄文、近世	8
6次	H26	海老名市杉久保北二丁目1842-1及び 1842-34の1部ほか4等の1部	宅地造成	株式会社アーク・フィールドワーク システム	発掘調査	〔中・近世〕畠跡、土坑 〔縄文〕ピット	縄文、中・近世	9
7次	H28	海老名市杉久保北四丁目1903-2	個人専用住宅 建設	海老名市教育委員会	発掘調査	〔中・近世〕溝状遺構、 土坑、形状不明遺構 〔縄文時代〕住居跡、 ピット	縄文、中・近世	
8次	H28	海老名市杉久保北四丁目1903-5	個人専用住宅 建設	海老名市教育委員会	発掘調査	〔中・近世〕溝状遺構、 土坑、ピット、 〔縄文時代〕住居跡、 土坑、ピット	縄文、中・近世	

参考・引用文献

1. 河野一也ほか 1983「杉久保遺跡」日本窯業史研究所年報Ⅱ 日本窯業史研究所
2. 河野一也ほか 1984「杉久保遺跡」年報Ⅲ 日本窯業史研究所
3. 大川清 1992「杉久保遺跡Ⅰ 勝坂期」日本窯業史研究所報告第42冊 日本窯業史研究所
4. 香村紘一 1991「杉久保中原遺跡発掘調査報告書 杉久保中原遺跡」杉久保中原遺跡発掘調査団
5. 神奈川県教育委員会 1994「神奈川県埋蔵文化財調査報告」36
6. 海老名市遺跡調査会 1994「伊勢山古墳群・杉久保第一児童公園発掘調査概要」『えびなの歴史-海老名市史研究 第6号』海老名市史編集委員会編
7. 海老名市遺跡調査会 1997「杉久保遺跡発掘調査報告書」
8. 三ツ橋正夫ほか 2015「杉久保遺跡(No.10)第5次調査発掘調査報告書」(有)鎌倉遺跡調査会
9. 高杉博章 2014「杉久保遺跡発掘調査報告書-第6次調査-(株)アーク・フィールドワークシステム
10. 産川遺跡調査団 1994「海老名市産川遺跡発掘調査概報」『えびなの歴史-海老名市史研究 第6号』海老名市史編集委員会編
11. 海老名市 1998「海老名市史」1 資料編 原始・古代
12. 海老名市 1998「海老名市史」2 資料編 中世
13. 海老名市 2003「海老名市史」6 通史編 原始・古代・中世
14. 海老名市 No.47遺跡発掘調査団 1997「四大縄遺跡」
15. 海老名市 No.47遺跡発掘調査団 1998「四大縄遺跡」
16. 柏ヶ谷長ヲサ遺跡調査団 1997「柏ヶ谷長ヲサ遺跡-相模野台地における後期旧石器時代遺跡の調査-」
17. (財)かながわ考古学財団 2001「杉久保運谷遺跡 公共発生土処分場整備にともなう発掘調査」かながわ考古学財団調査報告110
18. (公財)かながわ考古学財団 2009「杉久保内藤原遺跡 杉久保内藤原横穴墓群 杉久保釜坂遺跡 -第一東海自動車道(東京~小牧)海老名SA 減速車線延伸事業に伴う発掘調査-」かながわ考古学財団調査報告235
19. (公財)かながわ考古学財団 2009「中野桜野遺跡」かながわ考古学財団調査報告231
20. (公財)かながわ考古学財団 2011「社家宇治山遺跡」かながわ考古学財団調査報告264
21. 杉久保運谷遺跡発掘調査団 1993「杉久保運谷遺跡-第1・2区の調査成果」
22. 玉川文化財研究所 2003「大谷市場遺跡発掘調査報告書」
23. 林原利明・小池 聡 1987「かしわ台駅前遺跡」
24. 海老名市教育センター 1988「海老名その大地の生い立ち」海老名市教育委員会

第3章 調査経過

第1節 調査区の設定と調査の方法

当該地は、昭和55(1980)年から昭和58(1983)年にかけて杉久保北部土地区画整理事業に伴う本発掘調査(第1次調査)が実施された区域に隣接しており、当初より縄文時代遺構の存在が予想された。

第7次・8次調査の原因となった個人専用住宅建設事業以前に計画された、宅地造成事業に伴う試掘調査では、約730㎡の事業区域に試掘坑4か所を設定し、全ての試掘坑から遺構又は遺構覆土、縄文土器の出土が確認され、当該地には当初予測されたとおり全面的に埋蔵文化財が密に存在していることが確認された(第5・6図)。

本発掘調査にあたっては、埋蔵文化財に直接影響を及ぼす範囲を調査区として設定することとし、第7次調査は敷地西側の駐車場設置のための切土部分、東西9.6×南北13.7m、第8次調査は同様に敷地西側の駐車場設置のための切土部分130㎡(第8次調査No2調査区)及び住宅の深基礎部分1×9.3m(第8次調査No1調査区)とした(第7図)。

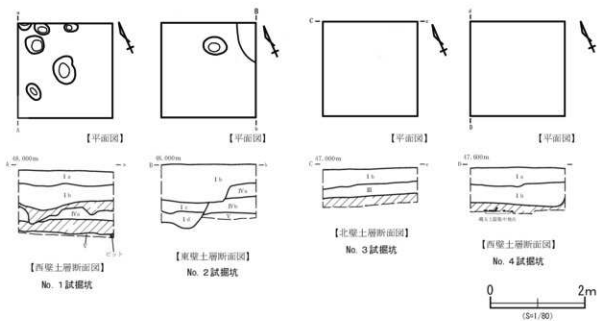
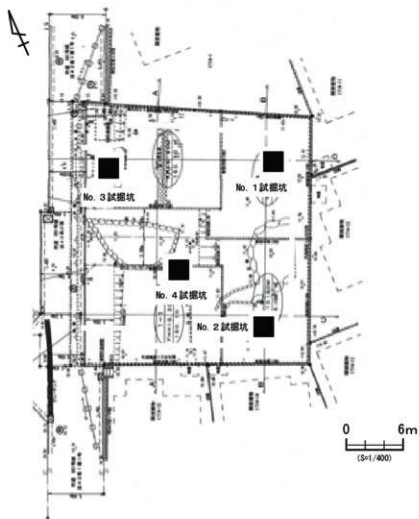
遺構番号は検出段階及び作図段階で付したが、新旧関係や本報告の図面整理段階で一部変更を行っている。遺物は遺物出土状況に応じ、遺構、層序ごとに1点ずつないし一括して取り上げた。記録図面作成は手実測と光波測距儀による3次元計測により作図を行った。

写真記録はデジタルカメラとフィルムカメラを併用し、遺構確認状況、遺物出土状況、土層堆積状況、完掘状況等を適宜撮影した。

第2節 調査経過

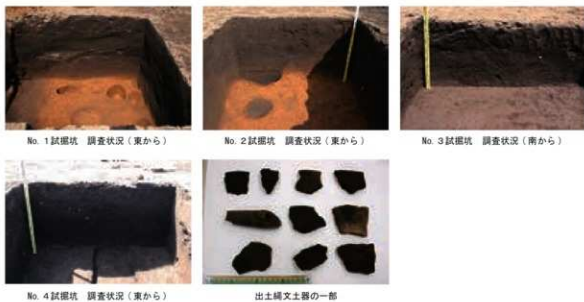
第7次調査は、平成29(2017)年1月11日から開始した。調査区は安全面を考慮し、南側既存擁壁から約1.0~1.5m、西側市道から約1mセットバックし設定した。作業は重機による表土掘削と併行し、人力による遺構確認作業を行った。表土除去を開始後、西側市道沿いに中世とみられる溝状遺構を確認、他にも近世とみられる土坑を確認し、覆土除去、記録作成を行った。その後1月23日から縄文時代遺物を包含する層を人力掘削により下げ、遺物の取り上げ、記録作成を行いながら縄文時代遺構の確認に努めた。遺構プランは黒色土(IV層)中では判別が難しく、概ね関東ローム漸移層で遺構確認を行い、覆土除去、記録作成、写真撮影を進め、2月10日に埋戻しを行い調査を終了した。最終的な調査面積は108㎡となった。

一方2月6日からは、8次調査のNo1調査区1.0×8.3mの調査区を設定し、表土掘削、遺構確認を行った。No1調査区では、基礎の影響を受ける深度1.2mまでの調査であり、埋蔵を調査、遺構確認を行った。8次調査No1調査区は西に1m拡張して調査を行った後、2月10日に埋め戻しを行い、7次調査とともに同日で一度調査を終了した。



遺構覆土 (可能性も含む)

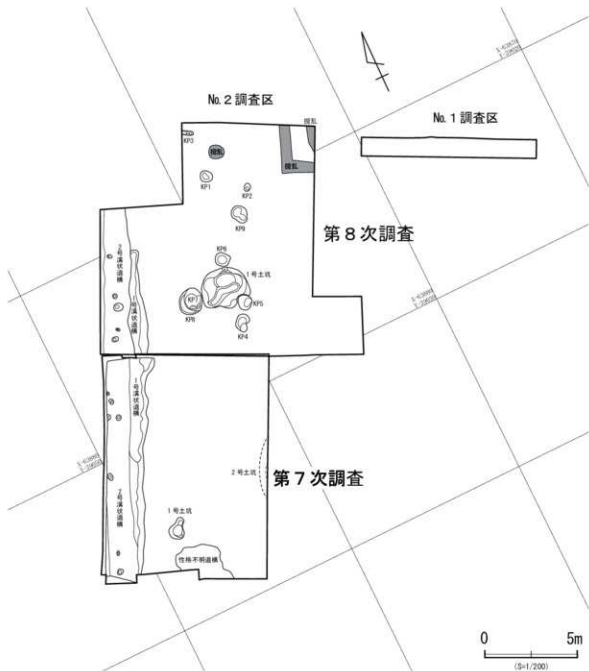
第5図 試掘調査状況図



第6図 試掘調査写真



第7図 調査区設定図



第8図 第7・8次調査中・近世遺構全体図



第9図 第7・8次調査縄文時代遺構全体図

第8次調査No2調査区は、市教委の予算及び事務の都合上、平成29年度に改めて実施することとなり、平成29（2017）年4月14日から開始した。No2調査区は駐車場切土範囲を調査区としたが、北側既存擁壁や水道管、柵等がある部分約20mは除き、また西側市道から約1mセットバックし、設定した。作業は重機による表土掘削と併行し、人力による遺構確認作業を行った。第7次調査で確認した中世とみられる溝状遺構ほか中・近世遺構の調査を行い、その後縄文時代遺物を包含する層を人力掘削により下げ、遺物の取り上げ、記録作成を行いながら縄文時代遺構の確認に努めた。遺構プランは黒色土（Ⅳ層）中では判別が難しく、概ね関東ローム漸移層で遺構確認を行い、覆土除去、記録作成、写真撮影を進め、5月29日に調査を終了した（第8・9図）。

現地での発掘調査終了後、第7次調査は平成29（2017）年3月に概要報告書の作成、第8次調査は平成30（2018）年1月に概要報告書を作成した。第8次調査終了後、令和2（2020）年3月末まで断続的に遺物洗浄、注記、図面整理を行い、令和2年度に遺物実測、観察表作成、写真撮影等出土品整理作業委託を行い、令和3年度に図版作成、原稿執筆、報告書編集作業を行い、令和4（2022）年3月に発掘調査報告書を刊行した。

第4章 基本層序

造成土Ⅰa層及び旧表土（耕作土）Ⅰb層が50～100cm程あり、部分的に旧表土に宝永火山灰層が多く混入する層があり、Ⅰc層とした。以下中・近世のⅡ層、弥生～平安時代のⅢ層の堆積が残存するものの、Ⅱ層は第8次調査区ではほとんどみられず、第7次調査区ではⅢ層は薄く、ほとんど認められなかった。それ以下は富士黒色土層のⅣ層、ローム漸移層のⅤ層、ローム層が確認されている。当該地は丘陵の西縁辺部に位置し、土層の堆積状況からも東から西へ傾斜している状況が確認された。中世遺構はⅡ、Ⅲ層を確認面とし、縄文時代の遺構はⅣ層中からⅤ層を確認面として調査を行った（第10図）。

Ⅰa層 造成土

Ⅰb層 旧表土

Ⅰc層 旧表土に宝永火山灰を多く含む。

Ⅱ層 黒褐色土（7.5YR 3/2）赤褐色、黒色、黄褐色の小スコリアをごく少量含む。

粘性やや弱い。

Ⅲa層 暗褐色土（7.5YR 3/3）赤褐色、黄褐色の中スコリアを15%含む。粘性やや弱い。

Ⅲb層 暗褐色土（7.5YR 3/3）赤褐色、黄褐色の中スコリアを10%含む。粘性やや弱い。

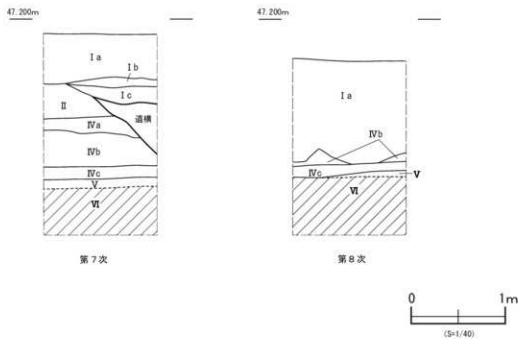
Ⅳa層 黒褐色土（7.5YR 3/1）赤褐色、黄褐色の中スコリアを5%含む。粘性しまりとも普通。Ⅳ層は富士黒色土層。

IV b層 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 赤褐色、黄褐色の小スコリアを2%含む。しまりやや強い。

IV c層 黒褐色土 (7.5YR 3/1) 赤褐色、黄褐色の極小スコリアを3%含む。しまり粘性ともやや強い。

V層 褐色土 (7.5YR 4/4) ローム漸移層。粘性やや強い。

VI層 褐色土 (7.5YR 4/4) ローム層。しまりやや強い。



第10図 基本層序

5章 発見された遺構と遺物

第1節 第7次調査

中・近世と縄文時代の遺構を確認した。中・近世の遺構としては、溝状遺構2条、土坑2基、性格不明遺構1基を検出した。縄文時代の遺構は南東壁際を中心に風倒木痕の影響により土層の乱れが見られたが、住居跡2軒、ピット54基を調査した。遺物は縄文土器、石器を主体とし、近世陶磁器もわずかに出土している。遺物の総量はコンテナ4箱で、縄文土器の総量は28,493g、石器4,652g、陶磁器40gであった。

1. 中・近世

1) 溝状遺構

1号溝状遺構 (第11、12図、写真図版3)

調査区西側において幅1～1.3m、深度約0.4mで南北方向に5.8m確認された。調査区の北側から中ほどまで確認されたが、南側までは延びてはいない。2号溝状遺構よりも新しく宝永火山灰層を含む覆土から近世の遺構と判断する。当該期の遺物は出土していない。

2号溝状遺構 (第11、12図、写真図版3)

調査区西側において、南北方向に約12m確認された。調査区内では、溝の中心から東側半分(幅1.8～2m、深度2.1m)のみの調査になり、西側半分は調査区外の現道路下面にあたる。溝底の幅は狭く、断面はV字形に近い、葉研堀状をなすものとみられ、上幅は約4mと推定される。遺構の壁面には直径10～40cmのピットが8基ほど認められたが、配置に規則性は認められない。覆土は黒褐色土で黒色・黄褐色、赤褐色のスコリアを含んでおり、中世の所産とみられる。

遺物 (第24図、第7表、写真図版13)

覆土中からは当該期の遺物は出土しておらず、縄文土器のみ出土している。土器は縄文時代中期から後期が混在するが、加曾利E式、堀之内式を主体とする。7は称名寺古段階の深鉢で、口縁部には沈線による弧状の文様。下部の文様は渦巻状になる可能性がある。10は堀之内2式の深鉢で、沈線による文様。沈線間に僅かに縄文が見られる。外面に黒色の付着物が少量見られる。13は眼鏡状の突起である。突起に僅かに刻みが見られる。

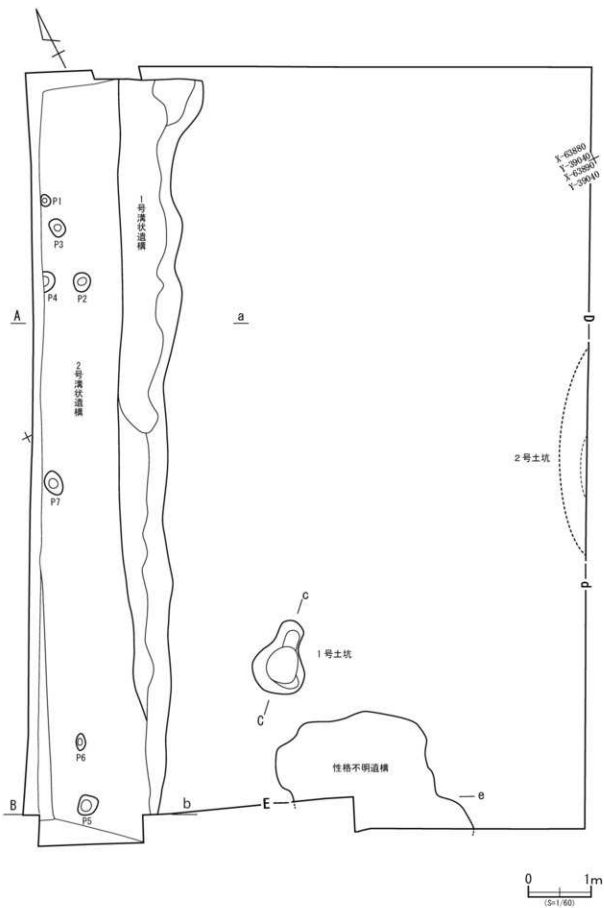
2) 土坑

1号土坑 (第11、12図、写真図版4)

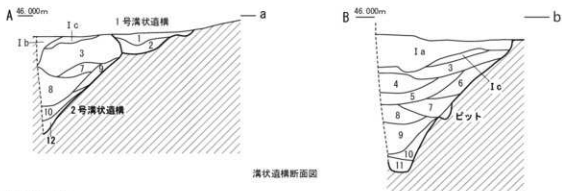
調査区中央よりやや南に位置する。覆土はしまり・粘性が弱い黒褐色土で、確認された状況から中世以降の遺構とみられる。

2号土坑 (第11、12図、写真図版4)

調査区東側壁面付近に位置する。土層断面での確認に留まり、8次調査区域の外に展開



第11図 第7次調査中・近世遺構平面図



溝状遺構断面図

【1号溝状遺構】

- 1層 黒褐色土 宝永火山灰を含む。小の黒色スコリアを5%。しまり弱く、粘性弱い。
 2層 黒褐色土 小の黒色スコリアを3%含む。しまりやや弱く、粘性弱い。

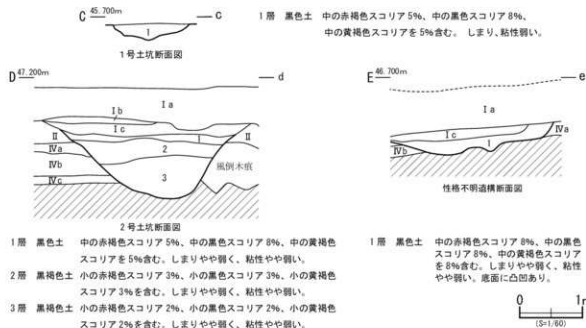
【2号溝状遺構土層説明】

- 3層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黒色スコリア3%、小の黄褐色スコリアを3%含む。
 しまり普通、粘性普通。
 4層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア1%、小の黒色スコリア1%、小の黄褐色スコリアを1%含む。
 しまり普通、粘性普通。
 5層 暗褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、小の黒色スコリア1%、極小の黄褐色スコリアを1%含む。
 しまりやや強く、粘性普通。
 6層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、極小の黒色スコリア1%、極小の黄褐色スコリアを1%含む。
 しまりやや弱く、粘性やや弱い。
 7層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黒色スコリア2%、極小の黄褐色スコリアを2%含む。
 しまりやや弱く、粘性やや弱い。
 8層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黒色スコリア3%、小の黄褐色スコリアを3%含む。
 しまり普通、粘性やや弱い。
 9層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、小の黒色スコリア3%、小の黄褐色スコリアを3%含む。
 しまりやや弱く、粘性やや弱い。
 10層 極暗褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、極小の黒色スコリア1%、極小の黄褐色スコリアを1%含む。
 しまりやや弱く、粘性やや弱い。
 11層 極暗褐色土 小の赤褐色スコリア1%、小の黒色スコリア1%、小の黄褐色スコリアを1%含む。
 しまり普通、粘性やや弱い。
 12層 暗褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、極小の黒色スコリア1%、極小の黄褐色スコリアを1%含む。
 しまり普通、粘性普通。

単位：cm

No.	長軸	深さ
P1	20	22
P2	30	35
P3	30	33
P4	32	12
P5	28	35
P6	26	20
P7	34	37

2号溝状遺構内ピット計測表



1号土坑断面図

2号土坑断面図

性格不明遺構断面図

- 1層 黒色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黒色スコリア8%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。
 2層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黒色スコリア3%、小の黄褐色スコリア3%を含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。
 3層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黒色スコリア2%、小の黄褐色スコリア2%を含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。
- 1層 黒色土 中の赤褐色スコリア8%、中の黒色スコリア8%、中の黄褐色スコリアを8%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。底面に凸凹あり。



第12図 第7次調査中・近世遺構断面図

するものとみられる。規模は不明であるが、東方向に延びる溝状遺構の端部である可能性もある。覆土はしまり、粘性の弱い黒褐色土を主体とし、上層には宝永火山灰の堆積がみられた。覆土の状況から中世～近世前期の遺構とみられる。

3) 性格不明遺構 (第11、12図)

調査区南で確認された。覆土上部に宝永火山灰を含む土層が確認されている。深さは約0.2mで、平面及び断面形態が不整形で、底面に凹凸がある。耕作痕の可能性もあるが、性格付けは不可能であった。中～近世の所産とみられる。

2. 縄文時代

1) 住居跡

平面形態を明瞭には確認できなかったものの、遺物の出土状況及び土層の炭化物含有量等から遺構を確認した。出土した遺物の時期は中期中葉から後期で、勝坂式、加曾利E式、称名寺式、堀之内式、加曾利B1式に分類される。

1号住居跡 (第13、14図、写真図版4～6)

調査区内の北側に所在し、住居跡の約半分程度が認められた。覆土は基本土層IV a、IV b層と極めて類似し、少量の炭化物を含む。北壁の土層堆積状況から、約20cmの掘り込みを持つ住居跡とみられる。炉址、壁溝は認められず、明瞭な貼床も認められなかった。調査区北壁沿いに、堀之内2式深鉢口縁から胴部(第19図27)を中心に土器片が集中して出土した。覆土上層から中層に縄文土器を多く包含する。覆土除去後、多数のピットが確認された。ピットは連結しているものもあり、主柱穴状のものは認められず、本住居跡に伴うものであるか判断できなかった。第7次調査では住居跡の形状は不明瞭ではあるが、北東-南西に長軸を持つ平面楕円形を呈するものとみられる。第7次調査で確認した規模は東西約5m、南北約3.5mである。

出土遺物から縄文時代後期堀之内式期と判断される。第8次調査No2調査区で確認された1号住居跡と同一の遺構である可能性が非常に高い。

遺物 (第18～22図、第5～7・10表、写真図版9～12)

出土した遺物は土器と石器である。土器は堀之内2式が全体量の58%を占めている。器形としては図化した101点のうち深鉢がほとんどを占め、注口土器が2点、器形不明なもの1点である。

2は勝坂式Ⅲ期の深鉢で、先端に眼鏡状突起が残り、突起から隆帯垂下し、隆帯上に稜杉状刺突文が見られる。18は堀之内1式の深鉢で、縦位沈線を施す。27～81は堀之内2式である。27は、口縁に沿う1条の隆帯が見られる。隆帯上押圧施文。8字状貼付文が5単位残存しており、欠損が見られるが元は6単位と思われる。対面に1単位ずつ配置されている。2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様がある。8字状貼付文の下は沈線が弧状に歪む。28は、内外面に文様のある突起が1単位残存。沈線による四角の文

様、上面渦巻文、内面に3つの中央に円形刺突文のある貼付文。口縁部に沿う1条の隆帯。隆帯上に浅い押圧施文。突起下に8字状貼付文があり、対面、90度右側にもみられる。胴部文様は沈線による対弧文。45～47は口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。2条1組の沈線間に縄文施文。53～59は複数の沈線による重なる菱形の文様。菱形文の周囲の沈線間に縄文施文。沈線による三角の区画内に縄文施文。80は堀之内Ⅱ期の注口土器で、沈線による三角の文様。一部縄文が見られる。95は加曾利B式の注口土器で、橋状把手。沈線による文様がある。石器1点はホルンフェンス製の打製石斧である。

2号住居跡（第13、14図、写真図版7）

調査区の南東角付近にあり、風倒木痕により遺構が大きく壊されている。東西約3.7m、南北約3mの範囲で住居跡が確認された。掘り込み、壁溝、床面は明瞭ではないが、埋甕1基が認められた。ピットは、深さのあるJP30、JP34が主柱穴の可能性はある。

埋甕は、胴部下半を欠いた勝坂式の深鉢型土器が正位の状態で埋設されていた。掘方は径65cm深さ20cmを測る。覆土には焼土が含まれている。

遺構は調査区外に展開しているものとみられ、直径4～5m程の円形の堅穴住居跡の一部にあたるものとみられる。出土遺物から縄文時代中期勝坂期の所産と判断される。

遺物（第23・24図、第7・10表、写真図版12・13）

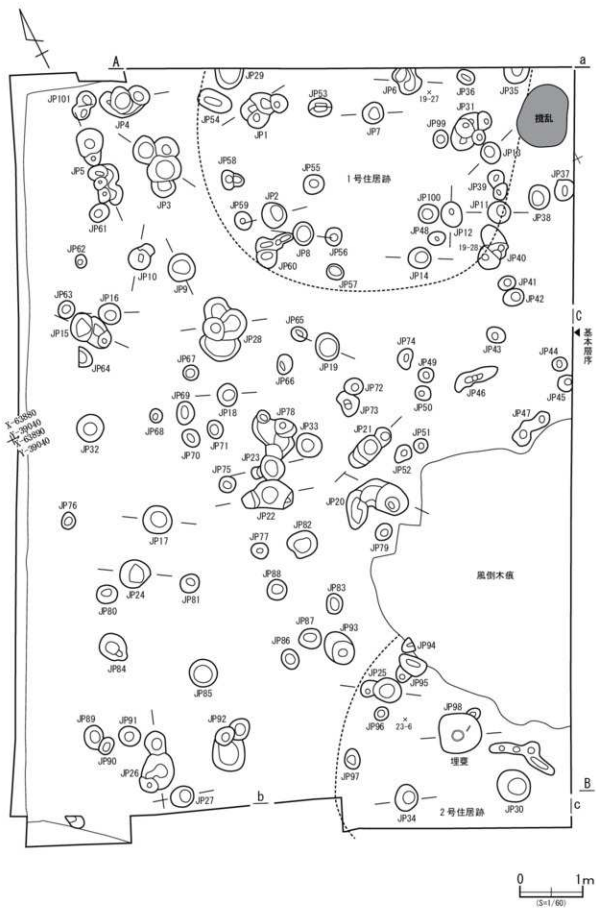
出土した遺物は土器と石器である。土器は勝坂2式が主体である。4～20は深鉢である。4は埋甕で、口縁に沿う幅広角押文、波状沈線がみられる。頸部には楕円区画が3単位残存し、欠損した区画が2単位ある。楕円区画の間からはキサミ施文の隆帯が1条ずつ垂下し、3条見られる。隆帯には幅広角押文と波状沈線が沿い、楕円区画の中央には横位の波状沈線が見られる。5は、平行沈線と隆帯による区画するパネル文。区画内は沈線を充填する区画、区画に沿ってキサミと爪形文が沿う区画が見られる。一部隆帯上に連続爪形文施文。6は、横位の沈線で区画し、区画内は斜位・縦位の沈線を充填。内側底面にはヘラ状の工具を刺したような痕跡が多数みられる。10は隆帯による区画。隆帯に沿う幅広角状の連続刺突。隆帯内部に波状沈線施文。胎土に雲母を多く含む。土製円盤の可能性もある。22は縄文中期の小形土器である。底部に網代痕はない。

石器はJP34から打製石斧（第24図1）1点が出土しているが、遺構外出土遺物として報告した石錘（第28図69）、磨石（第29図71、72）も出土位置から本住居跡に伴うものである可能性がある。

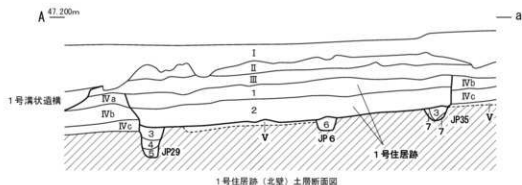
2) ピット（第16、17図、第3表、写真図版8）

101基のピットが確認された。規模は軸長14～130cm、深さは9～82cmであり、不整形なものもある。覆土は黒褐色土を主体とするものが多く、炭化物を含むものもある。配置に規則性は見いだせない。一部は住居跡に伴うものであった可能性がある。

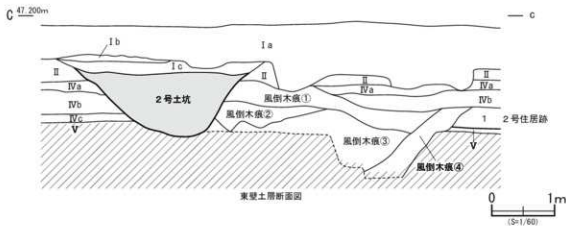
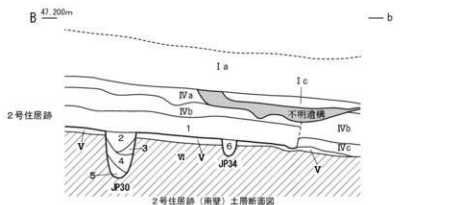
出土遺物 縄文土器の小片を伴うピットもあるが、大半は遺物を伴っていない。



第13図 第7次調査縄文時代遺構平面・遺物出土状況図



- 1層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア2%、中の黄褐色スコリアを2%含む、炭化物を含む。しまり普通、粘性やや弱い。
 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む、炭化物を含む。しまり普通、粘性普通。
 3層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黄褐色スコリアを2%含む。しまり普通、粘性普通。
 4層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、極小の黄褐色スコリアを1%含む。しまり普通、粘性普通。
 5層 褐色土 ローム粒を含む。しまり普通、粘性や強い。
 6層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黄褐色スコリアを3%含む、炭化物を含む。しまり普通、粘性普通。
 7層 褐色土 ローム粒を含む。しまり普通、粘性普通。



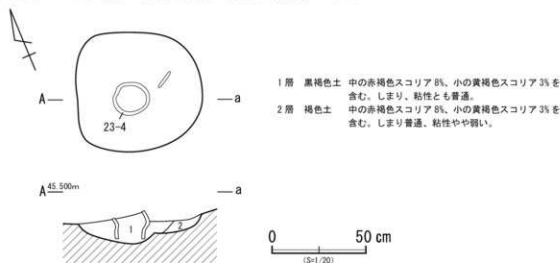
- 1層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまり普通、粘性普通。1号壁穴住居跡。縄文時代中期の遺物を多く含む。炭化物も含む。
 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。ローム粒子を含む。しまり普通、粘性普通。
 3層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む。ローム粒子を含む。しまり普通、粘性普通。
 4層 暗褐色土 ローム粒子を含む。しまりやや強く、粘性普通。
 5層 暗褐色土 ローム粒子を含む。しまりやや強く、粘性普通。
 6層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黄褐色スコリアを3%含む、炭化物を含む。しまりやや弱く、粘性普通。

- 風倒木痕① 黒褐色土 ローム粒を含む。
 風倒木痕② 褐色土 ローム粒を含む。
 風倒木痕③ 褐色土 ロームブロックを含む。
 風倒木痕④ 黒褐色土 ロームブロックを含む。

第14図 第7次調査土層断面図

3) 遺構外出土遺物 (第25~29図、第7~10表、写真図版13~17)

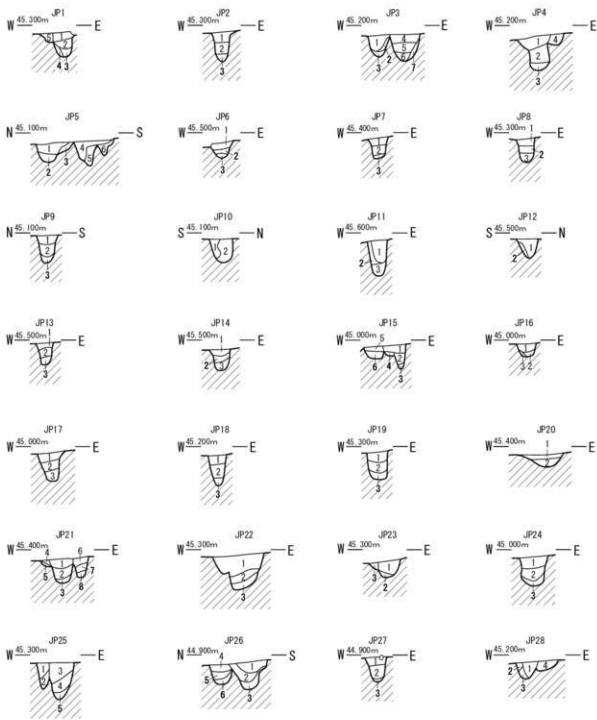
図化を行った土器が61点、石器が16点である。土器の時期は中期、勝坂式、称名寺式、堀之内式、加曾利B式である。出土比率としては勝坂式が27%、堀之内1式が26%、堀之内2式が20%である。器形としては深鉢が9割を占めるが、注口土器が4点、浅鉢が1点出土している。石器は石斧、敲石、石錐、磨石等である。



第15図 第7次調査2号住居跡埋埋断面図

第3表 第7次調査縄文時代ピット計測表

単位: cm				単位: cm				単位: cm				単位: cm			
遺構番号	長軸	短軸	深さ	遺構番号	長軸	短軸	深さ	遺構番号	長軸	短軸	深さ	遺構番号	長軸	短軸	深さ
JP1	75	54	41	JP27	37	32	42	JP53	38	30	43	JP79	30	22	24
JP2	42	40	49	JP28	100	70	30	JP54	55	30	19	JP80	32	28	19
JP3	104	55	43	JP29	46 (32)	45		JP55	30	28	11	JP81	30	28	30
JP4	80	50	60	JP30	53	50	10	JP56	28	24	23	JP82	42	42	28
JP5	130	43	42	JP31	77	55	-	JP57	28	22	27	JP83	34	26	9
JP6	44 (41)	27		JP32	44	43	-	JP58	38	30	20	JP84	52	40	32
JP7	34	34	35	JP33	40	38	23	JP59	30	24	12	JP85	46	42	17
JP8	33	32	40	JP34	41	36	82	JP60	60	52	28	JP86	32	26	17
JP9	44	43	44	JP35	40 (22)	22		JP61	30	26	19	JP87	36	34	20
JP10	45	35	38	JP36	28	22	21	JP62	20	18	19	JP88	34	30	25
JP11	36	35	56	JP37	35	32	24	JP63	28	25	32	JP89	30	25	22
JP12	40	33	30	JP38	40	32	21	JP64	30	24	9	JP90	28	18	17
JP13	33	31	35	JP39	48	24	19	JP65	26	20	33	JP91	32	32	38
JP14	36	34	35	JP40	46	23	32	JP66	32	20	26	JP92	90	50	51
JP15	69	42	40	JP41	20	18	41	JP67	25	25	22	JP93	56	40	31
JP16	35	33	25	JP42	34	24	36	JP68	22	20	20	JP94 (20)	20	20	12
JP17	46	44	49	JP43	30	22	14	JP69	38	26	21	JP95	50	48	20
JP18	36	31	50	JP44	21	21	10	JP70	30	22	17	JP96	24	20	17
JP19	44	37	47	JP45	30	28	12	JP71	32	20	34	JP97	32	22	29
JP20	97	50	22	JP46	70	22	34	JP72	30	26	7	JP98	24	18	34
JP21	82	33	42	JP47	70	24	40	JP73	40	30	30	JP99	28	22	10
JP22	82	45	58	JP48	28	22	15	JP74	30	22	15	JP100	30	30	24
JP23	54 (38)	29		JP49	24	22	18	JP75	26	24	29	JP101	48	30	25
JP24	48	44	48	JP50	28	22	16	JP76	20	14	22				
JP25	65	37	60	JP51	23	20	15	JP77	28	22	22				
JP26	93	52	48	JP52	30	22	16	JP78	80	50	17				



【JP1】

- 1 層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア2%、中の黄褐色スコリア2%を含む、炭化物を含む。しまり普通、粘性普通。
- 2 層 褐色土 ローム粒子を含む。しまり普通、粘性やや強い。
- 3 層 褐色土 ローム粒子を多く含む。しまり普通、粘性やや強い。
- 4 層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、極小の黄褐色スコリア1%を含む。しまり普通、粘性普通。
- 5 層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア5%、小の黄褐色スコリア5%を含む。しまり普通、粘性やや強い。

【JP2】

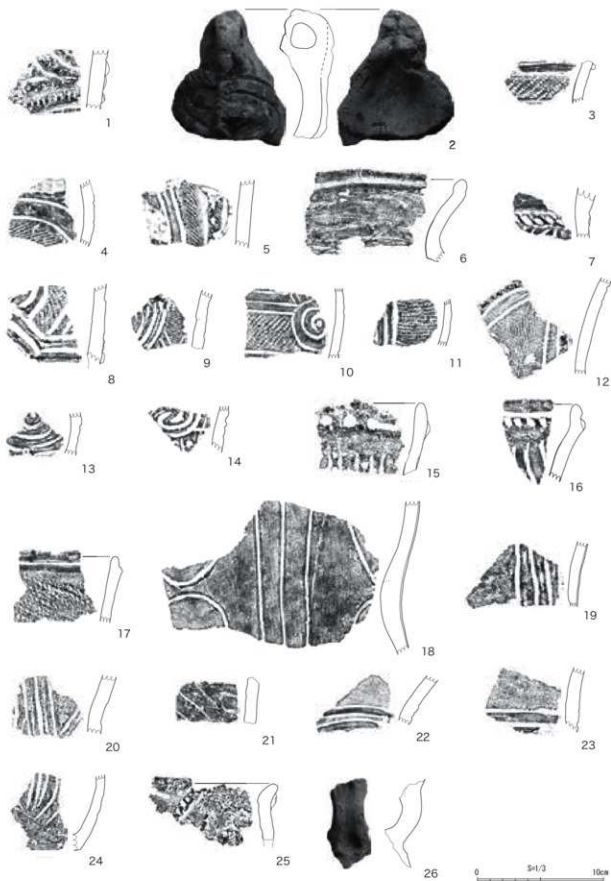
- 1 層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黄褐色スコリア2%を含む。しまり普通、粘性普通。
- 2 層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、極小の黄褐色スコリア1%を含む。しまり普通、粘性普通。
- 3 層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、極小の黄褐色スコリア1%を含む。しまり普通、粘性やや強い。

【JP3】

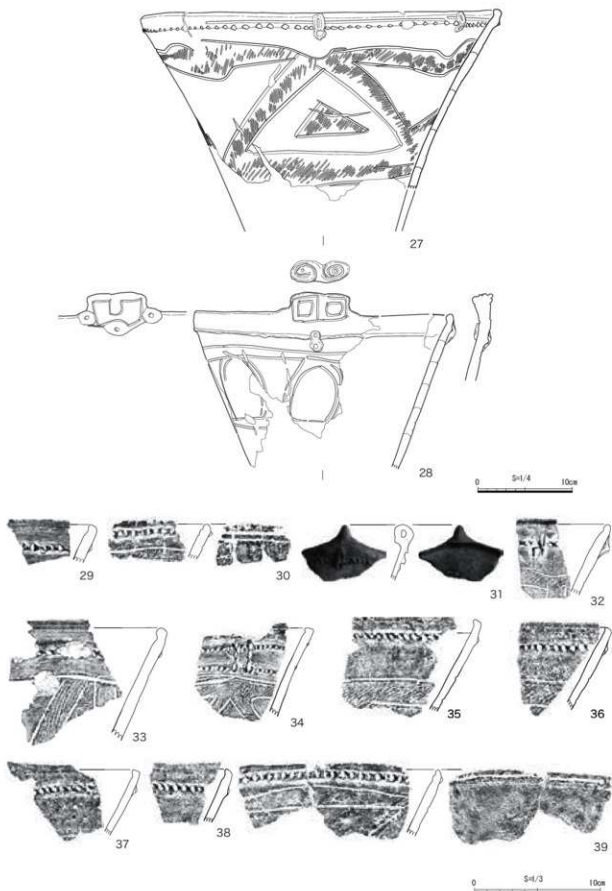
- 1 層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、極小の黄褐色スコリア1%を含む。しまり普通、粘性普通。
- 2 層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%を含む。しまり普通、粘性普通。
- 3 層 黒褐色土 しまり普通、粘性普通。
- 4 層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、極小の黄褐色スコリア1%を含む、炭化物を含む。しまり普通、粘性普通。
- 5 層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア2%、中の黄褐色スコリア2%を含む。しまり普通、粘性普通。
- 6 層 黒褐色土 しまり普通、粘性普通。
- 7 層 褐色土 ローム粒子を含む。しまり普通、粘性やや強い。



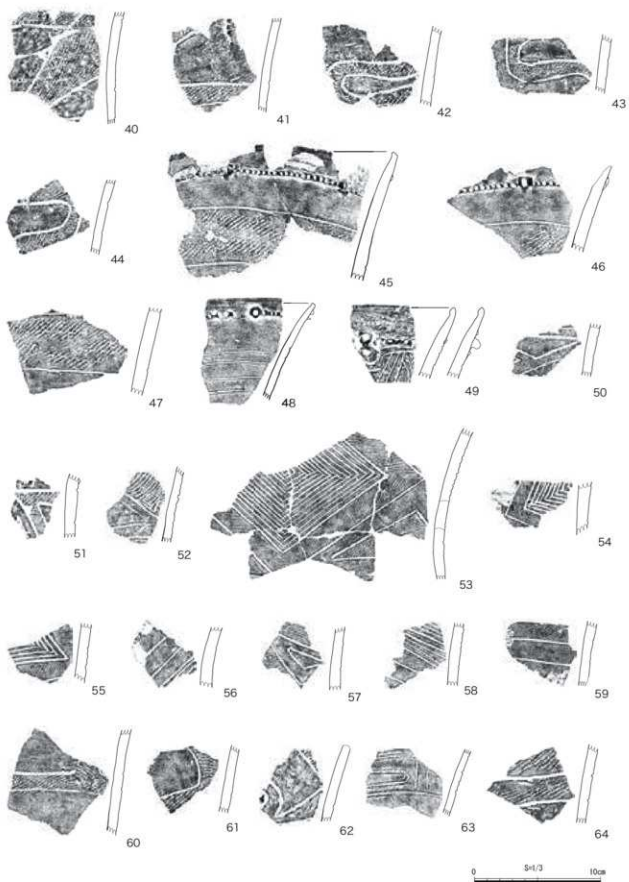
第16図 第7次調査ピット断面図 (1)



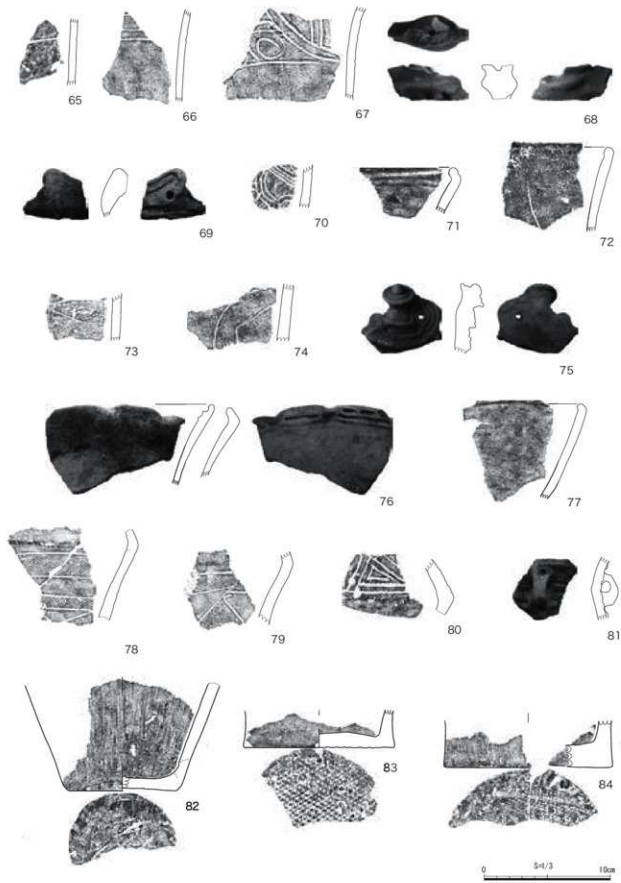
第18図 第7次調査1号住居跡出土遺物(1)



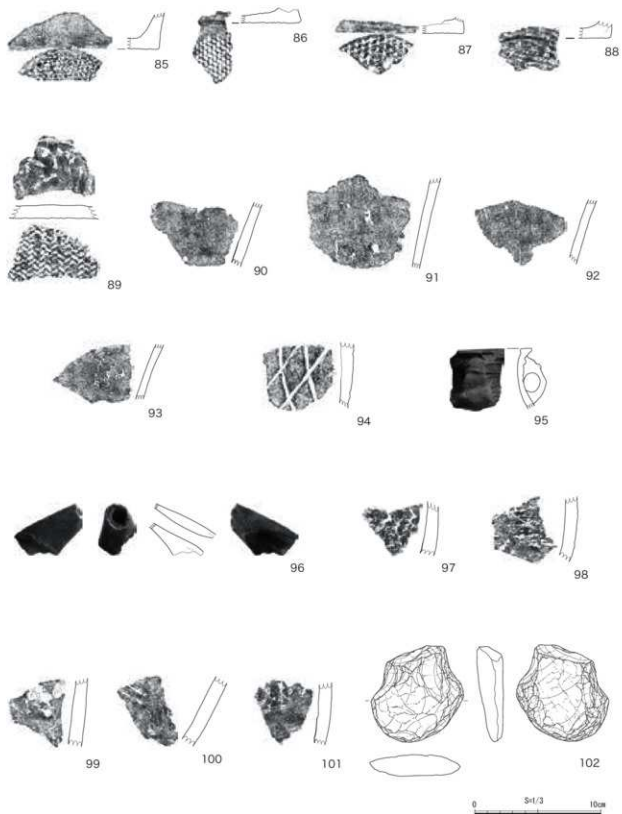
第19図 第7次調査1号住居跡出土遺物(2)



第20図 第7次調査1号住居跡出土遺物(3)



第21図 第7次調査1号住居跡出土遺物(4)

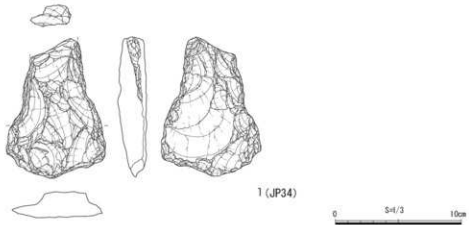


第22図 第7次調査1号住居跡出土遺物(5)

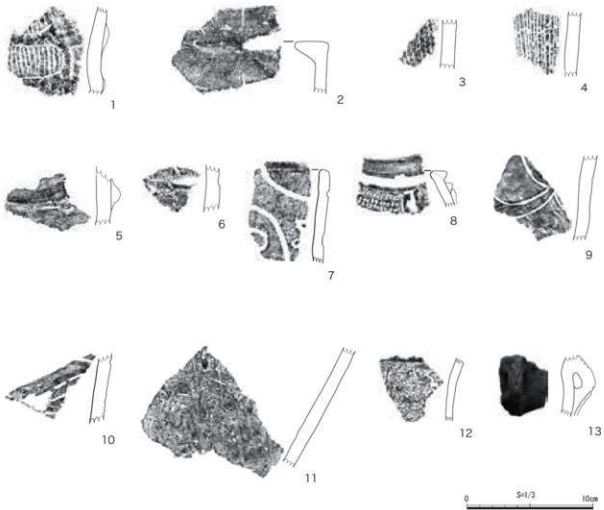


第23図 第7次調査2号住居跡出土遺物

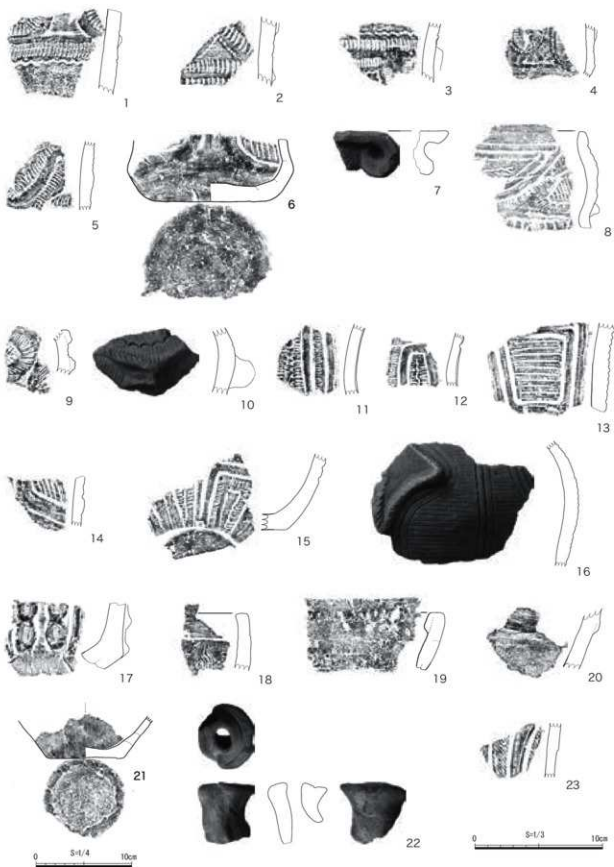
ビット



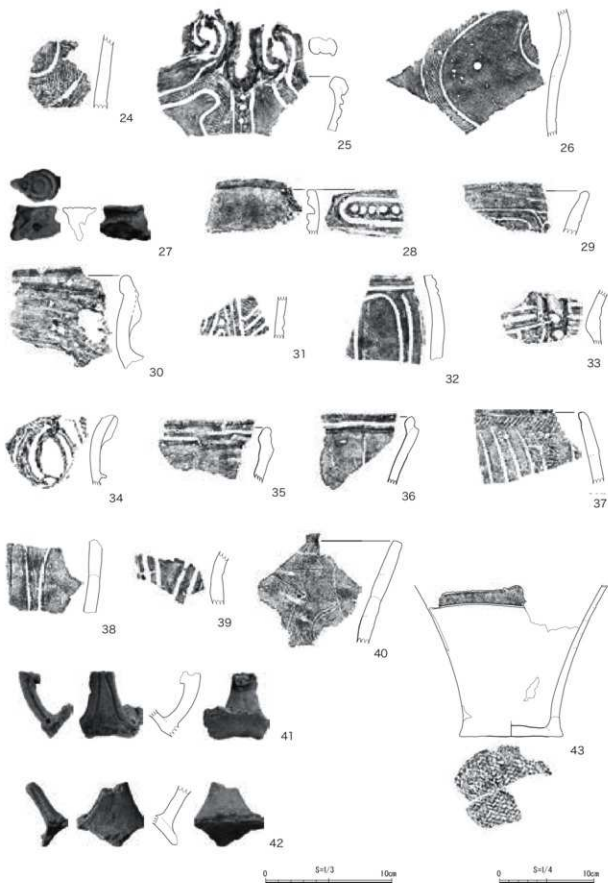
2号溝状遺構



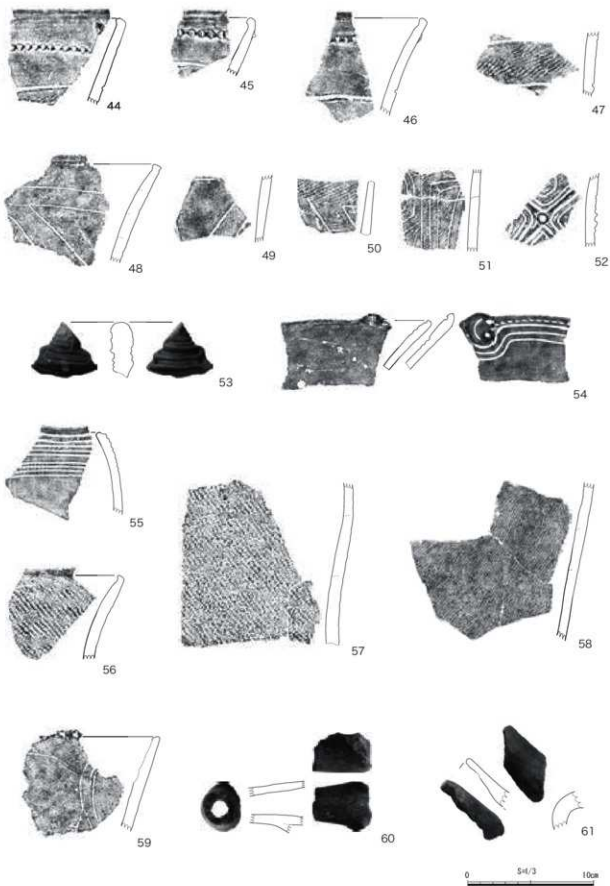
第24図 第7次調査ビット・溝状遺構出土遺物



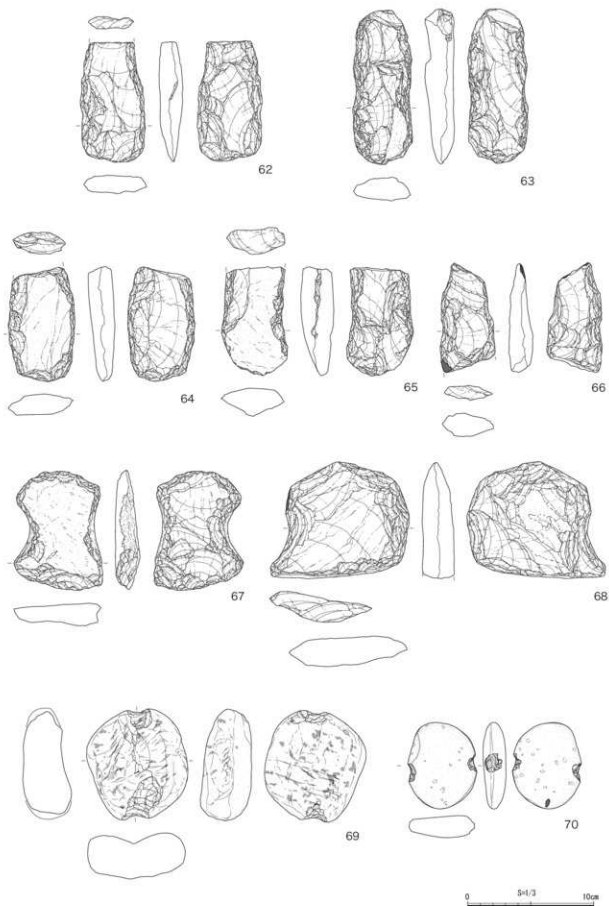
第25図 第7次調査遺構外出土遺物(1)



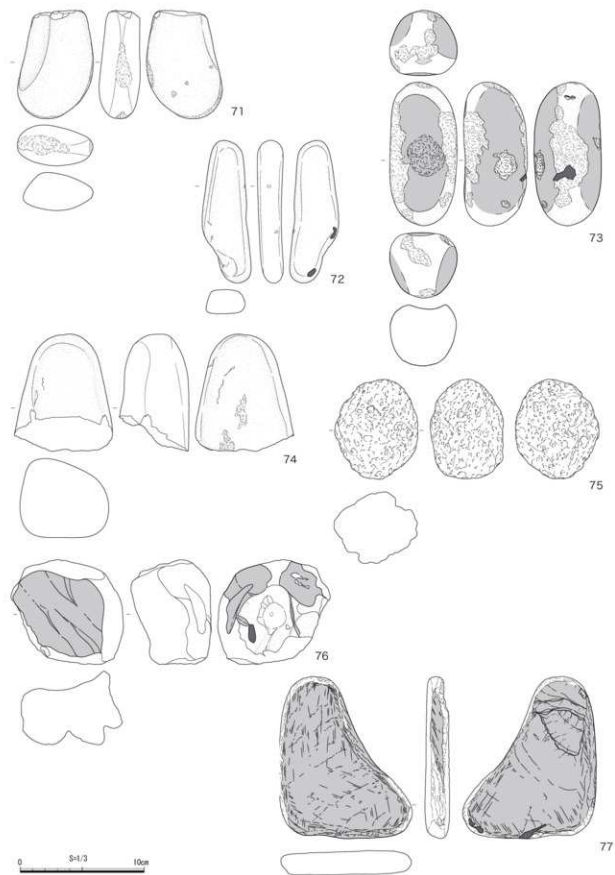
第26図 第7次調査遺構外出土遺物(2)



第27図 第7次調査遺構外出土遺物(3)



第28図 第7次調査遺構外出土遺物(4)



第29図 第7次調査遺構外出土遺物(5)

第5表 第7次調査縄文時代土器観察表(1)

図-標号	状況	出土地	調査	器種	形状	容量(リットル)	胎土	文様	備考	
18-1	柳7集中	1号区	調査区2	弥生製	-	27.3	灰白、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	磨面による磨いた内面のみ、磨面が磨面付、磨面と赤土の境界線あり	-
18-2	柳7集中	1号区	調査区3	弥生製	直	204.5	石灰、赤土、小礫	内面テラ	先施、磨面付、磨面から磨面付、磨面と赤土の境界線あり、磨面と赤土による文様	-
18-3	柳7No.1下層	1号区	調査区1	弥生製	直	20.3	灰白、赤土、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	磨面文様、磨面が磨面付1箇所あり	直線状
18-4	柳7中層	1号区	調査区1	弥生製	直	27.5	灰白、石灰、赤色砂子	内面磨いたテラ	2箇所1本の文様あり、直線状、文様、直線状	-
18-5	柳7集中	1号区	調査区1	弥生製	直	68.1	灰白、灰白石、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	磨面が磨面付、磨面付が磨面付、磨面付、直線状	直線状
18-6	柳7No.1上層	1号区	調査区1	弥生製	直	102.4	石灰、石灰、赤土、赤土、小礫	内面磨いたテラ、口縁磨いたテラ、内面磨いたテラ	内面磨いたテラ、口縁磨いたテラ	-
18-7	柳7集中	1号区	調査区1	弥生製	直	34.8	灰白、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	磨面1箇所の磨面を磨いた、磨面と赤土の境界線あり	-
18-8	柳7下層	1号区	調査区1	弥生製	直	54.8	灰白、灰白石、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	磨面文様、文様による文様	直線状
18-9	柳7下層	1号区	調査区1	弥生製	直	20.8	灰白、石灰、小礫	内面磨いたテラ	磨面付1箇所、磨面が磨面付、磨面が磨面付、磨面が磨面付	直線状
18-10	柳7集中	1号区	調査区1	弥生製	直	36.6	灰白、石灰、赤土、赤土、小礫	内面磨いたテラ	文様による磨面文様、中央に内面磨いたテラ	直線状
18-11	柳7集中	1号区	調査区1	弥生製	直	17.3	灰白、灰白石、小礫	内面磨いたテラ	磨面が磨面付、磨面が磨面付、磨面が磨面付	直線状
18-12	柳7下層	1号区	調査区1	弥生製	直	68.9	灰白、石灰、灰白石、小礫、赤土	内面磨いたテラ	磨面が磨面付、磨面が磨面付による文様、文様	直線状
18-13	柳7下層	1号区	調査区1	弥生製	直	13.6	灰白、灰白石、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	磨面が磨面付、磨面が磨面付による文様、文様	直線状
18-14	柳7下層	1号区	調査区1	弥生製	直	13.7	灰白、石灰、小礫	内面磨いたテラ	文様による磨面付の文様、3箇所、内面磨いたテラ	-
18-15	柳7集中	1号区	調査区1	弥生製	直	42.1	灰白、灰白石、小礫	内面磨いたテラ	口縁に内面磨いたテラ、磨面が磨面付による文様	直線状
18-16	柳7下層	1号区	調査区1	弥生製	直	25.8	灰白、灰白石、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状
18-17	柳7下層	1号区	調査区1	弥生製	直	33.8	灰白、石灰、灰白石	口縁磨いたテラ、内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面	直線状
18-18	柳7No.1上層	1号区	調査区1	弥生製	直	307.1	灰白、小礫	内面磨いたテラ	磨面が磨面付による文様、磨面が磨面付による文様	-
18-19	柳7下層	1号区	調査区1	弥生製	直	43.0	灰白、灰白石、小礫	内面磨いたテラ	磨面が磨面付による文様	-
18-20	柳7集中	1号区	調査区1	弥生製	直	40.2	灰白、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	磨面が磨面付による文様	磨面と赤土の境界線あり
18-21	柳7集中	1号区	調査区1	弥生製	直	21.8	灰白、灰白石、小礫、赤色砂子	内面テラ	文様による文様	-
18-22	柳7集中	1号区	調査区1	弥生製	直	29.0	灰白、石灰、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	磨面が磨面付による文様	-
18-23	柳7集中	1号区	調査区1	弥生製	直	42.6	灰白、石灰、灰白石、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	磨面が磨面付による文様	-
18-24	柳7集中	1号区	調査区1	弥生製	直	36.7	灰白、灰白石、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	磨面が磨面付による文様	-
18-25	柳7集中	1号区	調査区1	弥生製	直	36.6	灰白、赤土、灰白石、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	磨面が磨面付による文様	-
18-26	柳7中層	1号区	調査区1	弥生製	直	30.7	灰白、赤土、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	磨面が磨面付による文様	-
18-27	柳7No.1	1号区	調査区1	弥生製	直	204.6	灰白、赤土、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様、磨面が磨面付による文様	直線状
18-28	柳7No.2	1号区	調査区1	弥生製	直	490.8	灰白、石灰、赤土、小礫	内面磨いたテラ	内面磨いた1箇所の磨面、磨面が磨面付による文様、磨面が磨面付による文様	直線状
18-29	柳7中層	1号区	調査区2	弥生製	直	16.3	灰白、石灰、灰白石、小礫	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状
18-30	柳7集中	1号区	調査区2	弥生製	直	16.2	灰白、石灰、小礫	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状
18-31	柳7下層	1号区	調査区2	弥生製	直	14.8	灰白、灰白石、小礫	内面磨いたテラ	磨面が磨面付による文様、磨面が磨面付による文様	直線状
18-32	柳7中層	1号区	調査区2	弥生製	直	38.8	灰白、灰白石、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	磨面が磨面付による文様、磨面が磨面付による文様	直線状
18-33	柳7中層	1号区	調査区2	弥生製	直	67.3	灰白、赤土、石灰、小礫	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状
18-34	柳7集中	1号区	調査区2	弥生製	直	47.6	灰白、石灰、小礫	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状
18-35	柳7集中	1号区	調査区2	弥生製	直	58.9	灰白、石灰、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状
18-36	柳7集中	1号区	調査区2	弥生製	直	32.2	灰白、石灰、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状
18-37	柳7集中	1号区	調査区2	弥生製	直	27.6	灰白、石灰、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状
18-38	柳7集中	1号区	調査区2	弥生製	直	22.3	灰白、石灰、小礫、赤色砂子	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状
18-39	柳7下層	1号区	調査区2	弥生製	直	65.4	灰白、石灰、小礫	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状
18-40	柳7No.1上層	1号区	調査区2	弥生製	直	56.1	灰白、石灰、小礫	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状
18-41	柳7下層	1号区	調査区2	弥生製	直	34.9	灰白、石灰、小礫	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状
18-42	柳7下層	1号区	調査区2	弥生製	直	30.3	灰白、石灰、小礫	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状
18-43	柳7下層	1号区	調査区2	弥生製	直	36.6	灰白、石灰、小礫	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状
18-44	柳7下層	1号区	調査区2	弥生製	直	28.2	灰白、石灰、小礫	内面磨いたテラ	口縁に磨いた1本の磨面、磨面が磨面付による文様	直線状

第6表 第7次調査縄文時代土器観察表(2)

図番号	注記	遺跡名	所在地	出土層	年代	高さ	口径	底径	胎土	器名	文様	備考
20-45	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	Y152	132.0	底径、右底、内四角		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			内面に黄色の付着物や少量見られる、器蓋1つあり
20-46	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	63.6	底径、右底、内四角		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			内面に黄色の付着物や少量見られる、器蓋1つあり
20-47	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	78.9	底径、右底、内四角		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			器蓋1つあり
20-48	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	Y158	41.8	底径、右底、内四角、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			内面に黄色の付着物や少量見られる
20-49	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	Y156	21.5	底径、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
20-50	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	37.8	底径、内四角、小嘴		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
20-51	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	19.6	底径、小嘴		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
20-52	特7 No.2	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	30.0	底径、右底、内四角、小嘴		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
20-53	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	297.2	底径、右底、内四角、小嘴		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
20-54	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	28.1	底径、右底、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			20-5094-1類体
20-55	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	21.5	底径、右底、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			20-5094-1類体
20-56	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	25.3	底径、右底、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			20-5094-1類体
20-57	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	22.0	底径、右底、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			20-5094-1類体
20-58	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	27.3	底径、右底、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			20-5094-1類体
20-59	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	28.7	底径、右底、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			20-5094-1類体
20-60	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	30.3	底径、右底、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			20-5094-1類体
20-61	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	23.6	底径、右底、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			20-5094-1類体
20-62	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	27.4	底径、右底、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			20-5094-1類体
20-63	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	23.3	底径、右底、内四角		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
20-64	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	35.9	底径、右底、内四角		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
20-65	特7 No.1集片	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	11.6	底径、内四角、小嘴		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
20-66	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	22.6	底径、右底、内四角		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
20-67	特7 No.1集片	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	55.7	底径、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
20-68	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	変形品	39.1	底径、右底、小嘴		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
20-69	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	変形品	26.1	小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
21-70	特7 No.1集片	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	39.9	底径、右底、内四角		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
21-71	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	Y158	22.0	底径、右底、内四角、小嘴		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
21-72	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	Y158	39.3	底径、右底、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
21-73	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	18.6	底径、右底、内四角、小嘴		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
21-74	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	35.1	底径、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
21-75	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	変形品	46.3	底径、右底、内四角		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
21-76	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	Y158	67.4	底径、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁
21-77	特7 2区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	Y158	48.6	底径、右底、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
21-78	特7 1区	1号区	縄文2区	注目1区付一断面	-	51.7	底径、右底、内四角、小嘴		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			20-5094-1類体
21-79	特7 集中	1号区	縄文2区	注目1区付一断面	-	31.6	底径、右底、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			20-5094-1類体
21-80	特7 1区	1号区	縄文2区	注目1区付一断面	-	33.8	底径、内四角、小嘴		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
21-81	特7 集中	1号区	縄文2区	注目1区付一断面	変形品	26.6	底径、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
21-82	特7 No.1	1号区	縄文2区	遺跡1層部	平底	174.2	底径、右底、内四角、小嘴		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
21-83	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	平底	95.7	底径、内四角、小嘴		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
21-84	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	平底	100.3	底径、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
22-85	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	平底	38.9	底径、右底、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
22-86	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	平底	18.4	底径、右底、小嘴		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
22-87	特7 1区	1号区	縄文2区	遺跡1層部	平底	17.7	底径、右底、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
22-88	特7 集中	1号区	縄文2区	遺跡1層部	平底	18.2	底径、内四角、小嘴		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
22-89	特7 No.2	1号区	縄文2区	不明品	平底	41.5	底径、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			-
22-90	特7 No.1	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	30.1	底径、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			20-5094-1類体
22-91	特7 No.1	1号区	縄文2区	遺跡1層部	-	32.4	底径、内四角、小嘴、赤色粒子		外周縁に1字平、口縁に1字平の波線、器蓋上縁に文線、1線縁			20-5094-1類体

第7表 第7次調査縄文時代土器観察表(3)

図番	注記	産地	産層	産種	形状	重量(g)	胎土	文様	備考
22-92	柳7 No.1	1号位	縄文前期	球蓋形	-	27.6	灰白、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨光し、外、内面磨光し、外	-
22-93	柳7 No.1	1号位	縄文前期	球蓋形	-	21.4	灰白、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨光し、外、内面磨光し、外	-
22-94	柳7 1号	1号位	加賀川	球蓋形	-	35.3	灰白、角閃石、小礫	内面磨光し、外	-
22-95	柳7 中	1号位	加賀川	球蓋形	口縁直線付	31.5	灰白、角閃石、小礫	口縁直線付、内面磨光し、外、内面磨光し、外	-
22-96	柳7 中	1号位	加賀川	球蓋形	口縁直線付	32.1	灰白、角閃石、赤色粘土	内面磨光し、外	-
22-97	柳7 中	1号位	不明	球蓋形	-	23.8	灰白、角閃石、小礫	内面磨光し、外	-
22-98	柳7 中	1号位	不明	球蓋形	-	28.1	灰白、石灰、小礫、赤色粘土	内面磨光し、外、内面磨光し、外	-
22-99	柳7 No.1 1号	1号位	不明	球蓋形	-	26.1	灰白、石灰、赤土、小礫	内面磨光し、外、内面磨光し、外	-
22-100	柳7 No.1 1号	1号位	不明	球蓋形	-	35.0	灰白、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨光し、外、内面磨光し、外	-
22-101	柳7 No.1 1号	1号位	不明	球蓋形	-	24.2	灰白、赤土、角閃石、小礫	内面磨光し、外、内面磨光し、外	-
23-1	柳7 高麗底	2号位	柳井1	球蓋形	口縁直線付	91.0	36.1	灰白、赤土、角閃石、小礫	口縁直線付、中央部のみ磨光し、外、内面磨光し、外
23-2	柳7 高麗底	2号位	柳井1	球蓋形	-	32.7	灰白、赤土、角閃石、小礫	内面磨光し、外	-
23-3	柳7 No.6	2号位	柳井1	球蓋形	-	59.1	灰白、赤土、小礫	内面磨光し、外	-
23-4	柳7 No.2 No.6	2号位	柳井2	球蓋形	口縁直線付	91.0	115.9	灰白、赤土、赤土、角閃石、小礫、赤色粘土	口縁直線付、内面磨光し、外、内面磨光し、外
23-5	柳7 No.2 No.3	2号位	柳井2	球蓋形	口縁直線付	91.0	150.2	灰白、角閃石、小礫	口縁直線付、外
23-6	柳7 No.5	2号位	柳井2	球蓋形	口縁直線付	91.0	646.7	灰白、赤土、小礫	内面磨光し、外、内面磨光し、外
23-7	柳7 高麗底	2号位	柳井2	球蓋形	-	65.8	灰白、小礫、赤色粘土	内面磨光し、外	-
23-8	柳7 高麗底	2号位	柳井2	球蓋形	口縁直線付	91.0	54.1	灰白、角閃石、小礫	内面磨光し、外、内面磨光し、外
23-9	柳7 No.6	2号位	柳井2	球蓋形	口縁直線付	91.0	100.1	灰白、小礫	口縁直線付、内面磨光し、外、内面磨光し、外
23-10	柳7 高麗底	2号位	柳井2	球蓋形	-	32.1	灰白、石灰、赤土、小礫	内面磨光し、外	-
23-11	柳7 高麗底	2号位	柳井2	球蓋形	-	35.2	灰白、石灰、角閃石、小礫	内面磨光し、外	-
23-12	柳7 No.4	2号位	柳井2	球蓋形	口縁直線付	91.0	26.4	灰白、角閃石、小礫	内面磨光し、外
23-13	柳7 No.4	2号位	柳井2	球蓋形	口縁直線付	91.0	41.1	灰白、角閃石、角閃石、小礫	口縁直線付、内面磨光し、外、内面磨光し、外
23-14	柳7 No.4	2号位	柳井2	球蓋形	口縁直線付	91.0	32.0	灰白、小礫	口縁直線付、内面磨光し、外、内面磨光し、外
23-15	柳7 高麗底	2号位	柳井2	球蓋形	-	28.7	灰白、石灰、角閃石、小礫	内面磨光し、外	-
23-16	柳7 No.4	2号位	柳井2	球蓋形	-	12.3	灰白、小礫	内面磨光し、外	-
23-17	柳7 No.4	2号位	柳井2	球蓋形	-	11.1	灰白、小礫	内面磨光し、外	-
23-18	柳7 No.4	2号位	柳井2	球蓋形	-	33.8	灰白、角閃石、小礫	内面磨光し、外	-
23-19	柳7 No.4	2号位	柳井2	球蓋形	口縁直線付	91.0	46.1	灰白、角閃石、小礫	口縁直線付、外
23-20	柳7 高麗底	2号位	柳井2	球蓋形	-	22.8	灰白、小礫	内面磨光し、外	-
23-21	柳7 高麗底	2号位	柳井2	球蓋形	口縁直線付	91.0	22.1	灰白、小礫	口縁直線付、外
23-22	柳7 高麗底	2号位	柳井2	球蓋形	-	38.9	灰白、石灰、赤色粘土	内面磨光し、外、内面磨光し、外	-
23-23	柳7 No.5 No.5	2号位	柳井2	球蓋形	-	66.7	灰白、赤土、小礫	内面磨光し、外	-
23-24	柳7 高麗底	2号位	柳井2	球蓋形	口縁直線付	91.0	31.8	灰白、石灰、小礫	口縁直線付、外、内面磨光し、外
23-25	柳7 高麗底	2号位	柳井2	球蓋形	-	32.8	灰白、石灰、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨光し、外	-
23-26	柳7 高麗底	2号位	柳井2	球蓋形	-	26.1	灰白、石灰、小礫	内面磨光し、外	-
23-27	柳7 高麗底	2号位	柳井2	球蓋形	-	14.6	灰白、石灰、小礫、赤色粘土	内面磨光し、外	-
24-1	柳7 SD1-1 1号	2号位	柳井2	球蓋形	-	39.9	灰白、角閃石	内面磨光し、外	-
24-2	柳7 SD1-1-3 1号	2号位	柳井2	球蓋形	口縁直線付	91.0	38.0	灰白、角閃石、赤色粘土	口縁直線付、外、内面磨光し、外
24-3	柳7 SD1-1 1号	2号位	柳井2	球蓋形	-	13.4	灰白、小礫	内面磨光し、外	-
24-4	柳7 SD1-1-2 1号	2号位	柳井2	球蓋形	-	22.5	灰白、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨光し、外	-
24-5	柳7 SD1-1-2 2号	2号位	柳井2	球蓋形	-	50.4	灰白、石灰、赤土、小礫	内面磨光し、外	-
24-6	柳7 SD1-1 1号	2号位	柳井2	球蓋形	-	22.9	灰白、石灰、小礫	内面磨光し、外	-
24-7	柳7 SD1	2号位	柳井2	球蓋形	口縁直線付	91.0	42.0	灰白、石灰、角閃石、小礫	口縁直線付、外、内面磨光し、外

第8表 第7次調査縄文時代土器観察表(4)

図号・種別	形状	産地	用途	素材	形状	重量(g)	胎土	文様	備考	
21-8	柳7 SD1-1	2号鉢	麻之内1	深淵部	Y1100	27.2	灰白、角閃石、小礫	口縁部磨光せず、内面磨光せず	口縁に約1/2量の滑石、磨粒磨光から滑石・2号礫の混在を示す、滑石の解理文様	-
21-9	柳7 SD1	2号鉢	麻之内1	深淵部	-	44.1	灰白、角閃石、小礫	内面磨光せず	口縁による縦溝、沈凹による横溝の文様	-
21-10	柳7 SD1-1	2号鉢	麻之内2	深淵部	-	31.5	灰白、角閃石、小礫	内面磨光せず	口縁による縦溝、沈凹による横溝の文様	1.80000 胎土に滑石の付着 跡あり
21-11	柳7 SD1-1	2号鉢	麻之内2	深淵部	-	120.3	灰白、角閃石、角閃石、小礫	外側磨光せず滑石混在せず、内面磨光せず	縦溝と横溝の文様	-
21-12	柳7 SD1-1	2号鉢	麻之内1	深淵部	-	20.0	灰白、雲母、角閃石、小礫	内面磨光せず	縦溝文様	-
21-13	柳7 SD1-1	2号鉢	平野	深淵部	試	26.1	灰白、角閃石、小礫	外側平す、内面磨光せず	縦溝の突起、沈凹に磨光した胎土が見える	-
21-1	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	-	81.8	灰白、角閃石、小礫	外側磨光せず、内面磨光せず	縦溝の突起、滑石の付着による横溝による滑石の付着、磨粒磨光せず、沈凹の付着による縦溝の突起、沈凹の付着による縦溝の突起	-
21-2	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	-	33.2	灰白、雲母、角閃石、小礫	内面磨光せず	磨粒による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	-
21-3	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	-	35.3	灰白、雲母、角閃石、小礫	内面磨光せず	磨粒による縦溝、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	-
21-4	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	-	21.0	灰白、角閃石、赤色粘土	外側平す、内面平す	磨粒による縦溝、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	-
21-5	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	-	28.9	灰白、角閃石、小礫	内面磨光せず	磨粒による縦溝、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	-
21-6	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	平野	240.7	灰白、角閃石、角閃石、小礫	外側平す、内面平す	磨粒による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	残存磨粒2.7mm、磨粒0.5mm、残存磨粒0.2mm
21-7	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	Y1100	30.7	灰白、角閃石、小礫	口縁部平す、内面磨光せず	口縁の磨光による突起、沈凹による縦溝の突起	-
21-8	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	Y1100	67.7	灰白、角閃石、雲母、角閃石、小礫	外側平す、内面磨光せず	磨粒による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	平行沈凹による滑石の付着跡あり
21-9	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	-	19.4	灰白、小礫	内面磨光せず	磨粒による縦溝に磨光、磨粒による横溝の突起	-
21-10	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	-	70.8	灰白、角閃石、小礫	内面磨光せず	磨粒による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	-
21-11	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	-	32.3	灰白、雲母	内面平す	磨粒による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	平行沈凹による滑石の付着跡あり
21-12	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	-	18.9	灰白、雲母	内面平す	平行沈凹による縦溝、沈凹による横溝の突起	胎土に角閃石の付着跡あり
21-13	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	-	101.1	灰白、白灰、雲母、小礫	内面磨光せず	口縁による縦溝、口縁内側沈凹文様、口縁による縦溝	胎土に角閃石の付着跡あり
21-14	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	-	16.1	灰白、角閃石、角閃石	内面磨光せず	磨粒による縦溝、口縁内側沈凹文様	-
21-15	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	平野	79.1	灰白、角閃石、小礫、赤色粘土	外側平す、内面磨光せず	口縁による縦溝、口縁による横溝の突起	-
21-16	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	-	170.8	灰白、角閃石、小礫	内面磨光せず	磨粒による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	内面に磨粒の付着跡あり
21-17	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	Y1100	73.9	灰白、角閃石、雲母、小礫	内面平す	磨粒による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	-
21-18	柳7 風	遺物	柳2	深淵部	Y1100	23.3	灰白、角閃石、小礫	外側平す、内面磨光せず	口縁部磨光せず、口縁部磨光せず	-
21-19	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	Y1100	71.5	灰白、小礫、赤色粘土	外側平す、口縁部磨光せず、内面磨光せず	内面磨光せず	-
21-20	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	-	66.1	灰白、角閃石、小礫、赤色粘土	外側平す、内面磨光せず	磨粒による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	-
21-21	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	平野	181.9	灰白、角閃石、角閃石、小礫	外側平す、内面磨光せず	内面磨光せず	-
21-22	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	平野	38.7	灰白、角閃石	外側平す	磨粒による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	-
21-23	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	-	20.6	灰白、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨光せず	口縁による縦溝の突起、沈凹による横溝の突起	1.80000
21-24	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	-	34.1	灰白、角閃石、小礫	内面磨光せず	口縁による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起	胎土に角閃石の付着跡あり
21-25	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	Y1100	101.3	灰白、角閃石、角閃石、小礫	口縁部平す、内面磨光せず	口縁による縦溝、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	胎土に角閃石の付着跡あり
21-26	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	-	100.8	灰白、角閃石、角閃石、小礫、赤色粘土	外側平す、内面磨光せず	口縁による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	胎土に角閃石の付着跡あり
21-27	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	-	18.0	灰白、小礫、赤色粘土	-	磨粒による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	-
21-28	柳7	遺物	柳2	深淵部	Y1100	29.8	灰白、小礫、赤色粘土	外側磨光せず、内面磨光せず	口縁部磨光せず、口縁部磨光せず	-
21-29	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	Y1100	31.2	灰白、角閃石、角閃石、小礫	外側平す、内面磨光せず	口縁による縦溝、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	1.80000
21-30	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	Y1100	89.9	灰白、角閃石、角閃石、小礫、赤色粘土	外側平す、内面磨光せず	口縁による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	-
21-31	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	-	13.2	灰白、角閃石、小礫	内面平す	口縁による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	-
21-32	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	-	51.2	灰白、角閃石、角閃石、小礫、赤色粘土	外側平す、内面平す	口縁による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	-
21-33	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	-	37.1	灰白、雲母、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨光せず	口縁による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	-
21-34	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	-	43.8	灰白、角閃石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨光せず	磨粒による縦溝の突起、磨粒による横溝の突起、磨粒による横溝の突起	-
21-35	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	Y1100	39.6	灰白、雲母、角閃石、小礫、赤色粘土	外側磨光せず、内面磨光せず	口縁部磨光せず、口縁部磨光せず	-
21-36	柳7 3号鉢	遺物	柳2	深淵部	Y1100	34.0	灰白、小礫、赤色粘土	外側磨光せず、内面磨光せず	口縁部磨光せず、口縁部磨光せず	-

第9表 第7次調査縄文時代石器観察表(5)

図-番号	注記	遺跡名	跡地	層	形名	数量	出土	文様	備考	
26-22	砂7-サマツ1	遺跡跡	縄文1層	遺跡1層跡	Y138	41.0	長石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、不明である。砥石か、砂粒との摩擦による砥石	-
26-28	砂7-サマツ1	遺跡跡	縄文1層	遺跡1層跡	-	44.7	長石、石炭、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚、内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様	-
26-29	砂7-サマツ1	遺跡跡	縄文1層	遺跡1層跡	-	20.6	長石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様	-
26-30	砂7-サマツ1	遺跡跡	縄文1層	遺跡1層跡	Y138	83.2	長石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚、内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
26-41	砂7-サマツ1	遺跡跡	縄文1層	遺跡1層跡	砂111土器区	40.0	長石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
26-42	砂7-サマツ1	遺跡跡	縄文1層	遺跡1層跡	砂111土器区	28.7	長石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
26-43	砂7-サマツ1	遺跡跡	縄文1層	遺跡1層跡	平高	200.5	長石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様	1.8割取 砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様
27-44	砂7-サマツ1	遺跡跡	縄文2層	遺跡1層跡	Y138	60.9	長石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚、内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-45	砂7-サマツ1	遺跡跡	縄文2層	遺跡1層跡	Y138	33.7	長石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-46	砂7-サマツ1	遺跡跡	縄文2層	遺跡1層跡	Y138	27.1	長石、石炭、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-47	砂7-サマツ1	遺跡跡	縄文2層	遺跡1層跡	-	38.0	長石、石炭、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-48	砂7-南東区	遺跡跡	縄文2層	遺跡1層跡	Y138	76.9	長石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-49	砂7	遺跡跡	縄文2層	遺跡1層跡	-	27.9	長石、石炭、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-50	砂7	遺跡跡	縄文2層	遺跡1層跡	-	21.3	長石、石炭、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-51	砂7-サマツ1	遺跡跡	縄文2層	遺跡1層跡	-	33.0	長石、石炭、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-52	砂7-南東区	遺跡跡	縄文2層	遺跡1層跡	-	25.5	長石、石炭、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-53	砂7-サマツ1	遺跡跡	縄文2層	遺跡1層跡	突起	26.0	長石、角閃石、小礫、赤色粘土	-	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-54	砂7-サマツ1	遺跡跡	縄文2層	遺跡1層跡	Y138	41.5	長石、石炭、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-55	砂7-南東区	遺跡跡	加賀川 川	遺跡1層跡	Y138	36.8	長石、角閃石	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-56	砂7-サマツ1	遺跡跡	南側	遺跡1層跡	Y138	47.6	長石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-57	砂7-サマツ1	遺跡跡	南側	遺跡1層跡	-	115.8	長石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-58	砂7-サマツ1	遺跡跡	南側	遺跡1層跡	-	123.4	長石、石炭、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-59	砂7-サマツ1	遺跡跡	南側	遺跡1層跡	-	60.1	長石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-60	砂7-北沢区	遺跡跡	南側	遺跡1層跡	土層	38.5	長石、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-
27-61	砂7-サマツ1	遺跡跡	南側	遺跡1層跡	土層	20.7	長石、石炭、赤色粘土	内面磨削17枚	砥石の砥石(裏面)による文様、砥石の砥石(裏面)による文様	-

第10表 第7次調査縄文時代石器観察表

図-番号	注記	形名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	遺存状況	備考
22-102	砂7-4住	打製石斧	ホルンフェルス	(75.9)	74.1	20.9	128.5	刃部断片	形状不明 1号住跡跡
24-1	砂7-34pit	打製石斧	ホルンフェルス	112.5	80.0	22.8	189.4	基部欠損	線形 JF34
28-62	砂7-風	打製石斧	ホルンフェルス	95.3	52.2	17.2	128.8	基部欠損	短冊形
28-63	砂7-風	打製石斧	ホルンフェルス	122.8	47.3	24.2	175.6	完形	短冊形
28-64	砂7-南区	打製石斧	ホルンフェルス	(89.8)	53.1	21.8	143.6	基部欠損	短冊形
28-65	砂7次-V層	打製石斧	ホルンフェルス	(86.8)	53.8	25.7	154.3	基部欠損	短冊形
28-66	砂7-南区	打製石斧	ホルンフェルス	(86.5)	44.0	19.2	77.1	刃部欠損	形状不明
28-67	砂7-南区	打製石斧	片状砂岩	94.5	94.5	19.5	159.7	完形	分銅形
28-68	砂7-サマツ1	打製石斧	ホルンフェルス	92.2	110.9	25.3	343.4	基部断片	形状不明
28-69	砂7-南区	石錘	砂岩	87.5	79.5	40.5	324.5	完形	上下端に打欠き
28-70	砂7-南東区	石錘	安山岩	68.9	55.0	18.4	88.2	完形	左右端に打欠き
29-71	砂7-中層	敲石	閃緑岩	(87.8)	61.6	33.5	281.5	器体上半欠損	右面下半端に敲打痕有り
29-72	砂7-I層上層	敲石	頁岩	115.3	39.9	21.3	147.9	完形	右面に敲打痕有り
29-73	砂7-南東区	磨石	砂岩	116.3	54.8	51.9	509.8	完形	裏面の凹みに他に直線多数有り
29-74	砂7-一括	磨石	ホルンフェルス	(94.9)	79.5	56.5	571.2	器体下半欠損	裏面に凹み有り
29-75	砂7-南東区	磨石	多孔質安山岩	80.5	67.5	58.5	321.5	完形	正面に磨痕?
29-76	砂7-一括	敲石	砂岩	(84.8)	(91.2)	65.0	493.9	断片	裏面に凹み有り
29-77	砂7次-V層	磨石を有する石器	粘板岩	131.0	108.7	19.8	413.9	完形	裏面に磨痕有り

第2節 第8次調査

中・近世と縄文時代の遺構を確認した。中・近世の遺構としては、溝状遺構2条、土坑1基、ピット9基を検出した。縄文時代の遺構はNo.1調査区で住居跡2軒、No.2調査区で住居跡2軒、土坑2基、ピット155基、その他にも遺構覆土が確認された。遺物は縄文土器、石器が出土している。遺物の総量は、コンテナ8箱分で、縄文土器の総量は50,545g、石器16,755gであった。

1. 中・近世

1) 溝状遺構

1号溝状遺構 (第30図)

No.2調査区西側で幅1～1.3m、深度約0.4mで南北方向に5.6m、調査区の南側から中ほどまで確認された。第7次調査区から続く溝である。2号溝状遺構よりも新しく、覆土から近世の遺構と判断する。当該期の遺物は出土していない。縄文土器が少量出土している。

2号溝状遺構 (第30図、写真図版19)

No.2調査区西側において、南北方向に約8m確認された。調査区内では、溝の中心から東側半分(幅1.4～1.8m、深度1.6m)のみの調査になり、西側半分は調査区外の現道路下面にあたる。溝底の幅は狭く、断面はV字形に近い、薬研堀状をなすものとみられ、上幅は約4mと推定される。遺構の壁面には直径20～50cmのピットが5基認められたが、配置に規則性は認められない。覆土はしまり、粘性ともやや弱い黒褐色土で、黒色・黄褐色、赤褐色のスコリアを少量、下層には細かいローム粒子を含んでおり、中世の所産とみられる。当該期の遺物は出土していない。

2) 土坑・ピット

1号土坑 (第30図、写真図版20)

No.2調査区のほぼ中央にある256×230cm、深さ67cm不整形の土坑で、底面は凹凸がある。出土遺物はなく、確認状況から中世以降の遺構と判断する。

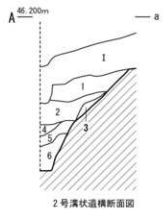
ピット (第30、35～37図、第11表)

No.2調査区でピット9基が確認された。長軸約45～130cm、深さは15～40cm前後と浅く、配置は不規則である。覆土はしまり・粘性が弱い黒褐色土を主体としており、いずれも中世以降の遺構と判断する。

2. 縄文時代

1) 住居跡

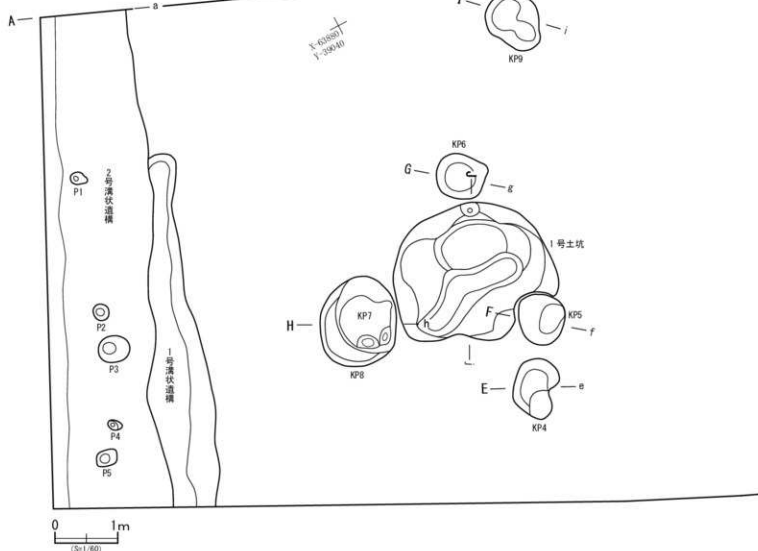
No.1調査区では1×9.3mのトレンチ内で住居跡2軒、No.2調査区においても、平面形態を明瞭には確認できなかったものの、遺物の出土状況及び土層確認状況から最低2軒の



【2号溝状遺構】

- 1層 黒褐色土 大の赤褐色スコリア8%、中の黒色スコリア8%、大の黄褐色スコリアを8%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。
- 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア8%、中の黒色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを8%含む。しまり弱く、粘性弱い。
- 3層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黒色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。細かいローム粒子。
- 4層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黒色スコリア2%、小の黄褐色スコリアを2%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。細かいローム粒子。
- 5層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黒色スコリア2%、小の黄褐色スコリアを2%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。
- 6層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア5%、小の黒色スコリア5%、小の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。細かいローム粒子。

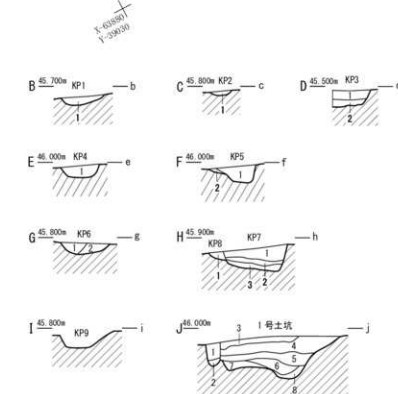
2号溝状遺構断面図



単位：cm

No.	長軸	深さ
P1	22	48
P2	20	35
P3	38	34
P4	18	28
P5	24	46

2号溝状遺構内ピット計測表



土坑・ピット断面図

- 【KP1～KP3】
- 1層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各1%を含む。小の黒色スコリア2%を含む。しまり、粘性ともやや弱い。
- 2層 黒褐色土 1層に粒を含む。しまり、粘性ともやや弱い。
- 【KP4, KP5】
- 1層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア、黒色スコリア各5%を含む。しまり、粘性ともやや弱い。2層暗褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各2%を含む。しまり、粘性普通。
- 【KP6】
- 1層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各3%、中の黒色スコリア5%を含む。ローム粒子、室永火山灰を含む。しまり、粘性弱い。
- 2層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア5%、小の黒色スコリア2%を含む。しまり、粘性ともやや弱い。
- 【KP7】
- 1層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、中の黒色スコリア3%を含む。しまり、粘性ともやや弱い。
- 2層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、中の黒色スコリア5%を含む。しまり、粘性ともやや弱い。
- 3層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各2%を含む。IV層のブロックを含む。しまり、粘性普通。
- 【KP8】
- 1層 暗褐色土 中の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各5%、中の黒色スコリア3%を含む。しまり普通、粘性やや弱い。
- 【1号土坑】
- 1層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア、黒色スコリア各3%を含む。しまり、粘性とも普通。
- 2層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各2%、ローム粒子を含む。しまり、粘性ともやや弱い。
- 3層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア、黒色スコリア各3%、ロームブロックを含む。しまり、粘性とも普通。
- 4層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア、黒色スコリア各3%を含む。しまり、粘性とも普通。
- 5層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各2%、小の黒色スコリア1%、IV層のブロックを含む。しまり、粘性とも普通。
- 6層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア、黒色スコリア各2%を含む。ロームブロックを含む。しまり、粘性ともやや弱い。
- 7層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア、黒色スコリア各5%を含む。しまり、粘性ともやや弱い。
- 8層 暗褐色土 ローム再堆積土

第30図 第8次調査No.2調査区中・近世遺構断面図

住居跡を確認した。出土した遺物の時期は後期を主体とするが、少量ではあるが中期もあり、勝坂式、加曾利E式、称名寺式、堀之内式、加曾利B1式に分類される。

1号住居跡（第32図、写真図版20）

No2調査区南西側に位置する。確認面から約20cmの掘り込みを持つ。覆土は基本土層IV a、IV b層と類似し、少量の炭化物を含み、縄文土器、石器を多く包含する。埋甕1基、ピットが確認された。埋甕の東側には僅かながら硬化面が認められた。ピットは本遺構に帰属するものか判断が難しいが、住居跡の範囲に10基程度確認されているが、比較的浅いものが多く、深さ40cmを超えるものは2基のみである。埋甕は浅鉢の胴部～底部部分が逆位に埋められていた。このほか、調査区南側で石皿2点がまとまって出土している。

本遺構は第7次調査1号住居跡と同一遺構である可能性が非常に高く、平面楕円形を呈するものとみられる。本調査区では南北約4m、東西約4.6mの規模で確認された。出土遺物から縄文時代後期堀之内式期と判断される。

遺物（第38～42図、第12・13・21表、写真図版24～27）

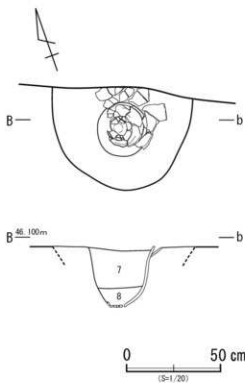
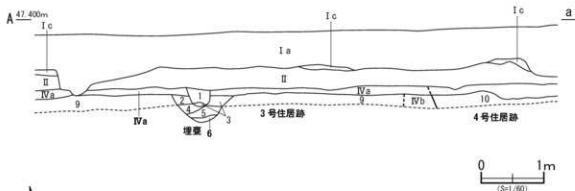
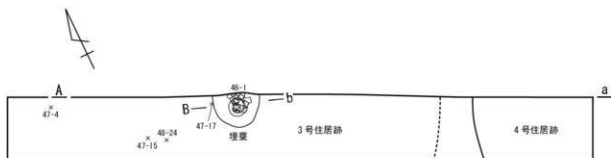
出土した遺物は土器と石器である。勝坂式、称名寺式も少量含むが、堀之内式が主体である。器形としては深鉢が主であるが、浅鉢もみられる。出土資料のうち土器65点、石器は7点を掲載した。

4は埋甕で、中期から後期の深鉢。残存部は無紋で底部に網代痕は所々残っているものの、擦り消された痕跡があり一部は上から粘土を被せている。胎土に小礫を多く含む。7は4の埋甕掘方から出土した。堀之内1式の深鉢で、口縁に粘土をねじった様な形状の突起がある。3か所穴があり、縄文施文。2条の弧状の沈線がある。33は堀之内2式の深鉢で、口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。波頂部に細長い貼付文。貼付文上に刺突文施文。胴部には弧状の沈線などによる文様。内面波頂部に文様あり、突起上面には沈線による渦巻文。円形の深い窪みが2か所あり、1か所は内側からの穿孔で外面に貫通している。胎土に小礫を多く含む。1号住33と2号住17は同一個体の可能性がある。55は、残存部無文であるが底部に網代痕あり。内側に幅1cmの長方形の工具で擦った様な痕跡が2cm程見られる。

69はホルンフェンス製の打製石斧、70は砂岩製の上下端に打欠きのある石錘、71はホルンフェンス製の磨石、72は安山岩製の砥石である。

2号住居跡（第32図、写真図版21、22）

No2調査区中央からやや東寄りに位置する。明瞭な掘り込みは確認できなかったが、少量の炭化物を含む黒褐色土の覆土が確認された。埋甕1基、ピットが確認された。埋甕は無文の深鉢胴部を埋設しており、周辺には焼土の堆積がみられ、炉址とみられる。主柱穴となるようなピットは認められないが、調査区を東側に一部拡張した付近にかけてピットがやや集中している。ただし、南西側の1号住居跡と一部重複しているものとみられ、ピットの帰属の判別は難しい。平面形は東西軸約5.8m、南北軸約6mの楕円形とみられ、南側に1.5～2m程の張り出し部を持つ柄鏡形を呈する可能性が考えられる。出土遺物から縄文時代後期中葉と判断される。調査区東壁では他にも遺構覆土とみられる土層が観察され、複数の遺構が重複する可能性がある。

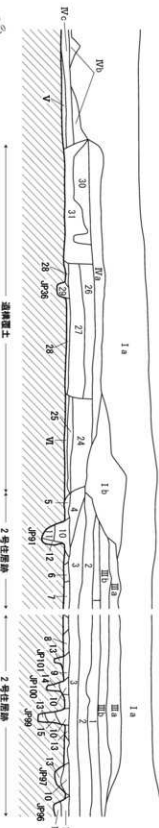
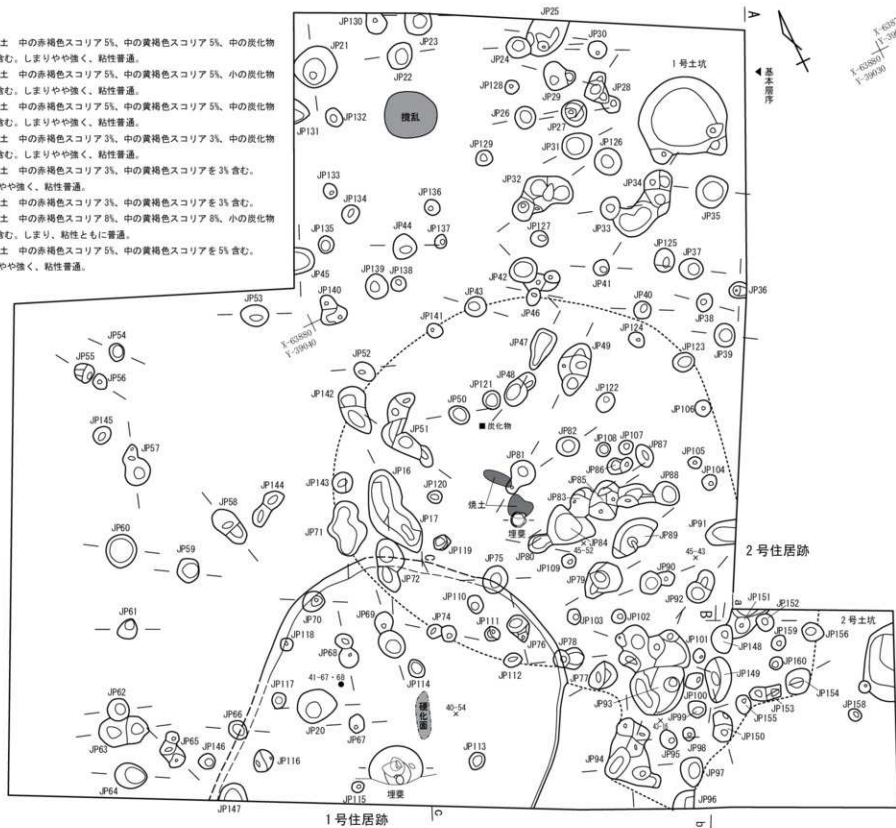


- 1層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黒色スコリア各3%を含む。しまり、粘性ともやや弱い。中世ピットの可能性あり。
- [3号住居跡]
- 2層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各1%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 3層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各2%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 4層 暗褐色土 極小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各1%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 5層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各2%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 6層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各1%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 7層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア1%、小の黄褐色スコリア1%、中の炭化物を含む。しまり、粘性とも普通。室内土層。
- 8層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各1%、中の炭化物を含む。しまり、粘性ともに普通。室内土層。
- 9層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各1%を含む。しまり、粘性ともやや強い。
- [4号住居跡]
- 10層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各3%、炭化物を含む。しまり、粘性とも普通。

第31図 第8次調査No.1 調査区縄文時代遺構平面断面図

【遺構層土】

- 24層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、中の炭化物を2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 25層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、小の炭化物を1%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 26層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、中の炭化物を2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 27層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、中の炭化物を2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 28層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 29層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む。
- 30層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア8%、中の黄褐色スコリア8%、小の炭化物を3%含む。しまり、粘性ともに普通。
- 31層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや強く、粘性普通。



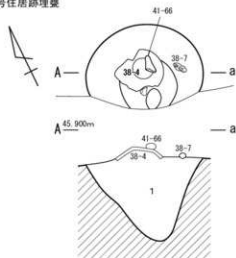
- 【2号住居跡】
- 1層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア8%、中の黄褐色スコリア8%、小の炭化物を2%含む。しまり、粘性ともに普通。
- 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 3層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 4層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 5層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、ローム層移層を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 【JP91 96, 99 ~ 101】
- 10層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 11層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 12層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア2%、小の赤褐色スコリアを2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 6層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、ロームブロックを含む。
- 7層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む。
- 8層 黒褐色土 しまりやや強く、粘性普通。
- 9層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 13層 灰褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黄褐色スコリアを2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 14層 褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黄褐色スコリアを2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 15層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む。しまりやや強く、粘性普通。

- 【1号住居跡】
- 1層 褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黄褐色スコリア3%、極小の炭化物を含む。しまり、粘性ともにやや弱い。
- 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア2%、中の黄褐色スコリア2%、極小の炭化物を含む。しまり普通、粘性やや弱い。
- 3層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、極小の炭化物を含む。しまり、粘性ともに普通。
- 4層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア2%、中の黄褐色スコリア2%、中の炭化物を含む。しまりやや強く、粘性普通。

× 土器 (図-Ⅲ)
● 石器 (図-Ⅲ)

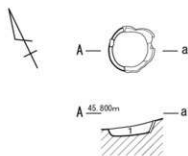
第32図 第8次調査No.2調査区縄文時代遺構断面図

1号住居跡埋壘

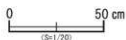


1層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに5%含む。炭化物を含む。しまりやや強く、粘性普通。

2号住居跡埋壘



1層 褐色土 中の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに5%含む。炭土、炭化物を含む。しまり普通、粘性やや弱い。



第33図 第8次調査1・2号住居跡埋壘平断面図

遺物 (第43～45図、第13～15・21表、写真図版27～29)

出土した土器は堀之内式を主体とする。器形は深鉢が大多数であるが、注口土器も出土している。土器52点、石器1点を図化掲載した。

6は堀之内1式の深鉢で、突起部に貫通する孔が1か所ある。孔の周囲に沈線によるC字状の文様。口縁に沿って隆帯が巡ると思われ、隆帯上に刺突文施文。8も堀之内1式の深鉢で、環状の貼付文。貼付文の上下に2条ずつ隆帯を貼付、隆帯上に押圧を加える。隆帯間には沈線による文様が見られる。17は口唇部に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。隆帯上に8字状の貼付文2ヶ所見られる。1か所の貼付文上に突起1組作出。2条1組の沈線による文様。胎土に小礫を多く含む。外面に黒色の付着物は微量見られる。1号住居33と2号住居17は同一個体の可能性がある。24は堀之内2式の深鉢で、横位沈線施文後、2条1組の沈線による三角状の文様施文。52は加曾利B1式の注口土器で、口縁に沿って1条の隆帯を貼付し、隆帯上にキザミ施文。7条1組（一部2条1組）の条線による文様。底面に網代痕あり。

3号住居跡 (第31図、写真図版18)

No1調査区西側を中心に、遺物がまとまって出土しており、少量の炭化物を含む黒褐色土の覆土が確認された。また埋壘1基が確認され、称名寺式の底部のある深鉢形土器がほぼ完形で正位の状態でも埋設されていた。No1調査区は調査深度を現状地盤から1.2mまでとしたため、住居の掘り方や、ピットの有無は確認していない。後期の住居跡とみられる。

遺物 (第46～48図、第15・16表、写真図版29・30)

本遺構からの出土土器は後期を主体とし、称名寺式、堀之内式、加曾利B1式の深鉢、浅鉢がみられる。図化できたものは26点である。

1は埋壘の称名寺式の深鉢で器高50cm、帯縄文と無文帯によりS字状文様をなす。

4号住居跡 (第31図、写真図版18)

No1調査区東側に遺構覆土の落ち込みを確認した。今回の調査は建物基礎が現状地盤よ

り1.2m以内で取まることから覆土除去を行わず、平面プランの確認に留め、現状保存とした。周辺状況から堅穴住居跡の可能性が高い。

2) 土坑 (第32・34図、写真図版23)

1号土坑

No.2調査区の北東側で確認された。平面は不整形形で規模は1.2×1.3m、深さ0.7m。覆土上層から堀之内1、2式の深鉢等の土器片が出土した。覆土中には炭化物を含む。

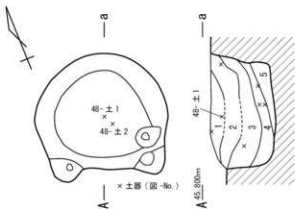
2号土坑

No.2調査区の南東拡張部で確認された。一部は調査区外となっているが、調査範囲の中で確認できた規模は1.25×0.5m、深さ1mを測る。

3) ビット (第32・35~37・48図、第11表、写真図版23・29・50)

141基のビットが確認された。この中には住居跡に伴うものも含まれるものとみられるが、判別が難しいことから、縄文時代ビットとして報告する。規模は軸長20~153cm、深さは12~82cmであり、形も不整形なものも多い。縄文土器の小破片を伴うビットもあるが、大半は遺物を伴わない。覆土はしまり・粘性があり、炭化物を含むものが多い。

1号土坑



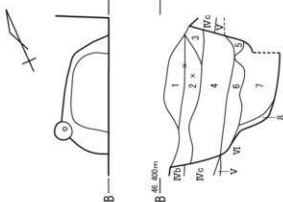
【1号土坑】

- 1層 黒褐色土 大の赤褐色スコリア、大の黄褐色スコリア、中の炭化物をともに2%含む。しまり普通、粘性やや弱い。
- 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア2%、極小の黄褐色スコリア1%、小の炭化物1%を含む。しまりややあり、粘性普通。
- 3層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア、炭化物をともに2%含む。しまりややあり、粘性普通。
- 4層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、小の黄褐色スコリア3%、小の炭化物2%を含む。しまりややあり、粘性普通。
- 5層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、小の炭化物2%を含む。しまりややあり、粘性普通。

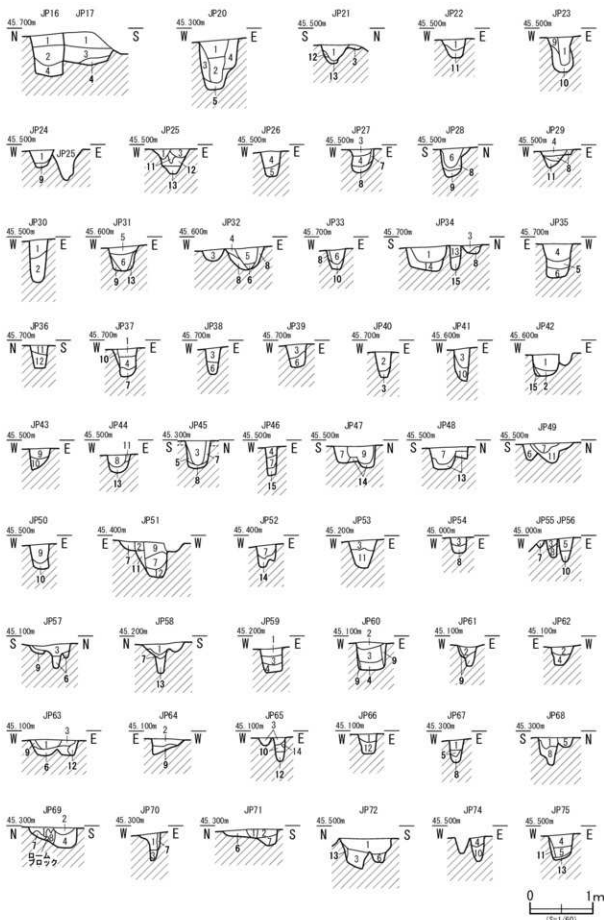
【2号土坑】

- 1層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに2%含む。しまり、粘性ともにやや弱い。
- 2層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに2%含む。しまり、粘性ともに普通。
- 3層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに1%含む。しまり、粘性ともに普通。
- 4層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに3%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 5層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、小の炭化物2%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 6層 黒褐色土 大の赤褐色スコリア5%、大の黄褐色スコリア5%、小の炭化物2%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 7層 極細褐色土 大の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに15%含む。しまり強く、粘性普通。
- 8層 褐色土 中の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに3%含む。しまり強く、粘性普通。

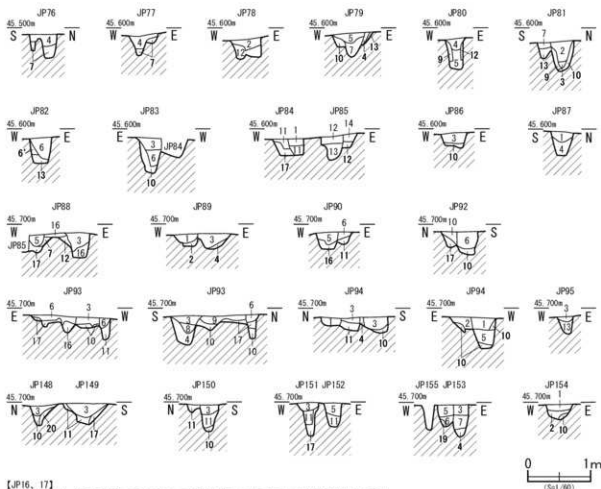
2号土坑



第34図 第8次調査1・2号土坑平面断面図



第35図 第8次調査ピット断面図 (1)



【JP16、17】

- | | | | |
|---------|--------------------------|-------------|------------------------------|
| 1層 黒褐色土 | 中の赤褐色スコリア5% | 中の黄褐色スコリア5% | 炭化物を斑点状に含む。 |
| 2層 黒褐色土 | 中の赤褐色スコリア5% | 中の黄褐色スコリア5% | ローム粒子、極大の炭化物を含む。しまり、粘性ともに普通。 |
| 3層 黒褐色土 | 中の赤褐色スコリア5% | 中の黄褐色スコリア5% | 中の炭化物を含む。 |
| 4層 褐色土 | ロームブロックを含む。しまりやや強く、粘性普通。 | | |

【JP20】

- | | | | |
|---------|-------------|-------------|-----------------------------|
| 1層 黒褐色土 | 小の赤褐色スコリア5% | 小の黄褐色スコリア3% | 中の炭化物を2%含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 2層 黒褐色土 | 中の赤褐色スコリア5% | 中の黄褐色スコリア5% | 中の炭化物を2%含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 3層 暗褐色土 | 小の赤褐色スコリア5% | 小の黄褐色スコリア5% | ローム粒子を含む。しまり普通、粘性普通。 |
| 4層 暗褐色土 | 中の赤褐色スコリア5% | 中の黄褐色スコリア5% | V層、ロームブロックを含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 5層 暗褐色土 | 中の赤褐色スコリア5% | 中の黄褐色スコリア5% | ロームブロックを含む。しまり普通、粘性普通。 |

【JP21～30】

- | | | | |
|----------|---------------|-------------------|-----------------------------|
| 1層 黒褐色土 | 中の赤褐色スコリア2～5% | 中の黄褐色スコリア2～5%を含む。 | しまりやや強く、粘性普通。 |
| 2層 黒褐色土 | 中の赤褐色スコリア5% | 中の黄褐色スコリア5%を含む。 | しまり、粘性ともやや強い。 |
| 3層 黒褐色土 | 小の赤褐色スコリア3～5% | 小の黄褐色スコリア3～5%を含む。 | しまりやや強く、粘性普通。 |
| 4層 黒褐色土 | 中の赤褐色スコリア3% | 中の黄褐色スコリア3% | 中の炭化物を1%含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 5層 黒褐色土 | 小の赤褐色スコリア3% | 小の黄褐色スコリア3% | 中の炭化物を1%含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 6層 黒褐色土 | 中の赤褐色スコリア5% | 中の黄褐色スコリア5% | ローム粒子を含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 7層 黒褐色土 | 中の赤褐色スコリア5～8% | 中の黄褐色スコリア5～8% | ロームブロックを含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 8層 黒褐色土 | 小の赤褐色スコリア3% | 小の黄褐色スコリア3% | V層を含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 10層 黒褐色土 | 小の赤褐色スコリア2% | 小の黄褐色スコリア2% | V層、ロームブロックを含む。しまり、粘性ともに普通。 |
| 11層 褐色土 | 小の赤褐色スコリア2% | 小の黄褐色スコリア2% | V層、ロームブロックを含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 12層 灰褐色土 | 小の赤褐色スコリア2～5% | 小の黄褐色スコリア2～5% | V層を含む。しまり、粘性ともに普通。 |
| 13層 灰褐色土 | 小の赤褐色スコリア2～5% | 小の黄褐色スコリア2～5% | V層、ロームブロックを含む。しまりやや強く、粘性普通。 |

【JP31～41】

- | | | | |
|----------|---------------|-------------------|-------------------------------|
| 1層 黒褐色土 | 大の赤褐色スコリア3% | 大の黄褐色スコリア3% | 小の炭化物を1～2%含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 2層 黒褐色土 | 大の赤褐色スコリア5% | 大の黄褐色スコリアを5%含む。 | しまりやや強く、粘性普通。 |
| 3層 黒褐色土 | 中の赤褐色スコリア3～5% | 中の黄褐色スコリアを3%含む。 | しまりやや強く、粘性普通。 |
| 4層 黒褐色土 | 中の赤褐色スコリア5% | 中の黄褐色スコリア5% | 極小～小の炭化物1～2%を含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 5層 黒褐色土 | 小の赤褐色スコリア3～5% | 小の黄褐色スコリア3～5% | 小～中の炭化物1～2%を含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 6層 黒褐色土 | 小の赤褐色スコリア2～5% | 小の黄褐色スコリア2～5%を含む。 | しまりやや強く、粘性普通。 |
| 7層 黒褐色土 | 中の赤褐色スコリア2% | 中の黄褐色スコリアを2%含む。 | しまりやや強く、粘性普通。 |
| 8層 褐色土 | 小の赤褐色スコリア3% | 小の黄褐色スコリア3% | V層、ロームブロックを含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 9層 黒褐色土 | 小の赤褐色スコリア5% | 小の黄褐色スコリア5% | ローム粒子を含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 10層 灰褐色土 | 中の赤褐色スコリア5% | 中の黄褐色スコリアを5%含む。 | しまりやや強く、粘性普通。 |
| 11層 灰褐色土 | 中の赤褐色スコリア5% | 中の黄褐色スコリア5% | 小の炭化物を2%含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 12層 褐色土 | 小の赤褐色スコリア3% | 小の黄褐色スコリア3% | V層を含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 13層 灰褐色土 | 小の赤褐色スコリア5% | 小の黄褐色スコリア5% | ロームブロックを含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 14層 灰褐色土 | 小の赤褐色スコリア2% | 小の黄褐色スコリア2% | V層を含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 15層 灰褐色土 | 中の赤褐色スコリア3% | 中の黄褐色スコリア3% | ロームブロックを多量に含む。しまり、粘性ともに普通。 |

第36図 第8次調査ピット断面図(2)

第11表 第8次調査縄文時代ピット計測表

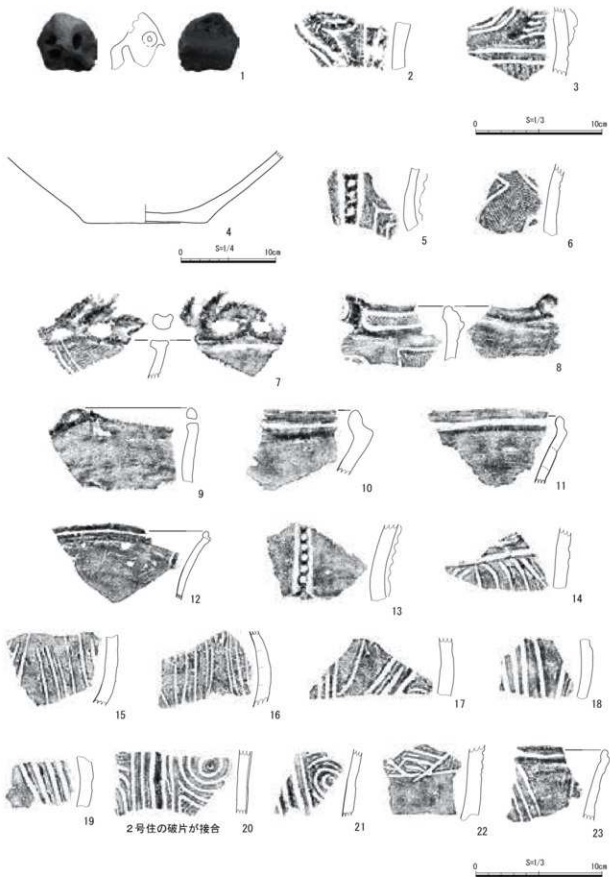
単位：cm

遺構 番号	長軸	短軸	深さ
JP16	70	55	67
JP17	85	57	53
欠番			
JP20	66	56	82
JP21	68 (68)		29
JP22	44	42	30
JP23	43 (28)		56
JP24	42	37	27
JP25	60 (56)		49
JP26	36	34	40
JP27	45	42	37
JP28	74	37	45
JP29	50	48	28
JP30	32	30	68
JP31	52	42	39
JP32	100	58	35
JP33	39	32	33
JP34	123	48	41
JP35	52	50	54
JP36	30 (28)		37
JP37	42	36	46
JP38	32	26	43
JP39	40	35	37
JP40	30	30	40
JP41	30	30	52
JP42	51	47	36
JP43	36	36	34
JP44	40	40	28
JP45	40 (23)		44
JP46	71 (23)		45
JP47	70	40	36
JP48	63	34	34
JP49	92	50	33
JP50	38	30	38
JP51	127	43	58

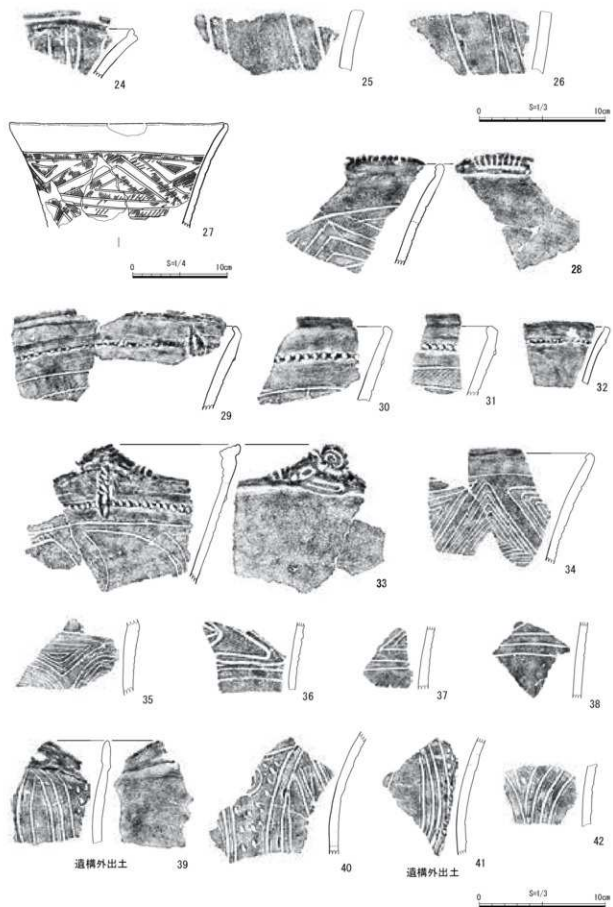
遺構 番号	長軸	短軸	深さ
JP52	42	31	35
JP53	48	36	44
JP54	30	25	25
JP55	32	30	28
JP56	26	24	37
JP57	59	40	38
JP58	68	30	49
JP59	40	40	38
JP60	57	52	43
JP61	34	30	33
JP62	36	36	30
JP63	82	44	25
JP64	54	43	23
JP65	60	30	39
JP66	34	28	30
JP67	30	26	36
JP68	56	32	44
JP69	78	40	34
JP70	40	36	44
JP71	90	68	26
JP72	88	45	48
欠番			
JP74	48	26	39
JP75	47	40	41
JP76	46	34	37
JP77	50	40	34
JP78	50	36	34
JP79	69	54	39
JP80	39	34	50
JP81	60	45	48
JP82	41	37	40
JP83	50	32	56
JP84	80 (52)		28
JP85	67	42	42
JP86	43	28	24
JP87	40	38	38

遺構 番号	長軸	短軸	深さ
JP88	98	43	38
JP89	98	50	24
JP90	60	37	26
JP91	(40)	38	37
JP92	60	42	37
JP93	153	105	47
JP94	110	75	50
JP95	34	27	28
JP96	(40) (24)		20
JP97	50	39	26
JP102	24	24	28
JP103	26	24	18
JP104	26	24	38
JP105	24	20	31
JP106	28	27	33
JP107	25	24	30
JP108	29	27	19
JP109	24	24	38
JP110	30	26	61
JP111	24	23	19
JP112	31	23	27
JP113	32	26	21
JP114	34	26	14
JP115	20	20	36
JP116	38	32	49
JP117	28	24	15
JP118	23	22	38
JP119	40	25	27
JP120	25	21	33
JP121	34	33	
JP122	34	27	24
JP123	36	32	24
JP124	28	24	41
JP125	40	34	18
JP126	46	44	21
JP127	32	32	44

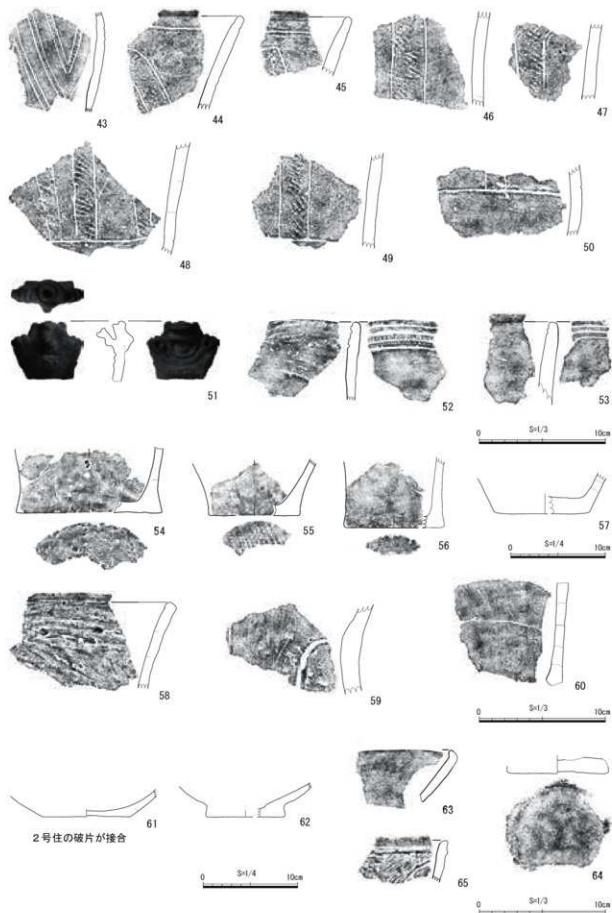
遺構 番号	長軸	短軸	深さ
JP128	24	23	29
JP129	30	26	32
JP130	36 (30)		28
JP131	(40) (26)		26
JP132	32	26	12
JP133	26	22	41
JP134	32	28	16
JP135	28	28	30
JP136	28	27	17
JP137	23	21	31
JP138	26	25	24
JP139	40	36	19
JP140	50	45	43
JP141	28	24	33
JP142	84	44	25
JP143	40	40	18
JP144	66	28	39
JP145	36	34	24
JP146	30	26	20
JP147	44 (30)		12
JP148	53	40	33
JP149	76	42	32
JP150	50	30	43
JP151	30	29	52
JP152	33	31	37
JP153	50	22	52
JP154	30	28	24
JP155	32	26	39
JP156	38	30	32
欠番			
JP158	23	20	33
JP159	28	24	28
JP160	24	21	36



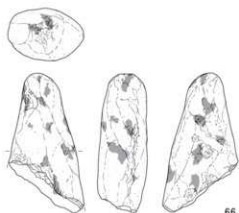
第38図 第8次調査1号住居跡出土遺物(1)



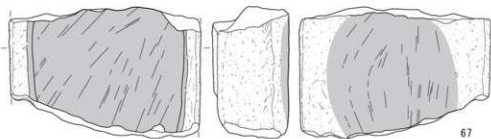
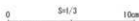
第39図 第8次調査1号住居跡出土遺物(2)



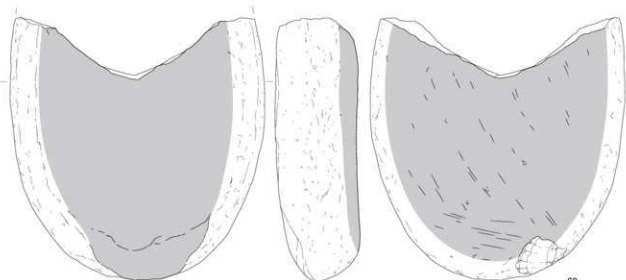
第40図 第8次調査1号住居跡出土遺物(3)



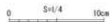
66



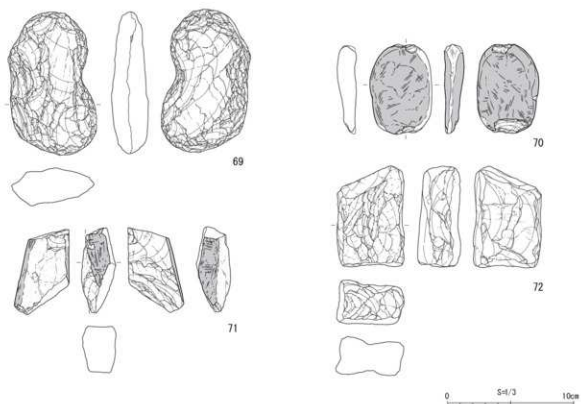
67



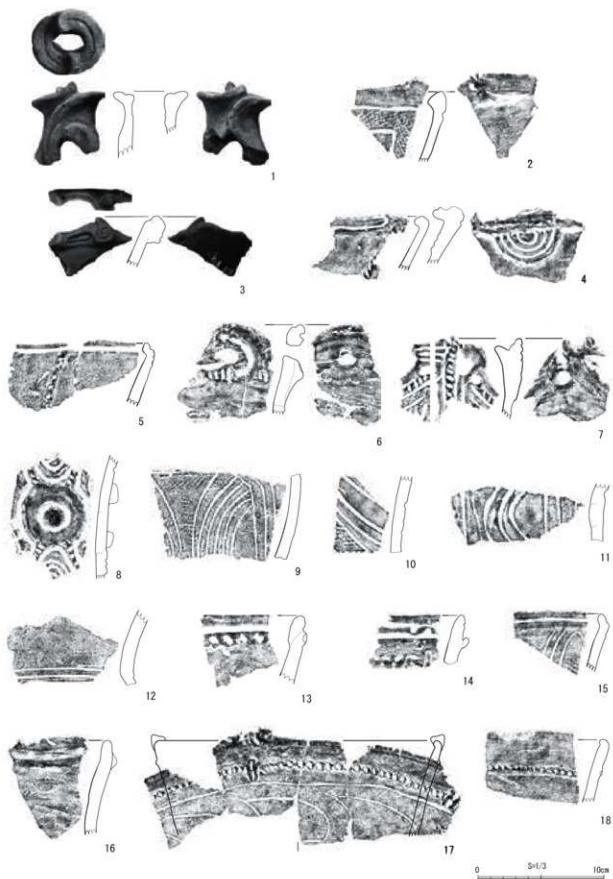
68



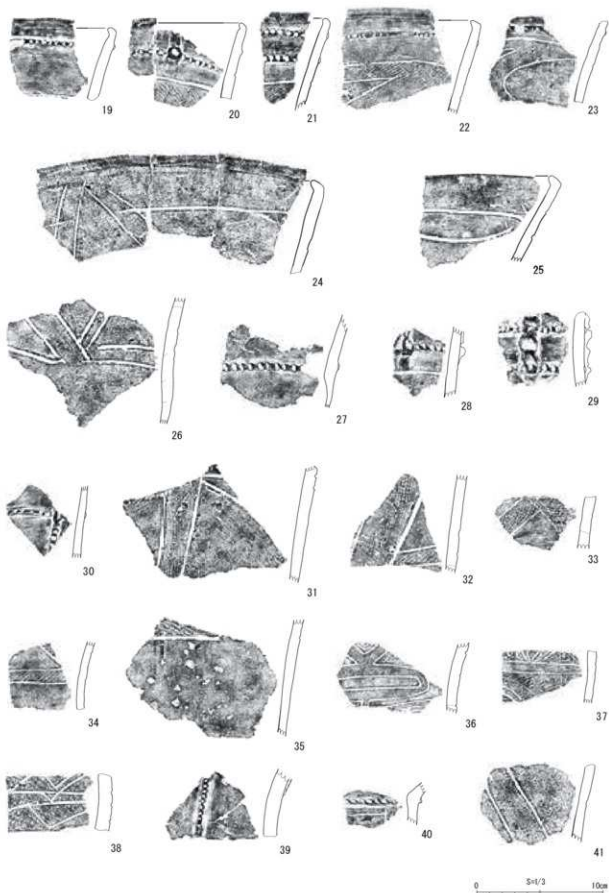
第41図 第8次調査1号住居跡出土遺物(4)



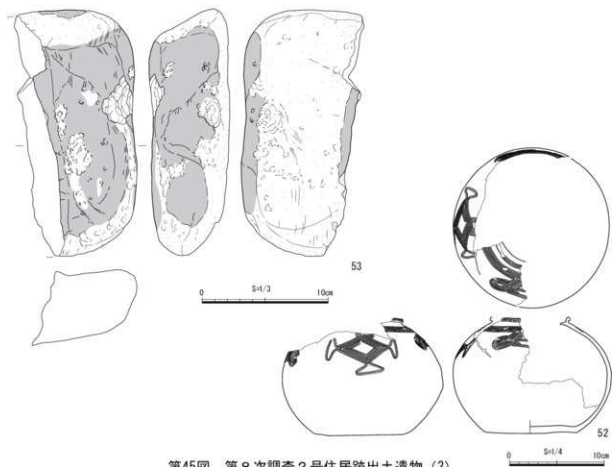
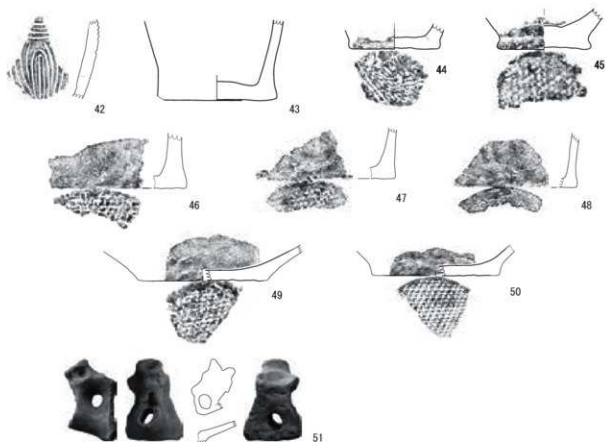
第42図 第8次調査1号住居跡出土遺物(5)



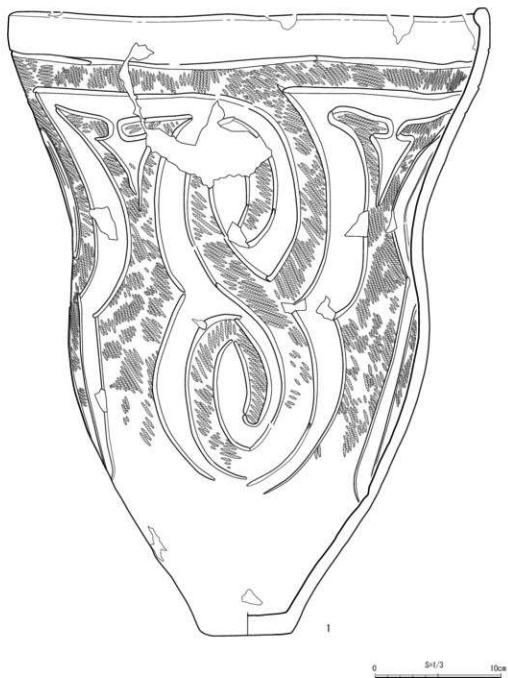
第43図 第8次調査2号住居跡出土遺物(1)



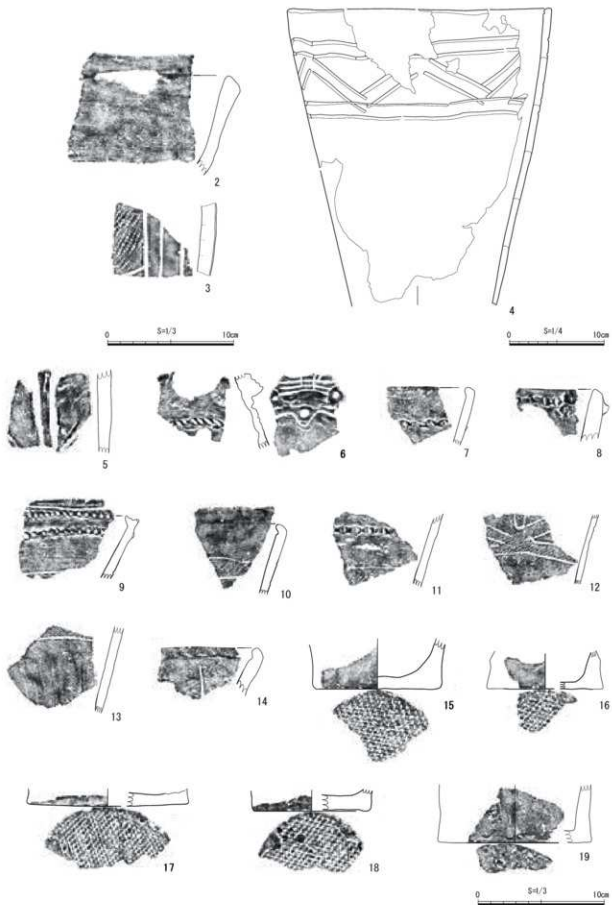
第44図 第8次調査2号住居跡出土遺物(2)



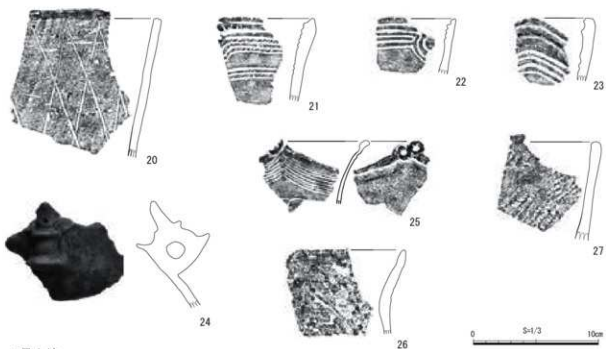
第45図 第8次調査2号住居跡出土遺物(3)



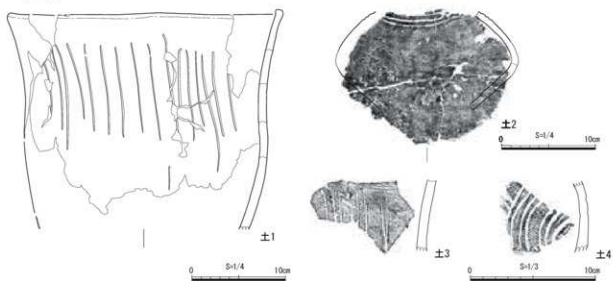
第46図 第8次調査3号住居跡出土遺物(1)



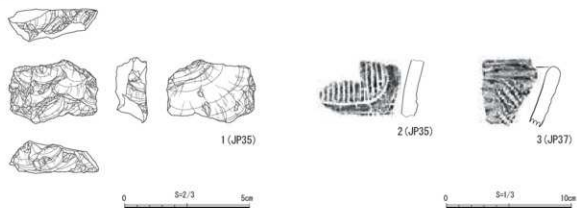
第47図 第8次調査3号住居跡出土遺物(2)



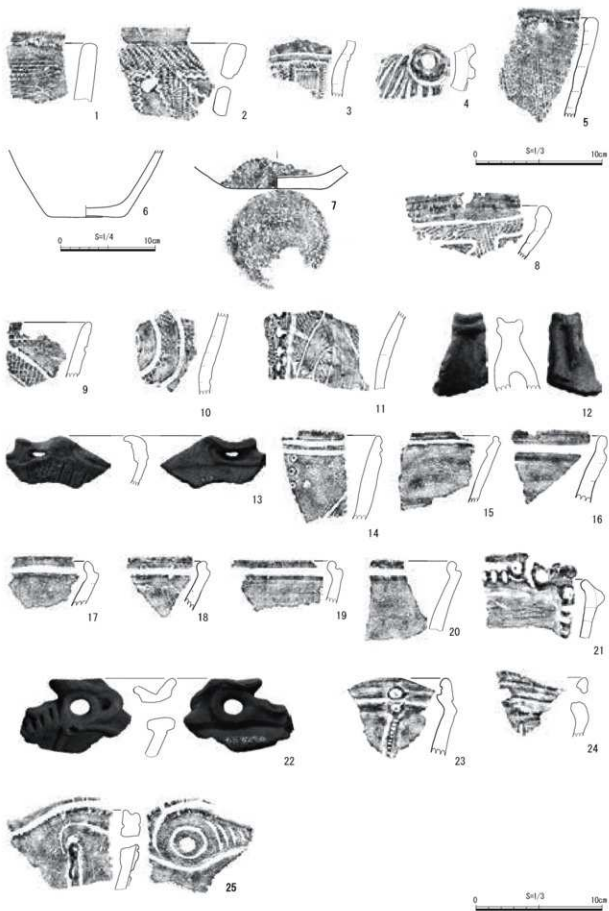
1号土坑



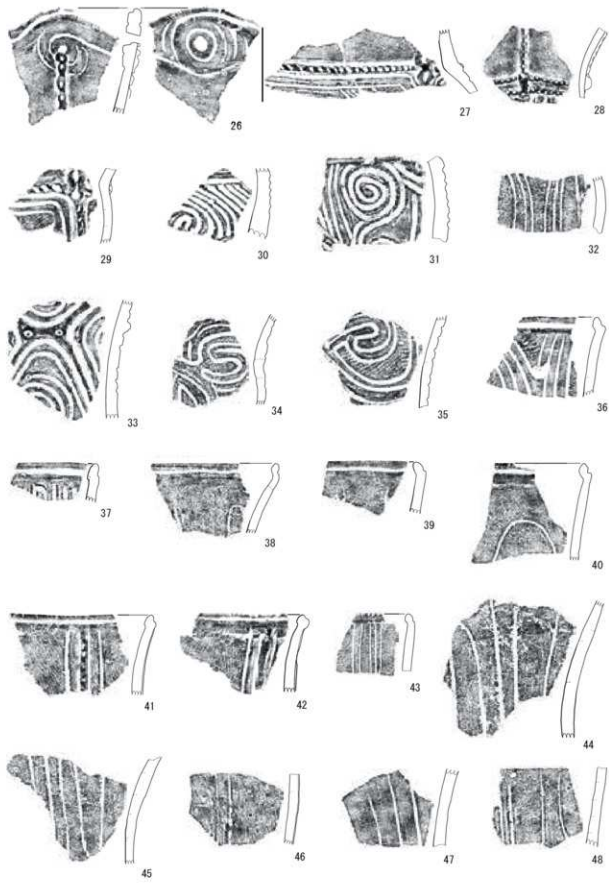
ピット



第48図 第8次調査3号住居跡(3)・土坑・ピット出土遺物

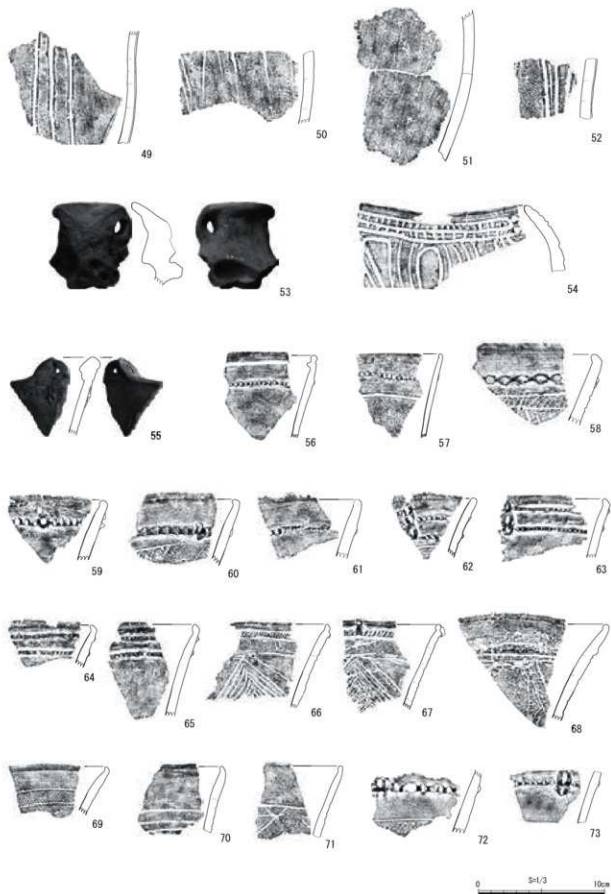


第49図 第8次調査遺構外出土遺物(1)

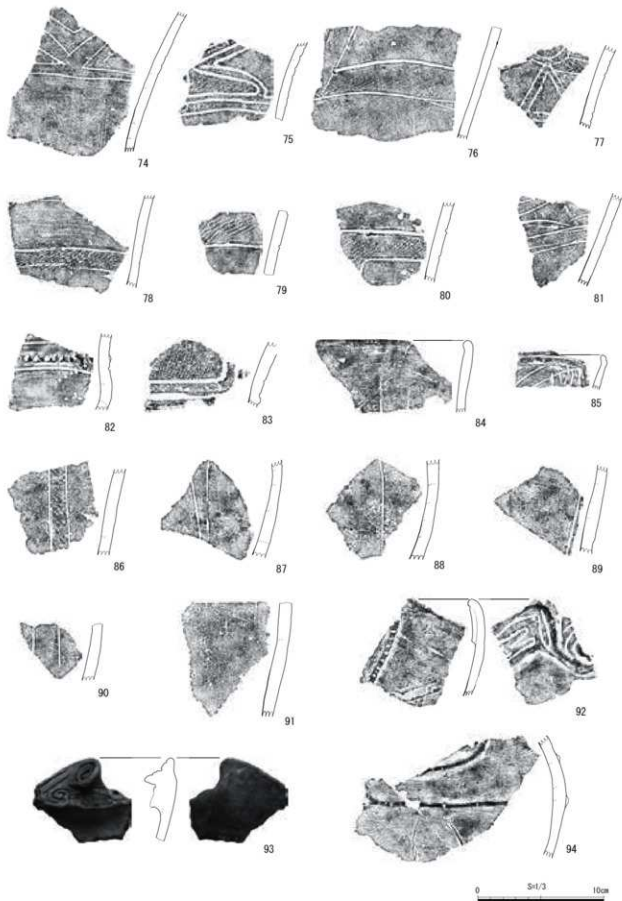


0 S-1/2 10cm

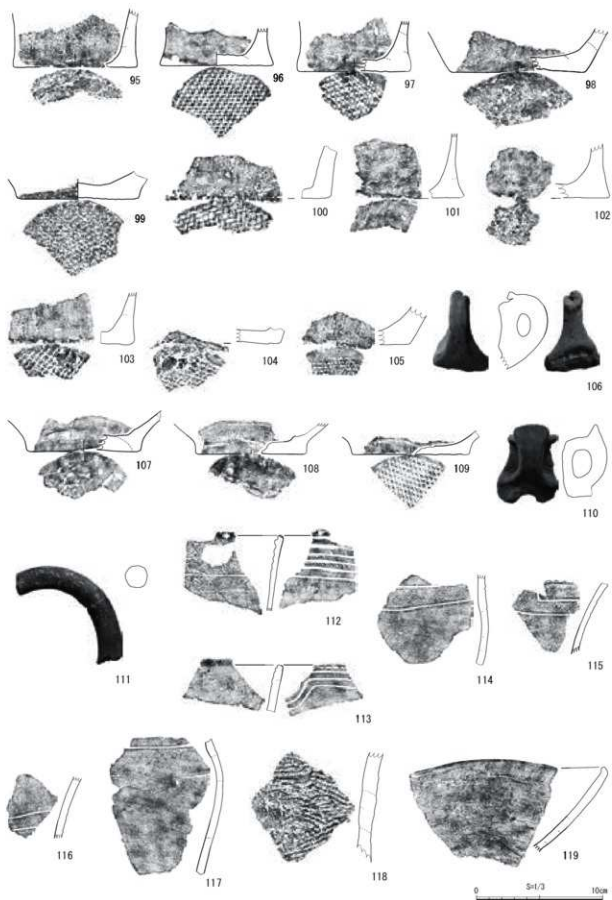
第50図 第8次調査遺構外出土遺物(2)



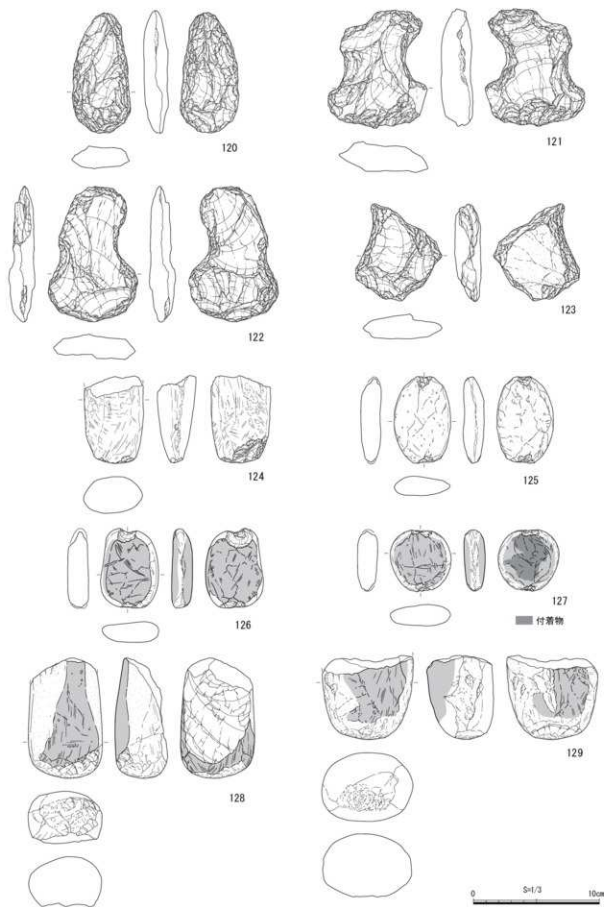
第51図 第8次調査遺構外出土遺物(3)



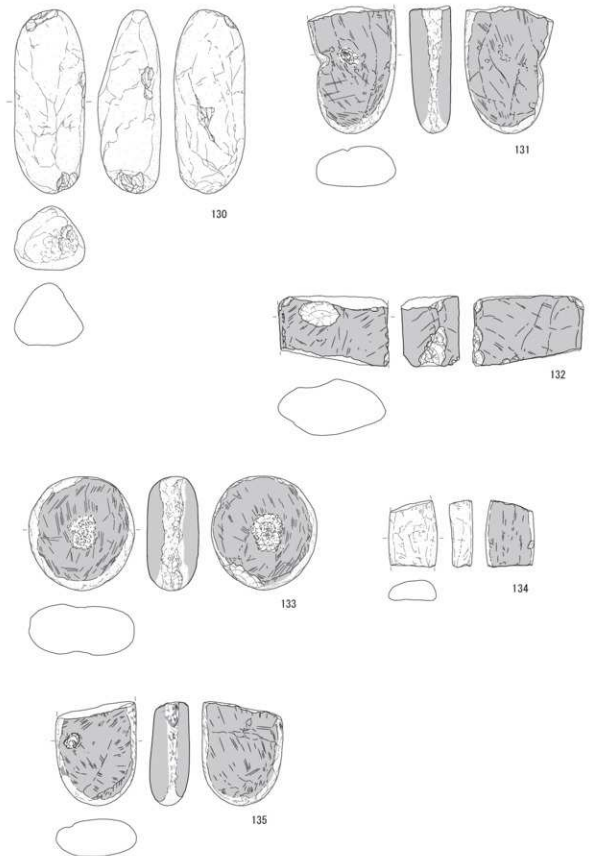
第52図 第8次調査遺構外出土遺物(4)



第53図 第8次調査遺構外出土遺物(5)



第54図 第8次調査遺構外出土遺物(6)



第55図 第8次調査遺構外出土遺物(7)

第12表 第8次調査縄文時代土器観察表(1)

図番	注記	遺跡名	時期	種類	形状	重量(g)	出土	文様	備考			
第-1	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平底	31.0	真石、石灰、小礫	内面黒灰ナナキ	縦線状と並べられる突起、突起下部に2×2の孔。縦線右端に並列した4×4の孔と並べられる縦線あり	-	-	
第-2	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	-	38.6	真石、小礫、赤色粘土	内面黒灰瓦ナキ	縦線による縦線。突起1×1×1の突起。一段落帯に平行な縦線あり	-	粘土に硬き多く含む	
第-3	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	-	44.4	真石、角閃石、小礫	内面ナナキ	縦線による縦線。突起帯、突起下部に2×2の孔。縦線右端に並列した4×4の孔と並べられる縦線あり	多数条	粘土に角閃石を多量含む。内面に黒色粘着が多量に付着	
第-4	第8-1	15号土坑	1号住居	中層-浅層部	深鉢形器	1107.1	真石、雲母、小礫	外周縁部ナナキ突起あり、内面黒灰ナナキ突起あり	縦線あり	-	残高約270mm、高さ約130cm、残高半部まで17cm、現代収容物約10cm。一部は土中に粘土が散置。粘土に小礫を多く含む	
第-5	第8-1	1号住居	1号住居	深鉢形器	-	26.2	真石、石灰、小礫	内面黒灰ナナキ	1条の縦線付帯。突起帯上部に2条1条の縦線による文様。横文あり	1,3横線	-	
第-6	第8-1	1号住居	1号住居	深鉢形器	-	33.7	真石、雲母、小礫	内面黒灰ナナキ	2条の突起による文様。突起帯に横文あり	1,3横線	-	
第-7	第8-1	15号土坑	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁小突起あり	38.7	真石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面黒灰ナナキ	縦線に粘土をねじった突起帯の突起あり。3×2の孔あり。横文あり。2条の突起による縦線あり	縦線	-
第-8	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	34.2	真石、雲母、角閃石、小礫	内面黒灰ナナキ	縦線に粘土をねじった突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	1,3横線	1,3横線	
第-9	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	57.9	真石、小礫、赤色粘土	内面黒灰ナナキ、口唇部ナナキ、内面黒灰ナナキ	横線付帯の突起。口唇部の突起	-	-	
第-10	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	38.7	真石、雲母、角閃石、小礫	外周縁部ナナキ、口唇部ナナキ、内面黒灰ナナキ	縦線に粘土をねじった突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	-	-	
第-11	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	49.0	真石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面黒灰ナナキ、口唇部ナナキ、内面黒灰ナナキ	口縁に粘土をねじった突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	-	-	
第-12	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	34.0	真石、雲母、角閃石、小礫	内面ナナキ、口唇部ナナキ、内面黒灰ナナキ	口縁に粘土をねじった突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	-	内面に黒色の付着物が多量に見られる	
第-13	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	-	39.2	真石、角閃石、小礫、赤色粘土	外周縁部ナナキ、内面黒灰ナナキ	1条の突起帯付帯。突起帯上部に横文あり	-	-	
第-14	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	-	40.9	真石、雲母、角閃石、小礫、赤色粘土	内面黒灰ナナキ	突起帯下部に突起による文様	-	-	
第-15	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	57.4	真石、雲母、角閃石、小礫	内面黒灰ナナキ	縦線に粘土をねじった突起帯	-	-	
第-16	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	-	55.6	真石、石灰、小礫	内面黒灰ナナキ	縦線による文様	-	-	
第-17	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	-	49.1	真石、石灰、角閃石、小礫	内面黒灰ナナキ	縦線による文様	-	-	
第-18	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	-	25.5	真石、石灰、雲母、赤色粘土	内面黒灰ナナキ	縦線に粘土をねじった突起帯	-	-	
第-19	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	-	30.1	真石、雲母、角閃石、小礫、赤色粘土	内面黒灰ナナキ	縦線に粘土をねじった突起帯	-	-	
第-20	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	-	58.8	真石、石灰、角閃石、小礫、赤色粘土	内面黒灰ナナキ	縦線付帯付帯。突起帯による突起帯の突起。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	1,3横線	行形突起には竹筴状工具を推測。2号住居の残高が約20cm、20号一帯	
第-21	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	-	27.2	真石、石灰、角閃石、小礫、赤色粘土	内面黒灰ナナキ	縦線に粘土をねじった突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	-	行形突起には竹筴状工具を推測。20号一帯	
第-22	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	-	56.6	真石、石灰、雲母、角閃石、赤色粘土	外周縁部ナナキ、内面黒灰ナナキ	突起帯による突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	1,3横線	-	
第-23	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	29.2	真石、小礫、赤色粘土	外周縁部ナナキ、内面黒灰ナナキ	口縁に粘土をねじった突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	-	外面に黒色の付着物が多量に見られる	
第-24	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	30.3	真石、角閃石、小礫	外周縁部ナナキ、口唇部ナナキ、内面黒灰ナナキ	口縁に粘土をねじった突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	-	-	
第-25	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	-	63.4	真石、雲母、角閃石、小礫、赤色粘土	外周縁部ナナキ、内面黒灰ナナキ	縦線に粘土をねじった突起帯	-	-	
第-26	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	-	54.1	真石、石灰、小礫、赤色粘土	内面黒灰ナナキ	縦線に粘土をねじった突起帯	-	-	
第-27	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	340.4	真石、石灰、角閃石、小礫	外周縁部ナナキ、口唇部ナナキ、内面黒灰ナナキ	2条の突起帯による突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	1,3横線	残高約110cm、高さ約220cm、残高半部まで17cm、現代収容物約10cm。一部は土中に粘土が散置	
第-28	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	39.2	真石、石灰、角閃石、小礫	外周縁部ナナキ、口唇部ナナキ、内面黒灰ナナキ	2条の突起帯による突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	1,3横線	27、28号一帯	
第-29	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	96.6	真石、石灰、角閃石、小礫	外周縁部ナナキ、口唇部ナナキ、内面黒灰ナナキ	口縁に粘土をねじった突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	1,3横線	-	
第-30	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	61.0	真石、雲母、角閃石、小礫	外周縁部ナナキ、口唇部ナナキ、内面黒灰ナナキ	口縁に粘土をねじった突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	-	-	
第-31	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	29.9	真石、石灰、雲母、小礫、赤色粘土	外周縁部ナナキ、口唇部ナナキ、内面黒灰ナナキ	口縁に粘土をねじった突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	1,3横線	-	
第-32	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	19.7	真石、角閃石、小礫	外周縁部ナナキ、口唇部ナナキ、内面黒灰ナナキ	口縁に粘土をねじった突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	-	-	
第-33	第8-1	1号住居	縄文2	深鉢形器	平口縁	124.4	真石、石灰、角閃石、小礫	外周縁部ナナキ、口唇部ナナキ、内面黒灰ナナキ	口縁に粘土をねじった突起帯。突起帯下部に突起あり。突起帯に横文あり	1,3横線	粘土に小礫を多く含む。2号住居は同一帯の可能性がある	

第13表 第8次調査縄文時代土器観察表(2)

器名	図記	遺構	時期	層	形状	口径	高さ	胎土	文様	備考
29-34 8B 1号住	1号住	縄文内2	深溝部	平底	77.5	長石、石灰	外面磨粒1ギキ、 口縁部1ギキ、内 面磨粒1ギキ	口縁部文様。沈泥による三角 状の文様。沈泥間に横文。文 様は2本並列する。	縦線状・ 斜線	-
29-35 8B 1号住	1号住	縄文内2	浅溝口縁部	平底	43.0	長石、石灰、内四石、 小礫	外面磨粒1ギキ	長條による三角状。底状の文 様。底状の文様を帯状のよう に横文。	縦線状・ 横線	-
29-36 8B 1号住	1号住	縄文内2	深溝部	-	21.8	長石、内四石、小礫、 赤色粘土	内面磨粒1ギキ	縦文に横文。沈泥による三角 状の文様。沈泥による文様 間に横文。	縦線状	-
29-37 8B 1号住	1号住	縄文内2	深溝部	-	16.2	長石、石灰、内四石、 小礫	外面磨粒1ギキ	2本の沈泥間に横文を並列し た帯状の横文による文様。	縦線状	-
29-38 8B 1号住	1号住	縄文内2	深溝部	-	22.4	長石、内四石	内面磨粒1ギキ	2本の沈泥間に横文を並列し た帯状の横文による文様。	縦線状	-
29-39 8B 3号住	1号住	縄文内2	浅溝口縁部	浅溝口縁	47.2	長石、内四石、赤色 粘土	口縁部1ギキ、内面 磨粒1ギキ	縦線部に横線状の沈泥あり。横 溝部から底状の沈泥が垂れ下 り。内側の横文支文。	-	内面に横色の帯状 横文。高溝内径上 39-42同一個体
29-40 8B 3号住	1号住	縄文内2	深溝部	-	68.0	長石、内四石、赤色 粘土	内面磨粒1ギキ	沈泥による文様。沈泥部に斜 交文様。	-	29-42同一個体
29-41 8B 3号住	1号住	縄文内2	深溝部	-	40.9	長石、内四石、赤色 粘土	内面磨粒1ギキ	縦文に横文による文様	-	遺構内出土。39-42 同個体支文。
29-42 8B 1号住	1号住	縄文内2	深溝部	-	28.2	長石、内四石、赤色 粘土	内面磨粒1ギキ	底状の沈泥を横文支文。縦文 支文。	-	29-42同一個体
29-43 8B 1号中層	1号住	縄文内2	深溝部	-	40.8	長石、内四石、小礫	内面磨粒1ギキ、内面 磨粒1ギキ	2本の沈泥による文様 の文様。沈泥間に斜線支文 を並列。	-	-
29-44 8B 1号住	1号住	縄文内2	浅溝口縁部	平口縁	55.6	長石、赤色、内四石、 小礫、赤色粘土	外面磨粒1ギキ、口 縁部1ギキ、内面 磨粒1ギキ、口縁部 横文支文	口縁部内外共に1ギキの沈泥 あり。2本の底状の沈 泥間に横文支文。光輝文	無線・縦線	胎土に内四石を多く 含む。44-50同一個体
29-45 8B 1号中層	1号住	縄文内2	浅溝口縁部	平口縁	27.0	長石、赤色、内四石、 小礫、赤色粘土	外面磨粒1ギキ	口縁上部横文。口縁に1ギキ の沈泥あり。2本の底状の沈 泥間に横文支文。光輝文	無線・縦線	胎土に内四石を多く 含む。44-50同一個体
29-46 8B 1号住	1号住	縄文内2	深溝部	-	74.7	長石、赤色、内四石、 小礫、赤色粘土	外面磨粒1ギキ、内面 磨粒1ギキ	縦文2本の沈泥間に横文支文	無線・縦線	胎土に内四石を多く 含む。44-50同一個体
29-47 8B 1号住	1号住	縄文内2	深溝部	-	40.6	長石、赤色、内四石、 小礫、赤色粘土	外面磨粒1ギキ、内 面磨粒1ギキ	2本の沈泥間に横文支文	不明	胎土に内四石を多く 含む。44-50同一個体
29-48 8B 1号住	1号住	縄文内2	深溝部	-	52.9	長石、赤色、内四石、 小礫、赤色粘土	外面磨粒1ギキ、内面 磨粒1ギキ	縦文2本の沈泥。縦文2本の沈 泥間に横文支文	無線・縦線	胎土に内四石を多く 含む。44-50同一個体
29-49 8B 1号住	1号住	縄文内2	深溝部	-	75.2	長石、赤色、内四石、 小礫、赤色粘土	外面磨粒1ギキ	縦文の沈泥。縦文2本の沈泥 間に横文支文	無線・縦線	胎土に内四石を多く 含む。44-50同一個体
29-50 8B 1号住	1号住	縄文内2	深溝部	-	59.9	長石、赤色、内四石、 小礫、赤色粘土	外面磨粒1ギキ、内面 磨粒1ギキ	縦文の沈泥。縦文に横文2本 の沈泥が見られる。縦文沈 泥下部支文	-	胎土に内四石を多く 含む。44-50同一個体
29-51 8B 1号中層	1号住	縄文内2	浅溝口縁部	突起あり	36.6	長石、内四石	外面磨粒1ギキ、 内面磨粒1ギキ	主に縦線上部及び内面に文様 あり。沈泥。円筒状文による 文様が見られる。外側に三 角状の沈泥が見られる。	-	-
29-52 8B 1号住	1号住	縄文内2	浅溝口縁部	平口縁	45.5	長石、石灰、内四石	外面磨粒1ギキ	縦文内面支文。内面に横文。 沈泥と円筒状文による支 文支文。	-	-
29-53 8B No.112(1)ア	1号住	縄文内2	浅溝口縁部	平口縁	40.8	長石、石灰、内四石、 小礫	外面磨粒1ギキ、 口縁部1ギキ、内面 磨粒1ギキ	外面支文。内面2本の沈泥に による文様	-	-
29-54 8B No.15a.3	1号住	縄文内	深溝部	平底	212.6	長石、石灰、赤色、 小礫	外面磨粒・横線1 ギキ、底面1ギキ、 底1ギキ、内面1 ギキ	残存部無文	-	底面に横文をなし、 残存部 212.6cm、底 面直径 53.8cm、残存 平底部 1.4
29-55 8B 1号住	1号住	縄文内	深溝部	平底	92.5	長石、小礫、赤色粘 土	外面磨粒1ギキ、 内面磨粒1ギキ	残存部無文	-	底面に横文をなし、 残存部 92.5cm、底 面直径 97.6cm、残存 平底部 1.4、内面に 横線1cmの残存部の工 具で磨いた様な磨跡 が2cm程度見られる
29-56 8B 1号中層	1号住	縄文内	深溝部	平底	103.2	長石、内四石、小礫、 赤色粘土	外面磨粒1ギキ、 横線1ギキ、底面 1ギキ、内面磨粒1 ギキ、底面1ギキ	残存部無文	-	底面に横文をなし、 残存部 103.2cm、底 面直径 117.4cm、残存 平底部 1.2
29-57 8B 1号住	1号住	縄文内	深溝部	平底	143.7	長石、赤色、内四石、 小礫	外面磨粒1ギキ、内面 磨粒1ギキ	残存部無文	-	底面に横文をなし、 残存部 143.7cm、底 面直径 110.0cm、残存 平底部 1.2
29-58 8B 1号住	1号住	縄文内	浅溝口縁部	平口縁	82.0	長石、赤色、内四石、 小礫	口縁部1ギキ、内面 磨粒1ギキ	外面に横文のような文様を並 列した文	-	-
29-59 8B 1号住	1号住	縄文内	深溝部	-	161.8	長石、内四石、小礫、 赤色粘土	外面磨粒1ギキ、 内面磨粒1ギキ	沈泥による底状の文様	-	-
29-60 8B 1号住	1号住	縄文内	深溝部	平底	66.2	長石、石灰、内四石、 小礫	外面磨粒1ギキ、 内面磨粒1ギキ	残存部無文	-	縦線部に底色の付着 物が多量見られる
29-61 8B 2号住・3号住	1号住	縄文内	浅溝口縁部	平底	140.4	長石、石灰、内四石	外面磨粒1ギキ、内面 磨粒1ギキ	沈泥による底状の文様が見ら れる	-	底面に横文。残存部 直径 20cm、底面直 径 25cm、残存平底 部 2.4、2号 住器土層層別適合
29-62 8B 1号住	1号住	縄文内	浅溝又は平口	平底、広 口状	81.6	長石、石灰、赤色	外面磨粒1ギキ、 内面磨粒1ギキ	残存部無文	-	底面に横文。残存部 直径 20cm、底面直 径 35cm、残存平 底部 1.2
29-63 8B 1号住	1号住	後期	浅溝口縁部	平口縁	27.4	長石、赤色、内四石、 小礫	外面磨粒1ギキ、 口縁部1ギキ、 内面磨粒1ギキ	残存部無文	-	-
29-64 8B 1号住	1号住	不明	不明形状	平底	81.1	長石、石灰、内四石、 小礫、赤色粘土	外面磨粒1ギキ、 内面磨粒1ギキ	残存部無文	-	残存部直径 31cm、底 径 30cm、残存平 底部 1.1
29-65 8B 1号住	1号住	不明	浅溝口縁部	平口縁	17.9	長石、内四石、小礫	口縁部1ギキ、内面 磨粒1ギキ	口縁部1ギキの磨跡あり。横 文支文。沈泥による底状の文 様	無線・水	-
29-1 8B 14(1)ウ2号住	2号住	深溝部	突起あり	83.4	長石、石灰、内四石、 小礫、赤色粘土	外面磨粒1ギキ、内面 磨粒1ギキ	底状の突起で底面に孔あり。 沈泥による文様を帯す	-	-	-

第14表 第8次調査縄文時代土器観察表(3)

図番・器名	注記	産地	時期	器種	形状	重量(g)	出土	文様	備考		
42-2	鉢 8 2世	2号住	縄文中期	深鉢口縁部	高狭口縁、尖底あり	34.5	真石、赤石、内四石、小礫、赤色砂子	外周縁部十字、口唇部縦線1本あり、内周縁部十字、内周縁部十字	2条1組の文様による。1組縦に2本、1組横に2本あり	1組縦、1組横	-
43-3	鉢 8 2世	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁、尖底あり	23.8	真石、赤石、内四石、小礫	外周縁部1本あり、内周縁部1本あり	外面に縦線と思われる線が2本あり、口唇部縦線が1本あり、口唇部から内縁にかけて突起が見られ、口縁部に2条1組の縦線と1本の横線あり	-	-
42-4	鉢 8 2号住	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁、尖底の痕あり	64.9	真石、石灰、小礫	外周縁部1針状十字、内周縁部1本あり	縦線に突起があるが、外面に縦線が1本あり、口唇部から内縁にかけて突起が見られる。縦線が2本あり、内周縁部十字に縦線あり	-	-
43-5	鉢 8 130C 2号住	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁、尖底あり	42.2	真石、石灰、赤石、内四石、小礫	外周十字、内周縁部十字	口縁に白く1本の文様、口縁部から口唇部の突起を1本取り、縦線2本あり	-	-
43-6	鉢 8 90C 2号住	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁少、尖底あり	58.3	真石、内四石、小礫、赤色砂子	外周十字縦線1本あり、内周縁部十字縦線1本あり	突起部から1本の突起を1本取り、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり、縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-7	鉢 8 2世	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	高狭口縁、尖底あり	53.1	真石、石灰、小礫	内周十字縦線1本あり	縦線部から1本の突起を1本取り、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-8	鉢 8 2号住	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	-	90.4	真石、内四石、小礫、赤色砂子	内周縁部十字	縦線部から1本の突起を1本取り、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-9	鉢 8 No.147 2号住	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	-	89.7	真石、赤石、内四石、小礫、赤色砂子	内周縁部十字	縦線部から1本の突起を1本取り、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-10	鉢 8 2号住	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	-	30.0	真石、赤石、内四石、小礫	内周縁部十字	縦線部から1本の突起を1本取り、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-11	鉢 8 2号住	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	-	68.2	真石、内四石、小礫	外周縁部1本あり、内周縁部十字	縦線部から1本の突起を1本取り、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-12	鉢 8 2号住	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	-	68.0	真石、赤石、内四石、小礫、赤色砂子	外周縁部十字、内周縁部十字	縦線部から1本の突起を1本取り、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-13	鉢 8 2号住	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁	46.1	真石、内四石、小礫、赤色砂子	外周縁部十字、内周縁部十字	口縁に白く1本の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-14	鉢 8 2世	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁	39.0	真石、赤石、内四石、小礫	外周縁部十字、内周縁部十字	口縁に白く1本の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-15	鉢 8 2世	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁	35.0	真石、内四石、小礫、赤色砂子	外周縁部十字、内周縁部十字	口縁に白く1本の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-16	鉢 8 P-No.1	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁	57.1	真石、赤石、内四石、小礫、赤色砂子	外周縁部十字、内周縁部十字	口縁に白く1本の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-17	鉢 8 2世+鉢 8-1品	2号住	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁、口縁部に突起あり	136.7	真石、内四石、小礫、赤色砂子	外周縁部十字、内周縁部十字	口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-18	鉢 8 2世	2号住	縄文内2	深鉢口縁部	平口縁	46.1	真石、内四石、小礫、赤色砂子	外周縁部十字、内周縁部十字	口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-19	鉢 8 2号住	2号住	縄文内2	深鉢口縁部	平口縁	40.4	真石、赤石	外周縁部1本あり、内周縁部1本あり	口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-20	鉢 8 2世	2号住	縄文内2	深鉢口縁部	平口縁	43.9	真石、赤石、内四石、小礫、赤色砂子	外周縁部十字、内周縁部十字	口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-21	鉢 8 2号住	2号住	縄文内2	深鉢口縁部	平口縁	23.7	真石、赤石、小礫	外周縁部十字、内周縁部十字	口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-22	鉢 8 2世	2号住	縄文内2	深鉢口縁部	平口縁	70.1	真石、赤石、内四石、小礫	外周縁部十字、内周縁部十字	口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-23	鉢 8 2世	2号住	縄文内2	深鉢口縁部	平口縁	42.0	真石、赤石、内四石、小礫	外周縁部十字、内周縁部十字	口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-24	鉢 8 2世	2号住	縄文内2	深鉢口縁部	平口縁	192.0	真石、内四石、小礫、赤色砂子	外周縁部十字、内周縁部十字	口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-25	鉢 8 1世+鉢 8-1品	2号住	縄文内2	深鉢口縁部	平口縁	74.9	真石、内四石、小礫、赤色砂子	外周縁部十字、内周縁部十字	口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-26	鉢 8 2世	2号住	縄文内2	深鉢口縁部	-	108.3	真石、内四石、小礫、赤色砂子	外周縁部十字、内周縁部十字	口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-27	鉢 8 2号住	2号住	縄文内2	深鉢口縁部	底	54.9	真石、赤石、内四石、小礫	外周縁部1本あり、内周縁部1本あり	口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-28	鉢 8 2号住	2号住	縄文内2	深鉢口縁部	底	21.6	真石、石灰	外周縁部1本あり、内周縁部1本あり	口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-
43-29	鉢 8 2号住	2号住	縄文内2	深鉢口縁部	底	41.3	真石、赤石	外周縁部1本あり、内周縁部1本あり	口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様、口唇部から口唇部まで縦線に2本の縦線による十字状の文様あり	-	-

第15表 第8次調査縄文時代土器観察表(4)

器名・番号	注記	産地	時期	形状	口径	高さ	胎土	文様	備考
44-30	移8 2号位	2号位	縄文(緑部)付	底	19.2	真石、小椀	外面磨粒土質、内面磨粒土質	縦位・縦位の隆起、縦位隆起上に縦文施文	-
44-31	移8 14イウ	2号位	縄文(内2)	深鉢部	-	107.8	真石、内四石、小椀	外面磨粒土質、内面磨粒土質	2条の北側に縦文を施した帯状の縦文による文様、三角状の文様になる
44-32	移8 2位	2号位	縄文(内2)	深鉢部	-	50.3	真石、内四石、小椀、赤色胎子	外面磨粒土質	2条の北側に縦文を施した帯状の縦文による文様、三角状の文様になる
44-33	移8 Na10イウ	2号位	縄文(内2)	深鉢部	-	35.2	真石、内四石、赤色胎子	外面磨粒土質、内面磨粒土質	2条の北側に縦文を施した帯状の縦文による文様、三角状の文様になる
44-34	移8 2位	2号位	縄文(内2)	深鉢部	-	21.8	真石、内四石、赤色胎子	外面磨粒土質、内面磨粒土質	2条の北側に縦文を施した帯状の縦文による文様、三角状の文様になる
44-35	移8 2位	2号位	縄文(内2)	深鉢部	-	104.3	真石、内四石、小椀	外面磨粒土質、縦位・縦位土質、内面磨粒土質	縦位・縦位に縦文を施した帯状の縦文による文様、三角状の文様になる
44-36	移8 No.11イウ	2号位	縄文(内2)	深鉢部	-	42.6	真石、内四石	外面磨粒土質	北側に縦文を施した帯状の縦文による文様、三角状の文様になる
44-37	移8 2位	2号位	縄文(内2)	深鉢部	-	21.6	真石、内四石	外面磨粒土質、縦位土質	北側に縦文を施した帯状の縦文による文様、三角状の文様になる
44-38	移8 2位	2号位	縄文(内2)	深鉢部	-	34.5	真石、内四石、小椀、赤色胎子	外面磨粒土質、縦位土質	北側に縦文を施した帯状の縦文による文様、三角状の文様になる
44-39	移8 14イウ	2号位	縄文(内2)	深鉢部	-	31.0	真石、内四石、赤色胎子	外面磨粒土質、内面磨粒土質	外面に縦文を施した帯状の縦文による文様、三角状の文様になる
44-40	移8 No.14イウ	2号位	縄文(内2)	深鉢部	-	20.1	真石、内四石、小椀	外面磨粒土質、縦位土質、内面磨粒土質	縦位・縦位に縦文を施した帯状の縦文による文様、三角状の文様になる
44-41	移8 2号位	2号位	縄文(内2)	深鉢部	-	32.8	真石、内四石、小椀	外面磨粒土質、縦位土質、内面磨粒土質	縦位・縦位に縦文を施した帯状の縦文による文様、三角状の文様になる
44-42	移8 2位	2号位	縄文(内2)	口口上部部	-	26.6	真石、内四石、小椀、赤色胎子	外面磨粒土質、縦位土質	縦位・縦位の隆起による文様
44-43	移8 P-No.2	2号位	縄文(内)	深鉢部	平底	208.1	真石、内四石、小椀	外面磨粒土質、縦位土質	縦位隆起
44-44	移8 2位	2号位	縄文(内)	深鉢部	平底	36.6	真石、内四石、小椀、赤色胎子	外面磨粒土質	縦位隆起
44-45	移8 2位	2号位	縄文(内)	深鉢部	平底、広口	103.5	真石、内四石、小椀、赤色胎子	外面磨粒土質、内面磨粒土質	縦位隆起
44-46	移8 2位	2号位	縄文(内)	深鉢部	平底	62.8	真石、内四石、小椀、赤色胎子	外面磨粒土質、縦位土質、内面磨粒土質	縦位隆起
44-47	移8 2位	2号位	縄文(内)	深鉢部	平底	40.9	真石、内四石、小椀	外面磨粒土質、縦位土質	縦位隆起
44-48	移8 14イウ	2号位	縄文(内)	深鉢部	平底	37.3	真石、内四石、小椀	外面磨粒土質、縦位土質、内面磨粒土質	縦位隆起
44-49	移8 2位	2号位	縄文(内)	深鉢部	平底	63.4	真石、内四石、小椀	外面磨粒土質、縦位土質	縦位隆起
44-50	移8 2位	2号位	縄文(内)	深鉢部	平底	47.4	真石、内四石、小椀	外面磨粒土質、縦位土質	縦位隆起
44-51	移8 2位	2号位	縄文(内)	口口上部部	口口上部部、口口に突起	56.7	真石、内四石、小椀	外面磨粒土質、縦位土質	縦位隆起
44-52	移8 P-No.4+移8 2位	2号位	加群別B1	口口上部部	口口上部部	338.4	真石、内四石、小椀	外面磨粒土質、縦位土質、内面磨粒土質	口口上部部について1条の隆起を施す、隆起上に半環状の文様を施す、2条の隆起の一部と1条の隆起による文様
46-1	移8 No.4	3号位	内中(中)	深鉢部	平口縁	3942.5	真石、内四石、小椀	外面磨粒土質、縦位土質、内面磨粒土質	帯状の縦文による文様、縦位隆起による文様、三角状の文様になる
47-2	移8 ARP一括	3号位	中期	深鉢部	平口縁	156.8	真石、内四石、小椀、赤色胎子	外面磨粒土質、口口上部部、内面磨粒土質	縦位隆起
47-3	移8 ARP一括	3号位	中期後	深鉢部	-	30.7	真石、内四石、小椀	外面磨粒土質、縦位土質	縦位隆起
47-4	移8 ARNo.5	3号位	縄文(内)	深鉢部	平口縁	457.4	真石、内四石、小椀、赤色胎子	外面磨粒土質、口口上部部、内面磨粒土質	縦位隆起
47-5	移8 ARP一括	3号位	縄文(内)	深鉢部	-	54.4	真石、内四石、小椀、赤色胎子	外面磨粒土質、縦位土質	縦位隆起

第16表 第8次調査縄文時代土器観察表(5)

図番	種別	注記	遺跡名	時期	形態	形状	容量(L)	出土	文様	備考		
47-6	砂8AⅠ-1組	3号住	縄之内2	深鉢口縁部	平口縁	35.6	真石、角四石、小樽、赤色粘土	外面横線土ぎ、内面横線土ぎ	口縁に白うす1条の横線、袋帯土や甲1幅文、内面に波線による文様、内面横線部は横波状線を縦線文、突起線、下に横線横文	-	横線あり、外面から内面に白く塗っての帯文で横線が隠れる。横線部の外面横線1.2cm、内径3.5cm	
47-7	砂8AⅠ序1組	1号住	縄之内2	深鉢口縁部	平口縁	19.3	真石、角四石、小樽、赤色粘土	外面横線土ぎ、口縁部土ぎ、内面横線土ぎ	口縁に白うす1条の横線、袋帯土	-		
47-8	砂8AⅠ序1組	3号住	縄之内2	深鉢口縁部	平口縁	26.1	真石、角四石、小樽、赤色粘土	口縁部土ぎ、内面横線土ぎ	口縁に白うす1条の横線、袋帯土や甲1幅文、8字状の横文	-	外側に黒色の付着物が観察見られる	
47-9	砂8AⅠ序1組	3号住	縄之内2	深鉢口縁部	平口縁	46.7	真石、角四石、小樽、赤色粘土	外面横線土ぎ、口縁部土ぎ、内面横線土ぎ	口縁に白うす1条の横線、袋帯土、口縁部には横文横文、横文下部に横かに横波状線が見られる	-		
47-10	砂8AⅠ序1組	3号住	縄之内2	深鉢口縁部	平口縁	29.3	真石、石瓦、角四石、小樽、赤色粘土	外面横線土ぎ、内面横線土ぎ	文様の区別用に横文を施文し、口縁部土ぎ、内面横線土ぎ	縦線状		
47-11	砂8AⅠ序1組	3号住	縄之内2	深鉢胴部	-	24.2	真石、角四石、小樽、赤色粘土	外面横線土ぎ、口縁部土ぎ、内面横線土ぎ	縦文1条の横線、横文上側に横波状線、横文1条の横線、下部に横波状線	1.8か	胎土に角四石が多く含む	
47-12	砂8AⅠ序1組	3号住	縄之内2	深鉢胴部	-	24.6	真石、角四石、赤色粘土	外面横線土ぎ、内面横線土ぎ	2条の波線用に横文を施文し、6字状の横文による文様、3角状の突起線による文様	縦線状	外側に黒色の付着物が観察見られる	
47-13	砂8AⅠ序表土1号住	3号住	縄之内2	深鉢胴部	-	33.3	真石、石瓦、角四石、小樽	外面土ぎ、内面横線土ぎ	横波状線による横文が見られる	1.8か		
47-14	砂8AⅠ序1組	3号住	縄之内2	深鉢口縁部	平口縁	28.4	真石、石瓦、角四石、小樽	外面横線土ぎ、口縁部土ぎ、内面横線土ぎ	縦線状による文様	-		
47-15	砂8AⅠNo.1	3号住	縄之内	深鉢胴部	平底	52.8	真石、角四石、小樽	内面土ぎ、外面横線土ぎ	横波状線	-	残存高さ10cm、想定直径約25cm、残存半胴部1/4、底面に割代あり	
47-16	砂8AⅠNo.1組	3号住	縄之内	深鉢胴部	平底	27.5	真石、石瓦、角四石、内面土ぎ	外面横線土ぎ、内面土ぎ	横波状線	-	残存高さ10cm、想定直径約25cm、残存半胴部1/6、底面に割代あり	
47-17	砂8AⅠNo.3	3号住	縄之内	深鉢胴部	平底	68.1	真石、角四石、小樽、赤色粘土	内面土ぎ	横波状線	-	残存高さ14cm、想定直径約30cm、残存半胴部1/3、底面に割代あり	
47-18	砂8AⅠ組	3号住	縄之内	深鉢胴部	平底	39.7	真石、石瓦、角四石、小樽、赤色粘土	外面横線土ぎ、内面土ぎ	横波状線	-	残存高さ17cm、想定直径約16cm、残存半胴部1/2、底面に割代あり	
47-19	砂8AⅠ組	3号住	縄之内	深鉢胴部	平底	49.3	真石、角四石、小樽、赤色粘土	外面横線土ぎ、内面土ぎ	横波状線	-	残存高さ16cm、想定直径約25cm、残存半胴部1/5、底面に割代あり	
48-20	砂8AⅠNo.1組	3号住	加賀川B1	深鉢口縁部	平口縁	59.9	真石、石瓦、角四石、小樽、赤色粘土	外面横線土ぎ、口縁部土ぎ、内面横線土ぎ	縦線による横線文	-		
48-21	砂8AⅠ組	3号住	加賀川B1	深鉢口縁部	高狭口縁	30.7	真石、角四石、赤色粘土	外面横線土ぎ、内面横線土ぎ	外面横文、内面に複数の縦波線による文様、波線部に甲や土瓦文、口縁部に突起線のものは見られる	-		
48-22	砂8AⅠ組	3号住	加賀川B1	深鉢口縁部	高狭口縁	18.5	真石、石瓦、角四石、小樽	外面横線土ぎ、内面横線土ぎ	外面横文、内面に複数の縦波線による文様、同心状の突起線が見られる	-	外側に甲や平角瓦状の突起線が見られる、突起線の観察あり	
48-23	砂8AⅠNo.1組	3号住	加賀川B1	深鉢口縁部	高狭口縁	23.3	真石、石瓦、角四石、小樽	外面横線土ぎ、内面横線土ぎ	外面横文、内面に口縁に白うす1条の横線と横波状線による文様、波線部に甲や土瓦文	-		
48-24	砂8AⅠNo.2	3号住	加賀川B1	深鉢口縁部	高狭口縁	56.5	真石、石瓦、赤色粘土	外面横線土ぎ、内面横線土ぎ	縦線に甲や土瓦文、口縁部土ぎ、内面横線土ぎ	縦線に甲や土瓦文、口縁部土ぎ、内面横線土ぎ	-	
48-25	砂8AⅠ序1組	3号住	加賀川B1	深鉢口縁部	高狭口縁	12.4	真石、石瓦、角四石	内面土ぎ	外面横文、内面に口縁に白うす1条の横線と横波状線による文様、波線部に甲や土瓦文	-	内面には甲や管状土器を使用	
48-26	砂8AⅠ序1組	3号住	加賀川B1	深鉢口縁部	平口縁	41.5	真石、石瓦、小樽	外面横線土ぎ、口縁部土ぎ、内面横線土ぎ	横文と突起線が確認されているため詳細に調査	-		
48-27	砂8AⅠNo.1組	3号住	加賀川B1	深鉢口縁部	平口縁	48.1	真石、角四石、小樽	口縁部土ぎ、内面横線土ぎ	3部横文、下部に横波状線	1.8単位	外側に黒色の付着物が多く見られる。胎土に角四石が多く含む	
48-1	砂8AⅠNo.1	1号土	縄之内2	深鉢口縁部	平口縁	720.5	真石、石瓦、角四石、小樽、赤色粘土	外面横線土ぎ、口縁部土ぎ、内面横線土ぎ	縦線に横波状線を縦線文とする	-	残存高さ22.5cm、想定直径約46cm、残存半胴部1/2、底面に割代あり	
48-1	砂8AⅠNo.2	1号土	縄之内2	深鉢口縁部	平口縁	172.9	真石、石瓦、角四石、小樽	外面横線土ぎ、内面横線土ぎ	1面に横波状線による文様、比喩的横波状線による文様、横波状線以下は横波状線	1.8か	残存高さ104cm、胴部最大径194cm、残存半胴部1/4、その断面はほぼ同一胴部1/3径約4cmあり	
48-1	砂8AⅠNo.3	1号土	縄之内2	深鉢胴部	-	38.4	真石、石瓦、角四石、小樽、赤色粘土	外面横線土ぎ、内面横線土ぎ	縦線状による文様	-	胎土に角四石が多く含む	
48-1	砂8AⅠNo.4	1号土	縄之内1	深鉢胴部	-	27.8	真石、石瓦、角四石、小樽、赤色粘土	外面横線土ぎ、内面横線土ぎ	横文と突起線による意匠文様の文様、波線部横文	縦線状	外側に黒色の付着物が多く見られる	
48-2	砂8AⅠNo.2	1号土	深鉢胴部	-	37.3	真石、角四石、小樽、赤色粘土	外面横線土ぎ	横文による意匠文様の区別、突起線	-			
48-3	砂8AⅠNo.2	1号土	深鉢口縁部	平口縁	37.1	真石、石瓦、角四石、小樽、赤色粘土	口縁部土ぎ、内面横線土ぎ	縦線状	縦線状	-		
48-1	砂8AⅠNo.1	1号土	深鉢口縁部	平口縁	54.0	真石、石瓦、角四石、小樽	外面横線土ぎ、口縁部土ぎ、内面横線土ぎ	横文と突起線	横文と突起線	-		

第17表 第8次調査縄文時代土器観察表(6)

器名	注記	遺物名	時期	産地	形状	口径	胎土	文様	備考			
01-2	砂8 中中層	遺物名 砂瓶	中層 2(7層)	深溝口産部	平口縁	75.8	長石、小礫	口唇部ナラ、内面縁部ナラ	口縁部、腹に帯状に横文と縦文、帯帯に沿って横状に波文と点状ナラと点状ナラ横文とした点状の横状波状の文様が認められる。左面に帯状に波状した縦部の中ナラが認められる	口縁部、腹に帯状に横文と縦文、帯帯に沿って横状に波文と点状ナラと点状ナラ横文とした点状の横状波状の文様が認められる。左面に帯状に波状した縦部の中ナラが認められる	口縁部、腹に帯状に横文と縦文、帯帯に沿って横状に波文と点状ナラと点状ナラ横文とした点状の横状波状の文様が認められる。左面に帯状に波状した縦部の中ナラが認められる	胎土に波帯を多く含む。磨粒孔が1つ程度あり、内外面の磨粒から穿孔している。外面は磨粒径より最大1.8cm、最小1cm、内面は約0.5mm程度
01-3	砂8 中中層	遺物名 砂瓶	中層 2(7層)	深溝口産部	-	23.6	長石、炭屑	内面ナラ	平行波帯による横文、縦帯を特徴とする平行波帯に横状波状の文、縦帯に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む。無い
01-4	砂8 中中層	遺物名 砂瓶	中層 3	深溝口産部	-	37.1	石英、炭屑	内面ナラ	横状の帯状文、縦帯を帯状に、帯帯の上に波帯を横状文、帯の上に平行波帯による文様が認められる	-	-	-
01-5	砂8 中中層	遺物名 中層一層	中層一層	深溝口産部	平口縁	61.7	長石、石英、角閃石、小礫	口唇部ミナラ、内面縁部ミナラ	縦帯に横状波状の文	-	-	-
01-6	砂8 中中層	遺物名 中層一層	中層一層	深溝口産部	平口縁	30.3	長石、小礫、赤色砂粒子	内面ナラ、底面ナラ	縦帯に横状波状の文	-	-	内径が約2.5cm、底径が約1.8cm、残存率約1/1。外面に磨粒を細く見られるが、内面の磨粒がやや粗く見られる。胎土に赤帯を多く含む。
01-7	砂8 中中層	遺物名 中層一層	中層一層	深溝口産部	平口縁	145.6	長石、角閃石、小礫、赤色砂粒子	内面ナラ、底面ナラ、内面ナラ	縦帯に横状波状の文	-	-	底面に磨粒を含む。残存率約1/3cm、底径約1.8cm、残存率約1/1
01-8	砂8 中中層	遺物名 赤子古	中層一層	深溝口産部	平口縁	51.7	長石、小礫	口唇部ミナラ、内面縁部ミナラ	口縁部無文、横帯1本の横状波状による横文、縦帯に横状波状の文	口縁部、腹に帯状に横文と縦文、帯帯に沿って横状に波文と点状ナラと点状ナラ横文とした点状の横状波状の文様が認められる。左面に帯状に波状した縦部の中ナラが認められる	胎土に波帯を多く含む	
01-9	砂8 中中層	遺物名 赤子古	中層一層	深溝口産部	平口縁	25.8	長石、角閃石	内面ナラ	縦帯に横状波状の文	口縁部、腹に帯状に横文と縦文、帯帯に沿って横状に波文と点状ナラと点状ナラ横文とした点状の横状波状の文様が認められる。左面に帯状に波状した縦部の中ナラが認められる	胎土に波帯を多く含む	
01-10	砂8 中中層	遺物名 赤子古	中層一層	深溝口産部	-	37.4	長石、角閃石、小礫、赤色砂粒子	内面縁部ミナラ、底面ミナラ	縦帯に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-11	砂8 中中層	遺物名 赤子古	中層一層	深溝口産部	-	58.4	長石、石英、小礫、赤色砂粒子	内面縁部ミナラ、底面ミナラ	縦帯に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-12	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	変形	48.5	長石、小礫、赤色砂粒子	内面ナラ、内面ナラ	縦帯に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-13	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	変形	27.2	長石、小礫	底面縁部	縦帯に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-14	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	平口縁	52.9	長石、角閃石、小礫、赤色砂粒子	内面ナラ、口唇部ミナラ、内面ナラ	口縁部に横状波状の文、縦帯に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-15	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	平口縁	36.3	長石、石英、角閃石	内面縁部ミナラ、口唇部ミナラ、内面縁部ミナラ	口縁部に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-16	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	-	33.9	長石、石英、赤色砂粒子	内面縁部ミナラ、口唇部ミナラ、内面縁部ミナラ	口縁部に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-17	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	平口縁	31.9	長石、炭屑、角閃石、小礫	内面縁部ミナラ、口唇部ミナラ、内面縁部ミナラ	口縁部に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-18	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	平口縁	18.7	長石、炭屑、角閃石、小礫	内面縁部ミナラ、口唇部ミナラ、内面縁部ミナラ	口縁部に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-19	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	平口縁	26.9	長石、炭屑、角閃石、小礫	内面縁部ミナラ、口唇部ミナラ、内面縁部ミナラ	口縁部に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-20	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	平口縁	35.4	長石、炭屑、角閃石、小礫	内面縁部ミナラ、口唇部ミナラ、内面縁部ミナラ	口縁部に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-21	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	平口縁	53.6	長石、石英、角閃石、小礫	内面縁部ミナラ、口唇部ミナラ、内面縁部ミナラ	口縁部に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-22	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	平口縁	82.8	長石、炭屑、角閃石、小礫	内面縁部ミナラ、口唇部ミナラ、内面縁部ミナラ	口縁部に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-23	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	平口縁	51.9	長石、小礫、赤色砂粒子	内面ナラ、口唇部ミナラ、内面縁部ミナラ	口縁部に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-24	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	変形	21.7	長石、石英、小礫	口唇部ミナラ、内面縁部ミナラ	口縁部に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-25	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	平口縁	61.6	長石、石英、角閃石、小礫、赤色砂粒子	内面ナラ、口唇部ミナラ、内面ナラ	口縁部に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-26	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	変形	75.4	長石、石英、角閃石、小礫、赤色砂粒子	内面縁部ミナラ、口唇部ミナラ、内面縁部ミナラ	口縁部に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む
01-27	砂8 中中層	遺物名 瓶之内	深溝口産部	深溝口産部	-	91.2	長石、石英、角閃石、小礫、赤色砂粒子	内面縁部ミナラ、口唇部ミナラ、内面縁部ミナラ	口縁部に横状波状の文	-	-	胎土に波帯を多く含む

第18表 第8次調査縄文時代土器観察表(7)

図番	種別	注記	遺物名	時期	産地	形状	重量(g)	胎土	文様	備考	
50-28	砂土丸形	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	30.2	長石、石英、小礫	外周ナナギ、内周ナギ一部縦線1本ナギ	縦線2本の隆帯、隆帯上に同形縦文、2本の隆帯を繋ぐ縦帯の短柱文、縦帯の短柱文に向かって1本の隆帯が垂下し、隆帯に浅い押印。2本の隆帯下部には縦線による文様	-	外周に黄色の付着物が多く見られる
50-29	砂土一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	36.9	長石、石英、小礫	内周縦線ナナギ	縦線、縦帯の隆帯短柱、隆帯上に縦文文脈、隆帯の突起に半環状の短柱文、隆帯に沿って1本の隆帯が垂下し、隆帯に浅い押印。2本の隆帯下部には縦線による文様	短柱	外周に黄色の付着物がよく見られる。胎土に石英が多く含まれる
50-30	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	43.0	長石、石英、小礫	内周縦線ナナギ	縦線による文脈	-	-
50-31	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	102.8	長石、石英、雲母、角閃石、小礫	内周縦線ナナギ	縦線による文脈、隆帯文	-	-
50-32	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	31.3	長石、小礫、赤色粘土	内周ナナギ	縦線による文脈	-	-
50-33	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	89.9	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粘土	内周ナナギ	隆帯による押印状の文脈、隆帯に沿って縦線による文脈、内帯の縦文文脈と*横見られる	-	内周縦線には竹管模文を施す。33-35同一体
50-34	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	43.8	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粘土	内周縦線ナナギ横線、赤土ナギ	横文文脈、沈線による隆帯の文脈	1.8縦帯	33-35同一体
50-35	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	34.3	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粘土	内周1本ナギ	縦文文脈、沈線縦帯を横断した横文文脈	1.8縦帯	33-35同一体
50-36	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁	46.1	長石、石英、雲母、角閃石、小礫	口唇部ナナギ、内周縦線ナナギ	口縁に沿う1本の文脈、縦帯文脈の文脈も見られる	1.8縦帯	-
50-37	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁	17.8	長石、角閃石、小礫、赤色粘土	口唇部ナナギ、内周縦線ナナギ	口唇部ナナギの文脈、縦帯文脈、縦帯下部の沈線による文脈	1.8縦帯	-
50-38	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁	33.8	長石、雲母、小礫	外周ナナギ、口唇部ナナギ、内周縦線ナナギ	口縁に沿う1本の文脈、縦線ナナギによる文脈	-	胎土に小礫を多く含む
50-39	砂土一握	遺物名	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁	25.7	長石、石英、雲母、小礫	外周ナナギ、口唇部ナナギ、内周縦線ナナギ	口縁に沿う1本の文脈、縦線ナナギによる文脈	-	-
50-40	砂土一握	遺物名	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁	39.9	長石、石英、雲母、角閃石、小礫	外周ナナギ一握ナナギ、口唇部ナナギ、内周縦線ナナギ	口縁に沿う1本の文脈、沈線による文脈	-	外周に黄色の付着物が豊富で見られる
50-41	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁	66.3	長石、角閃石、小礫	口唇部ナナギ、内周縦線ナナギ	口縁に沿う1本の文脈、1本の隆帯と左右に1本の隆帯が垂下し、縦文文脈	1.8縦帯	短柱一握
50-42	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁	46.3	長石、角閃石、小礫	外周ナナギ、口唇部ナナギ、内周ナナギ	口縁に沿う1本の文脈、1本の隆帯が垂下し、内帯に沈線に沿う、不明瞭であるが縦文と見られる縦線が見られる	不明瞭な凸凹の短柱文	短柱一握
50-43	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢口縁部	平口縁	19.7	長石、石英、角閃石、小礫	口唇部ナナギ、内周縦線ナナギ	口縁に沿う1本の文脈、1本の隆帯が垂下し、左右に縦文文脈	1.8縦帯	外周に黄色の付着物がよく見られる
50-44	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	111.7	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粘土	外周一部縦線ナナギ	縦線・縦帯の沈線による文脈	-	胎土に小礫を多く含む
50-45	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	62.1	長石、石英、小礫、赤色粘土	内周ナナギ	縦帯沈線による文脈	-	胎土に黄色の付着物がよく含む。短柱一握
50-46	砂土一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	52.6	長石、石英、小礫	外周縦線ナナギ	外周縦線による文脈	-	-
50-47	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	54.7	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粘土	外周縦線ナナギ、内周ナナギ	縦帯沈線による文脈	-	-
50-48	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	52.7	長石、雲母、小礫、赤色粘土	内周縦線ナナギ	縦帯沈線による文脈	-	-
51-49	砂土一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	66.9	長石、角閃石、小礫	外周縦線ナナギ、内周縦線ナナギ	縦帯沈線による文脈	-	胎土に小礫を多く含む
51-50	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	66.6	長石、小礫、赤色粘土	外周縦線ナナギ、内周ナナギ	縦帯沈線による文脈	-	胎土に小礫、赤色粘土を多く含む。外周に黄色の付着物がよく見られる。50、51同一体
51-51	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	106.4	長石、小礫、赤色粘土	外周縦線ナナギ、内周ナナギ	隆帯の短柱文と縦線が垂下するが縦線に縦線が見られる	-	胎土に小礫、赤色粘土を多く含む。内周に黄色の付着物がよく見られる。50、51同一体
51-52	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	深鉢部底	-	38.7	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粘土	内周縦線ナナギ横線、赤土ナギ	縦線・縦帯の沈線による文脈、沈線縦帯文脈文脈	1.8縦帯	-
51-53	砂土一握	遺物名	縄文内1	浅鉢突起	突起	109.6	長石、雲母、角閃石、小礫	内周1本ナギ	縦線・縦帯の沈線による文脈、内帯の縦文文脈と*横見られる	-	-
51-54	砂土丸形一握	遺物名	縄文内1	浅鉢口縁部	平口縁	88.9	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粘土	口唇部ナナギ、内周縦線ナナギ	口縁に沿う1本の文脈、縦線ナナギによる文脈、口唇部に縦線ナナギの短柱文あり	-	-
51-55	砂土丸形一握	遺物名	縄文内2	深鉢口縁部	平口縁	19.7	長石、雲母、小礫、赤色粘土	外周縦線ナナギ、内周縦線ナナギ	胎土に黄褐色の短柱文に沿って1本の隆帯が垂下し、隆帯上に押印を加える。半環状の短柱文、突起に沿って1本の隆帯が垂下し、突起内縁に沈線による文脈	-	-
51-56	砂土丸形一握	遺物名	縄文内2	深鉢口縁部	平口縁	29.3	長石、石英、角閃石、小礫	外周縦線ナナギ、内周縦線ナナギ	口縁に沿う1本の文脈と隆帯、隆帯上に縦文、内周にも口縁に沿う1本の文脈	-	-
51-57	砂土丸形一握	遺物名	縄文内2	深鉢口縁部	平口縁	19.9	長石、石英	外周縦線ナナギ、内周縦線ナナギ	胎土に黄褐色の短柱文に沿って1本の隆帯が垂下し、隆帯上に縦文文脈を施した文脈がある。縦線・縦帯の沈線による文脈、内帯の縦文文脈と*横見られる	短柱	外周に黄色の付着物がよく見られる
51-58	砂土丸形一握	遺物名	縄文内2	深鉢口縁部	平口縁	53.4	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粘土	外周縦線ナナギ、内周縦線ナナギ	口縁に沿う1本の隆帯、隆帯上に縦文文脈、胎土に黄褐色の短柱文に沿って1本の隆帯が垂下し、隆帯上に押印を加える。半環状の短柱文、突起に沿って1本の隆帯が垂下し、突起内縁に沈線による文脈	1.8縦帯	胎土に内周石を多く含む
51-59	砂土丸形一握	遺物名	縄文内2	深鉢口縁部	平口縁	30.1	長石、石英、角閃石、小礫	外周ナナギ、口唇部ナナギ、内周縦線ナナギ	口唇部ナナギの文脈、隆帯文脈、隆帯上部に同形短柱文が施され、胎土上に同形短柱文脈	-	-

第20表 第8次調査縄文時代土器観察表(9)

図番	器名	注記	遺物種	時期	部	形状	量(容)	胎土	文様	備考
52-91	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	73.7	真石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨光	縦文に上なる文様	-
52-92	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	62.4	真石、流石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨光	縦文に上なる文様	-
52-93	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	65.3	真石、石炭、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨光	縦文に上なる文様	-
52-94	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	口口上蓋部	口口上蓋部	128.7	真石、石炭、角閃石、小礫、赤色粘土	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-95	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	39.9	真石、角閃石、小礫、赤色粘土	内面磨光	縦文に上なる文様	-
52-96	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	67.4	真石、石炭、角閃石、小礫	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-97	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	58.5	真石、流石、角閃石、小礫、赤色粘土	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-98	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	92.3	真石、角閃石、小礫、赤色粘土	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-99	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	91.4	真石、角閃石、小礫	内面磨光	縦文に上なる文様	-
52-100	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	67.1	真石、角閃石、小礫、赤色粘土	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-101	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	46.4	真石、角閃石、小礫	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-102	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	61.3	真石、小礫、赤色粘土	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-103	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	48.6	真石、石炭、角閃石、小礫	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-104	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	30.5	真石、流石、角閃石、小礫	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-105	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	48.2	真石、流石、角閃石、小礫	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-106	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	51.9	真石、石炭、小礫、赤色粘土	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-107	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	56.7	真石、角閃石	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-108	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	37.2	真石、角閃石	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-109	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	33.0	真石、石炭、小礫	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-110	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	口口上蓋部	口口上蓋部	62.7	真石、石炭、角閃石、小礫、赤色粘土	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-111	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	口口上蓋部	口口上蓋部	62.6	真石、小礫	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-112	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	18.9	真石、石炭、角閃石	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-113	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	16.5	真石、角閃石、小礫	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-114	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	37.9	真石、石炭、小礫	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-115	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	16.5	真石、石炭、小礫	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-116	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	14.2	真石、石炭、小礫	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-117	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	66.6	真石、石炭、小礫	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-118	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	35.5	真石、石炭、角閃石、小礫、赤色粘土	外面磨光	縦文に上なる文様	-
52-119	砂鉢Ba類	遺物種	縄文Ⅱ	洗滌口縁部	洗滌口縁	86.7	真石、角閃石	外面磨光	縦文に上なる文様	-

第21表 第8次調査縄文時代石器観察表

図-番号	注 記	器 種	石 材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	遺存状況	備 考
41-66	杉8-15土坑	緑石	閃緑岩	(110.5)	(60.4)	39.5	293.1	器体下半欠損	表面に凹み有り 1号住居跡
41-67	杉8s-NQ27	石皿	安山岩	(137.5)	200.9	80.6	3229.5	断片	湾曲部全体磨痕面。1号住居跡
41-68	杉8s-NQ27	石皿	安山岩	(275.8)	269.1	88.9	7245.0	器体上半欠損	湾曲部全体磨痕面。1号住居跡
42-69	杉8-1住	打製石斧	ホルンフェルス	112.6	70.5	29.0	262.5	基部一部欠損	分銅形 1号住居跡
42-70	杉8-1住	石鏃	砂岩	70.4	49.0	14.8	68.4	完形	上下端に打欠き 1号住居跡
42-71	杉8-1住	磨石	ホルンフェルス	(67.2)	(27.4)	(44.0)	83.7	断片	両側面に磨痕有り 1号住居跡
42-72	杉8-1住	砥石	安山岩	79.5	53.8	34.0	97.4	断片	正面に凹み有り 1号住居跡
45-53	杉8s-NQ16・17土坑	石皿	閃緑岩	195.6	(97.6)	64.2	1786.4	断片	2号住居跡
48-1	杉835ピット	石核	黒曜石	25.5	35.4	12.9	9.7	完形	JPS5
54-120	杉8 N a一括	打製石斧	片状砂岩	96.0	47.1	19.4	100.6	完形	磨石?
54-121	杉8 一括	打製石斧	頁岩	93.7	79.1	26.0	199.3	基部一部欠損	分銅形
54-122	杉8 表土直下一括	打製石斧	ホルンフェルス	107.5	70.6	20.8	158.0	基部一部欠損	分銅形
54-123	杉8 A区一括	打製石斧	ホルンフェルス	77.3	68.3	20.5	110.5	断片	形状不明
54-124	杉8 N a一括	磨製石斧	砂岩	(69.2)	48.7	31.2	140.1	刃部断片	ほぼ全面が磨痕に覆われている
54-125	杉8 A区一括	石鏃	安山岩	68.5	44.2	16.4	60.9	完形	上下端に打欠き
54-126	杉8 A区s一括	石鏃	砂岩	62.8	45.8	16.7	75.8	完形	上下端に打欠き
54-127	杉8 一括	石鏃	砂岩	48.5	48.0	17.2	56.0	完形	上下端に打欠き
54-128	杉8 A区s一括	砥石	安山岩	(95.0)	58.8	41.6	350.3	器体上半欠損	両面に磨痕、下端に敲打痕有り
54-129	杉8 A区s一括	砥石	閃緑岩	(66.0)	71.8	52.1	405.0	器体上半欠損	両面に磨痕+凹み、下端に敲打痕有り
55-130	杉8 N中～下層	緑石	砂岩	145.6	56.4	50.6	546.4	完形	上下端に敲打痕有り
55-131	杉8 A区一括	磨石	閃緑岩	(100.3)	63.2	33.5	350.0	器体上半欠損	正面に凹み、両面に磨痕有り
55-132	杉8 一括	磨石	砂岩	(56.5)	89.0	46.0	333.4	断片	両面に磨痕有り
55-133	杉8 N a一括	凹石	花崗岩	90.5	84.0	41.2	496.9	完形	両面に磨痕および凹み有り
55-134	杉8 A区一括	磨痕を有する石器	砂岩	(53.0)	38.5	18.8	57.0	断片	表面に磨痕有り
55-135	杉8 A区s一括	石皿	砂岩	(82.1)	63.7	31.3	237.1	器体上半欠損	両面に磨痕有り

第6章 まとめ

杉久保遺跡第7次、8次調査では、中・近世、縄文時代中・後期の遺構と遺物を確認することができた。

中・近世

発見した遺構のうち、土坑やピット類については配置に規則性は認められず、建物跡を構成するような状況は認められなかった。

調査区西側市道沿いに認められた、第7、8次調査の2号溝状遺構は延長約20mを測り、推定上幅約4m、深さ1.6～2mの溝底の幅が狭い薬研堀状を呈する遺構である。この溝状遺構は、杉久保遺跡第1次調査時にその存在が確認されており、第3次調査地点でも中世溝の一部が確認されている(第56図)。第1次調査では北辺150m以上、東辺約180mにわたり調査が行われ、西辺は一部分の調査と平面プランの確認で約220mの長さを確認している。南辺は不明ながら、東西、北と丘陵の平坦部分を非常に広い範囲をこの溝状遺構により台形状に区画されており、区画面積は3.5ha以上はあるものと思われる。第1次調査の概要報告(1983 河野ほか)によれば「規模は確認面で上端幅3～3.5m、深さ1.8～2.3mで断面形は箱薬研をなし、埋積状態より同時期と考えられる長方形の土坑が溝と直交するものと、わずかにずれる形で、東側南北方向に10口、北側東西方向に1口検出され、規模は1～1.5×2～2.5m、深さは溝底よりさらに1～1.5m、確認面より3～4mである。」とされ、東辺の溝状遺構を中心に、付帯施設とみられる掘り込みがあったことがわかる。今回の調査では、2号溝状遺構の構築年代を示す遺物の出土はなかったが、第1次調査では、北東コーナー付近でかわらけと北宋銭(咸平元宝、祥符元宝)の出土が記録されている。溝状遺構に囲まれた内側に中世の建物遺構は確認されておらず、この溝状遺構がどのような目的で設けられたのかは不明である。杉久保北部土地区画整理事業前の航空写真を見ると、溝状遺構とほぼ同じ場所、方向に道路があり、中世から現代に至るまでの長い間、この地割が継承されてきたものとみられる。

市域では、他に大谷市場遺跡や河原口坊中遺跡等で同様の溝(堀)状遺構により土地を区画する様子が見られ、中世の土地利用の一端を示すものと思われる。

縄文時代

杉久保遺跡第1次調査では、縄文時代遺構として中期は勝坂式期約52軒、加曾利E式期約194軒、後期は称名寺式期約3軒、堀之内式期44軒、加曾利B1式期約3軒他、計299軒の住居跡が検出されており、他に中期、後期とも多数の土坑も検出されている。中期勝坂期の住居跡は丘陵上に広く分布しているが、加曾利E式期には丘陵南側のA地区を中心に環状集落が形成され、後期、堀之内式期になるとC地区の丘陵斜面部が集落の中心となる(第57図)。今回の調査地点は、第1次調査区の隣接地であり、第1次調査では堀之内式期の住居跡が集

中しており、後期集落の展開が予測された。

第7、8次調査の結果、時期がわかる住居跡としては、中期勝坂期とみられる住居跡1軒、後期とみられる住居跡が最低でも3軒確認できた。各住居跡とも黒色土中に構築され、深い掘り込みや壁溝もなく、明瞭な貼り床も見られなかった。特に後期の住居跡の平面プランの確認は難しく、炭化物を含有する土層に堀之内式期を中心とした土器等がまとまって出土する状況から、住居跡と判断し、遺物取り上げ・覆土除去後にピットプランを確認した。多数確認されたピットが住居跡に帰属するか否かの判別は非常に難しい状況である。

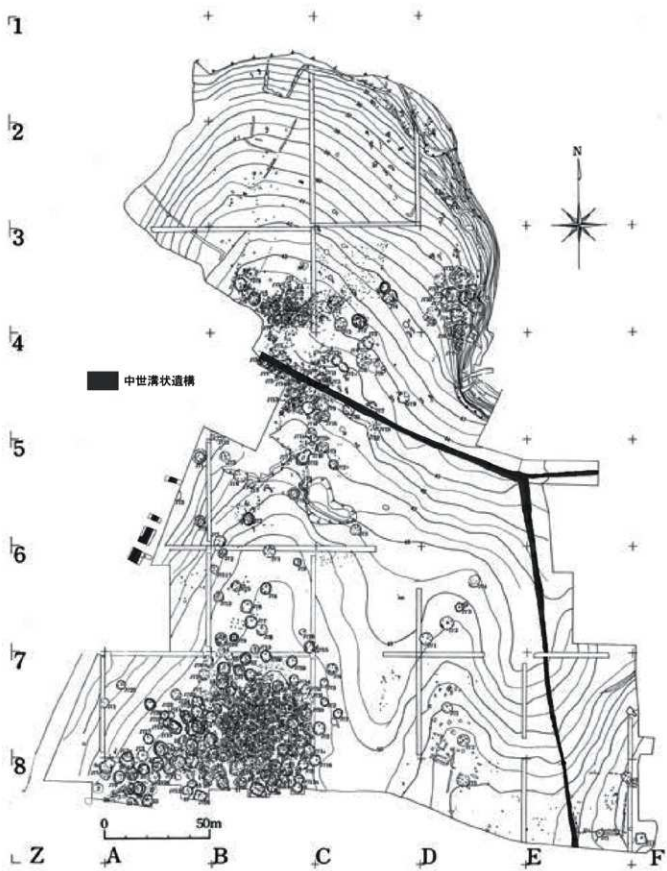
当該遺跡における縄文時代後期の住居形態の変遷としては、称名寺式段階から柄鏡形住居跡がみられるようになり、堀之内式期には張り出し部の規模などに変化がみられるとともに壁際柱穴の配列の不規則化、敷石が認められなくなり、加曾利B1式期にかけて住居部の平面形の方形化などの変遷がみられるとされている。(1983 河野ほか)。

第7・8次調査1号住居跡、第8次調査2号住居跡は、主柱穴と想定されるピットは認められず、一部は住居跡の壁際柱穴の配列の可能性もあるが、やや不規則な配列である。敷石は認められなかった。第7・8次調査1号住居跡は平面形が楕円形を呈し、第8次調査2号住居跡は不明瞭ながら入口施設を持つ柄鏡形住居跡の可能性が考えられる。また、確認された各住居跡の埋壘に注目してみると、第7・8次調査1号住居跡は後期の浅鉢、第8次調査2号住居跡は後期とみられる無文の深鉢、第8次調査3号住居跡は称名寺式の深鉢であった。各住居跡の重複関係については不明であるが、土器形式の比較からでは、第8次調査3号住居跡→第7・8次調査1号住居跡→第8次調査2号住居跡の年代順が想定され、大きくは縄文時代後期前葉から中葉の範囲でとらえられよう。

今回の調査により、本地点付近は杉久保遺跡内縄文時代後期の住居跡が集中することがより明白となり、杉久保遺跡の縄文時代後期集落跡としては第1次調査C地区東側斜面と、今回調査区付近の西側緩斜面の2か所を中心とすることが明らかとなった。この成果は杉久保遺跡の縄文時代集落の変遷をたどる資料となると同時に、市域において特に縄文時代後期の調査資料は少なく、該期の集落様相の一端を知るうえで貴重なものとなった。

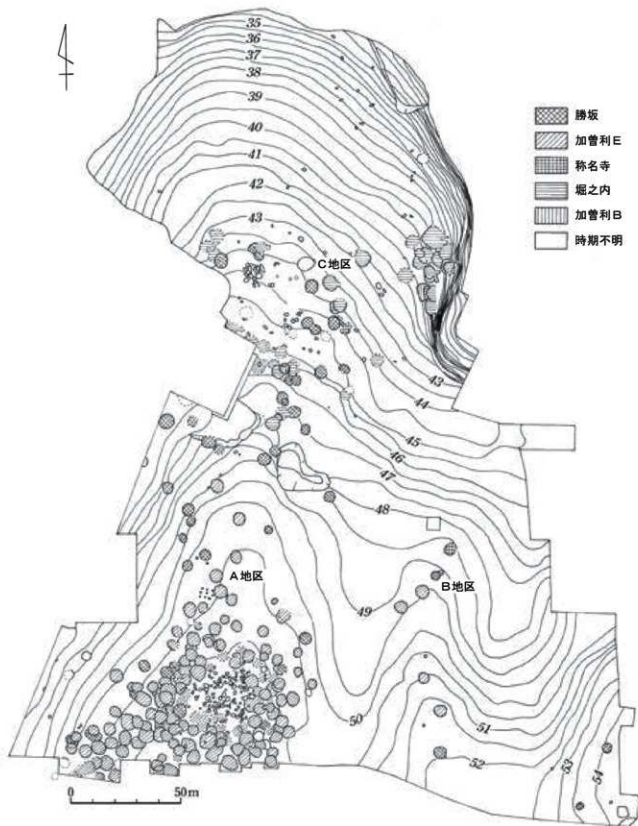
参考・引用文献

- 海老名市 1998 『海老名市史』資料編 原始・古代
- 河野一也ほか 1983 「杉久保遺跡」『日本窯業史研究所年報』Ⅱ 日本窯業史研究所
- 河野一也ほか 1984 「杉久保遺跡」『日本窯業史研究所年報』Ⅲ 日本窯業史研究所
- 縄文時代研究プロジェクトチーム 2015・2016 「神奈川県における縄文時代文化の変遷Ⅷ」『研究紀要 21かながわの考古学』（公財）かながわ考古学財団



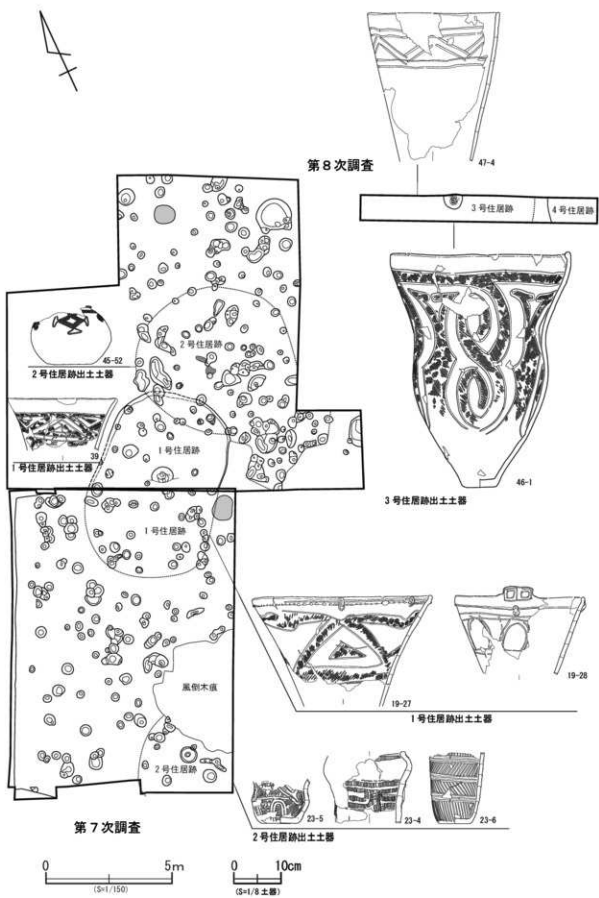
河野ほか 1984年 付図を一部改編転載

第56図 杉久保遺跡中世溝状遺構全体図



海老名市 1998年 掲載図を一部改編転載

第57図 杉久保遺跡第1次調査縄文時代集落展開図

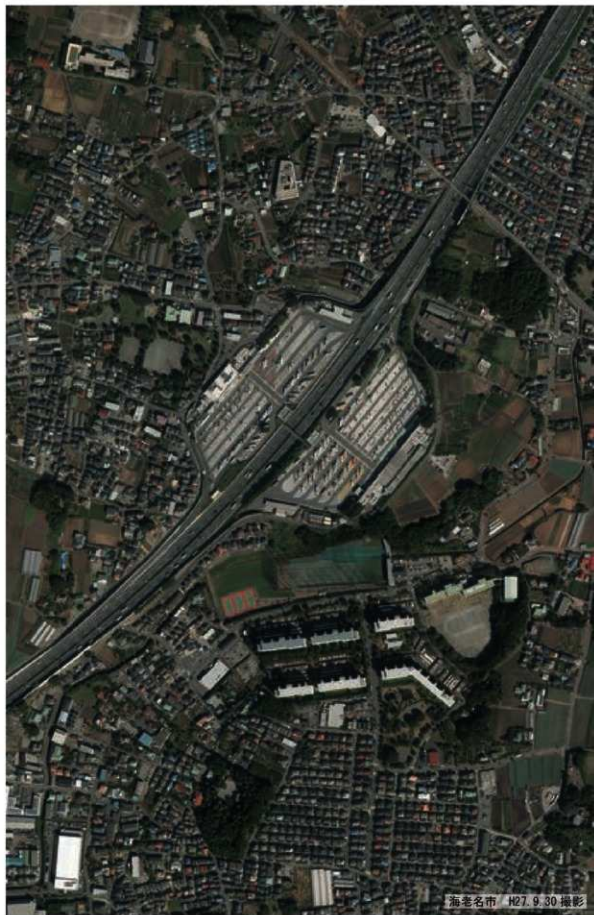


第58図 第7・8次調査縄文時代主要遺構・出土土器図

写真図版



第8次調査風景



海老名市 H27.9.30 撮影

調査地点周辺空撮



1. 昭和31(1956)年 杉久保遺跡周辺空撮(国土地理院所蔵)



2. 第7次調査地点調査前近景(北から)



1. 1・2号溝状遺構（北から）



2. 1・2号溝状遺構（南から）



3. 2号溝状遺構ビット調査状況（東から）



4. 2号溝状遺構土層堆積状況（北から）



5. 1・2号溝状遺構土層堆積状況（北から）

写真図版 4
(第7次調査)



1. 1号土坑 (南から)



2. 2号土坑土層堆積状況 (西から)



3. 1号住居跡遺物出土状況 (南東から)



1. 1号住居跡遺物出土状況（南西から）



2. 1号住居跡遺物出土状況（南から）

写真図版 6
(第7次調査)



1. 1号住居跡付近ビット確認状況(南から)



2. 1号住居跡完掘状況(南から)



1. 2号住居跡埋壺炉 (北から)



2. 2号住居跡確認状況 (東から)



3. 2号住居跡遺物出土状況 (南から)



4. 2号住居跡掘り方、土層堆積状況 (北から)



5. 風倒木痕 (東から)



1. 調査区東壁、風倒木痕土層堆積状況（西から）



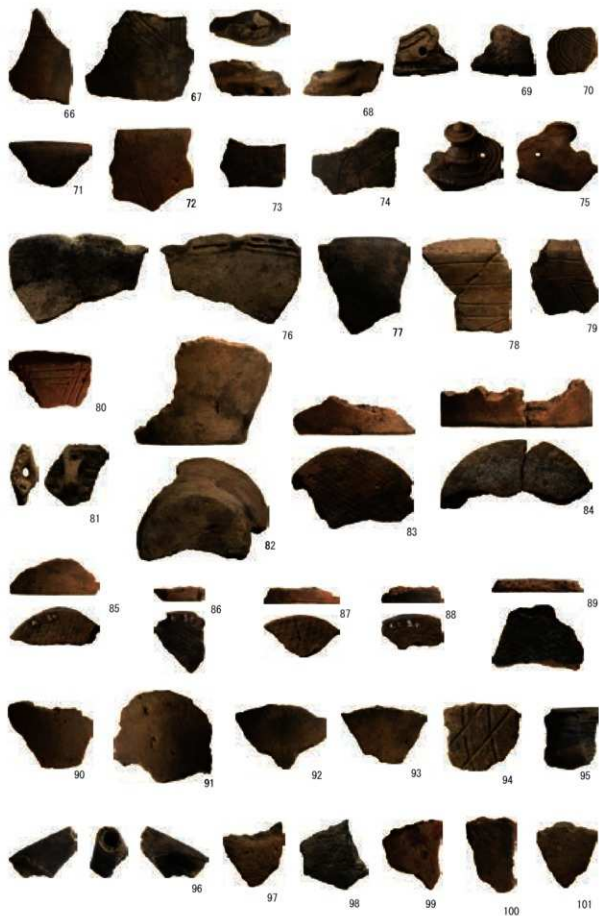
2. 縄文時代ピット完掘状況全景（北から）



第7次調査1号住居跡出土遺物(1)



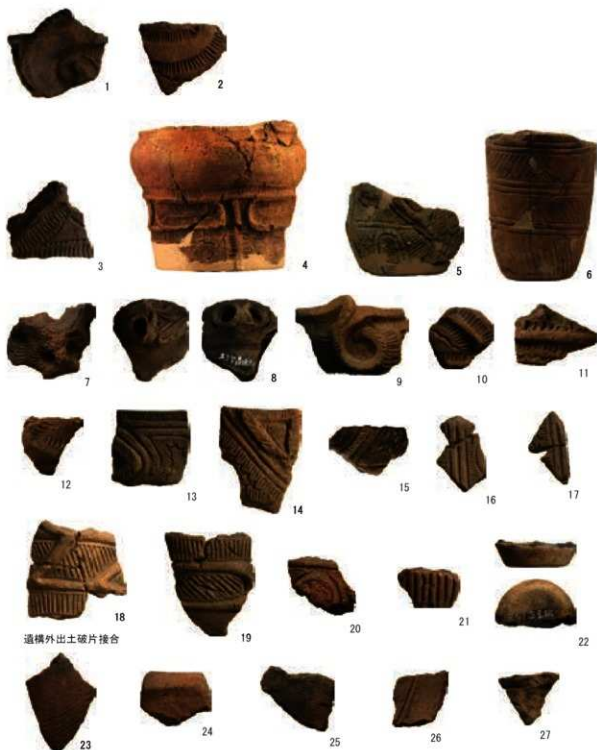
第7次調査1号住居跡出土遺物(2)



第7次調査1号住居跡出土遺物(3)



第7次調査1号住居跡出土遺物(4)



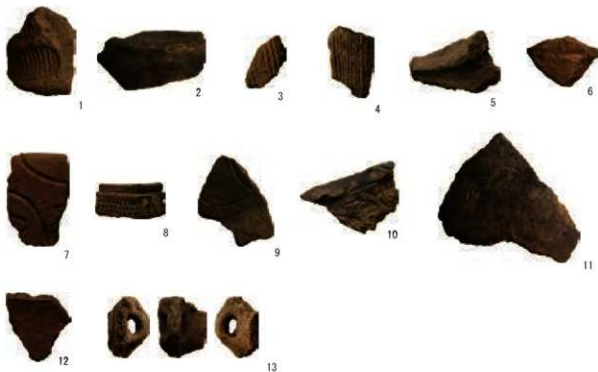
遺構外出土破片接合

第7次調査2号住居跡出土遺物



1 (JP34)

第7次調査ビット出土遺物



第7次調査2号溝状遺構出土遺物



第7次調査遺構外出土遺物(1)



第7次調査遺構外出土遺物(2)



第7次調査遺構外出土物(3)



第7次調査遺構外出土遺物 (4)



75



76



77

第7次調査遺構外出土遺物(5)



1. 第8次調査No.1調査区近景(西から)



2. No.1調査区調査状況(西から)



3. 3号住居跡埋壘(南から)



4. No.1調査区東側遺構(4号住居跡)確認状況



5. 3号住居跡遺物出土状況(南から)



1. 第8次調査No.2調査区近景(南西から)



2. 2号溝状遺構調査状況(南から)



1. 中・近世1号土坑、ピット (南から)



2. 1号住居跡遺物出土状況 (北から)



3. 1号住居跡埋壘 (南から)



4. 1号住居跡石器出土状況



5. 1号住居跡完掘状況 (東から)



1. 2号住居跡埋壘調査状況(南から)



2. 2号住居跡埋壘(南から)



3. 2号住居跡炭化物出土状況(南から)



4. 2号住居跡出土土器



5. 2号住居跡土層堆積状況(西から)



1. 2号住居跡完掘状況（南東から）



2. 2号住居跡推定入口施設付近完掘状況（西から）



1. 1号土坑 (東から)



2. 1号土坑遺物出土状況



3. 1号土坑完掘 (西から)



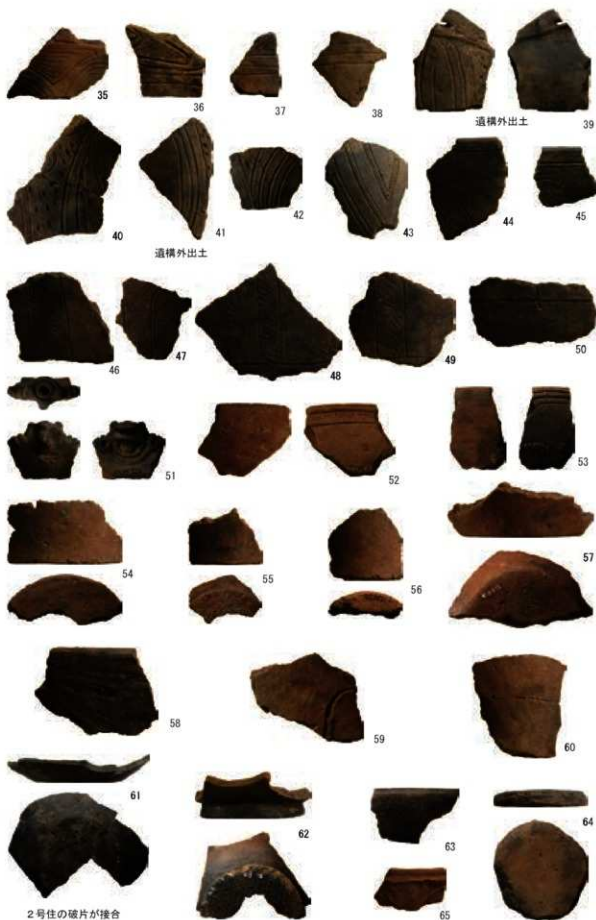
4. 2号土坑 (西から)



5. 縄文時代ビット完掘状況 (東から)



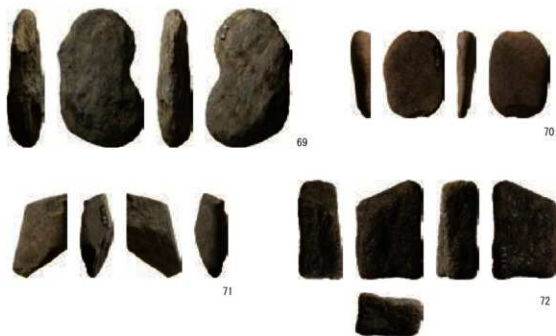
第8次調査1号住居跡出土遺物(1)



第8次調査1号住居跡出土遺物(2)



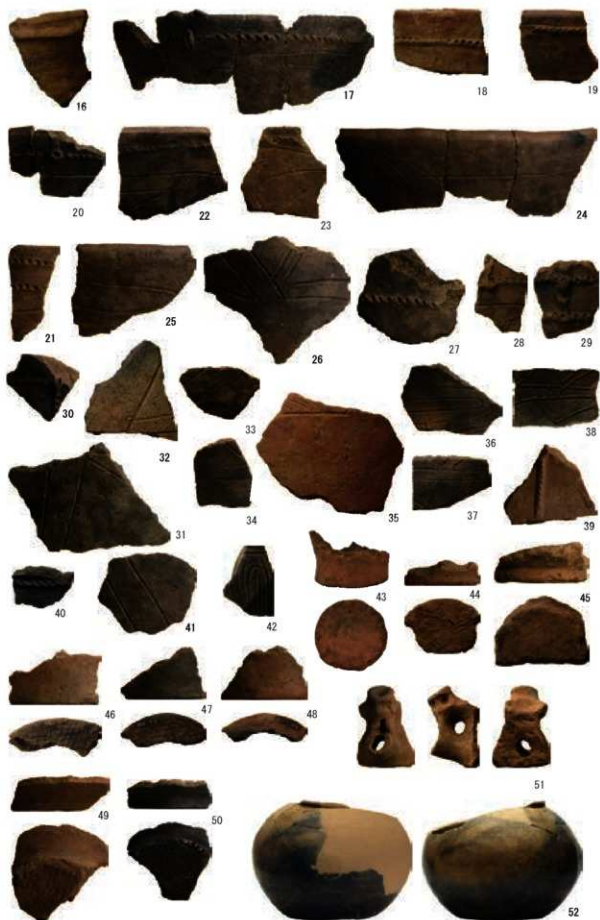
第8次調査1号住居跡出土遺物(3)



第8次調査1号住居跡出土遺物(4)



第8次調査2号住居跡出土遺物(1)



第8次調査2号住居跡出土遺物(2)



53

第8次調査2号住居跡出土遺物(3)



1
JP35

2
JP35

3
JP37

第8次調査ビット出土遺物



1

第8次調査3号住居跡出土遺物(1)



第8次調査1号土坑出土遺物



第8次調査3号住居跡出土遺物(2)



第8次調査遺構外出土物(1)



第8次調査遺構外出土遺物（2）



第8次調査遺構外出土遺物 (3)





131



132



133



134



135

第8次調査遺構外出土遺物（5）

報 告 書 抄 録

ふりがな	すぎくばいせきはくつちょうさほうくしょーだい7・8じょうさー							
書名	杉久保遺跡発掘調査報告書－第7・8次調査－							
編著者名	押方みはる、和田山千曉							
編集機関	海老名市教育委員会							
所在地	〒243-0422 神奈川県海老名市中新田377番地 Tn046-235-4925							
発行年月日	2022年3月25日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
杉久保遺跡第7次調査	神奈川県 海老名市 杉久保北 四丁目1903番2	14215	10	35° 25′ 35″	139° 24′ 00″	20170111～ 20170210	108	個人専用 住宅
杉久保遺跡第8次調査	神奈川県 海老名市 杉久保北 四丁目1903番5	14215	10	35° 25′ 36″	139° 24′ 00″	20170206～ 20170210	9.3	個人専用 住宅
						20170414～ 20170529	130	個人専用 住宅
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
杉久保遺跡第7次調査	集落跡	中・近世 縄文時代	溝状遺構2、 土坑2、 性格不明遺構1 (中・近世) 住居跡2、 ピット101 (縄文)	陶磁器、 縄文土器、 石器				
杉久保遺跡第8次調査	集落跡	中・近世 縄文時代	溝状遺構2、 ピット9、 土坑1(中・近世) 住居跡4、土坑2、 ピット141 (縄文)	縄文土器、 石器				
要 約	第7・8次調査では、南北方向に中世の2号溝状遺構が確認され、これまでに杉久保遺跡で確認されている大規模な中世区画溝の一部とみられる。縄文時代の遺構としては、中期勝坂期の住居跡1軒のほか称名寺式期から堀之内式期後期の住居跡が調査区内に少なくとも3軒以上あったことがわかった。また、縄文時代のピットが非常に多く確認された。杉久保遺跡は丘陵の南西側に縄文時代中期の住居跡が集中しており、北側に縄文時代後期の住居跡が多くみられる傾向にある。今回の調査区周辺に縄文時代後期集落の一つのまとまりがあったものとみられる。							

- ・文化財保護、教育普及、学術研究を目的とする場合は、著作権者の承諾なくこの報告書の一部を複製して利用できます。なお、利用にあたっては出展を明記してください。
- ・この報告書に係る記録写真(写真類を含む)は、海老名市教育委員会が保管していますので、利用する場合は連絡の上、必要な手続きをとってください。

神奈川県海老名市

杉久保遺跡発掘調査報告書－第7・8次調査－

発行日 令和4年3月25日

編集 海老名市教育委員会

発行 海老名市教育委員会教育部教育総務課文化財係
神奈川県海老名市中新田377番地 Tn046-235-4925

